

目次（ 2026年度シラバス）

<東京キャンパス>

フレッシュマンセミナー	1
フレッシュマンセミナー〔再履〕	4
基礎ゼミナールⅠ〔①〕	7
基礎ゼミナールⅠ〔②〕	9
基礎ゼミナールⅠ〔③〕	11
基礎ゼミナールⅠ〔④〕	13
基礎ゼミナールⅠ〔⑤〕	15
基礎ゼミナールⅠ〔⑥〕	17
基礎ゼミナールⅠ〔⑦〕	19
基礎ゼミナールⅠ〔⑧〕	21
基礎ゼミナールⅠ〔再履〕	23
基礎ゼミナールⅡ〔①〕	25
基礎ゼミナールⅡ〔②〕	27
基礎ゼミナールⅡ〔③〕	29
基礎ゼミナールⅡ〔④〕	31
基礎ゼミナールⅡ〔⑤〕	33
基礎ゼミナールⅡ〔⑥〕	35
基礎ゼミナールⅡ〔⑦〕	37
基礎ゼミナールⅡ〔⑧〕	39
基礎ゼミナールⅡ〔⑨〕	41
基礎ゼミナールⅡ〔⑩〕	43
英語Ⅰ〔①〕	45
英語Ⅰ〔②〕	47
英語Ⅰ〔③〕	50
英語Ⅰ〔④〕	52
英語Ⅰ〔⑤〕	55
英語Ⅰ〔⑥〕	57
英語Ⅰ〔再履〕	59
英語Ⅲ〔①〕	61
英語Ⅲ〔②〕	64
コンピュータリテラシーⅠ〔①〕	66
コンピュータリテラシーⅠ〔②〕	67
コンピュータリテラシーⅠ〔③〕	68
コンピュータリテラシーⅠ〔④〕	69
コンピュータリテラシーⅠ〔再履〕〔オンデマンド〕	70
コンピュータリテラシーⅢ	71
TOEICⅠ〔①〕	73
TOEICⅠ〔②〕	75
TOEICⅢ	78
体育実技Ⅰ〔a〕	80
体育実技Ⅰ〔b〕	82
心理学	84
数学基礎Ⅰ	86
ボランティア活動〔通年集中〕	87
キャリアディベロップメントⅠ	88
経営学概論	90
経済学概論〔週2オンデマンド〕	92
マーケティング総論	93
簿記入門Ⅰ〔①〕	95
簿記入門Ⅰ〔②〕	97
簿記入門Ⅰ〔再履〕	99

目次（ 2026年度シラバス）

＜東京キャンパス＞	
社会調査法 [オンデマンド]	101

目次（ 2026年度シラバス）

＜東京キャンパス＞

ビジネス特別講義Ⅰ	102
ビジネスマナー	104
地域企業経営論	106
プレゼンテーション技法	108
比較文化論	110
韓国語Ⅰ	112
VR・AR入門概論	114
ドローンの社会応用と演習	115
情報科学とAI入門〔前期集中〕	117
プログラミング入門(Python)	120
ホテル経営Ⅰ	121
流通論	123
消費者行動論	125
原価計算	127
財務会計	129
会社法Ⅰ	131
経営戦略論	133
メディア・リテラシー〔週2オンデマンド〕	136
データサイエンス入門	137
ホスピタリティ論	138
観光産業論〔前期集中〕	140
サービスビジネス実務論Ⅰ	141
エアライン・サービス論	143
現代経営実践演習基礎Ⅰ〔キャリア系〕	145
現代経営実践演習基礎Ⅲ	147
フィールドワーク〔前期集中〕	149
海外研修Ⅰ	151
資格検定対策Ⅰ(語学系)	152
資格検定対策Ⅴ(ICTスキル系)	155
インターンシップ(企業)Ⅰ〔認定科目〕	157
海外研修Ⅱ	159
海外研修Ⅲ	160
海外研修Ⅳ	161

科目コード	T110403				区 分	教養科目 キャリア領域			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	栗本 育三郎／董 航			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、大学で主体的に学ぶための基礎的能力を身につけることを目的とする。大学での学習方法、情報収集、ノートテイキング、レポート作成、プレゼンテーションなどのアカデミックスキルを学ぶとともに、社会人ゲストによる講義を通して社会や仕事への理解を深める。また、共感力・傾聴力・主体性などのメタ認知能力の育成にも重点を置く。

<授業の到達目標>

本授業の履修を通して、学生は以下の能力を身につける。

- － 大学で主体的に学ぶための基本的なノートテイキングなどの学習スキルを身につける。
- － 情報収集、資料の整理、レポート作成、プレゼンテーションなどの基礎的なアカデミックスキルを理解し、実践できる。
- － 他者と協働して学ぶ姿勢とコミュニケーション能力を身につける。
- － 傾聴力、共感力、対話力などの非認知能力を理解し、グループワークや議論を通して実践できる。
- － 社会や企業の活動について理解を深める。
- － ゲスト講義などを通して多様な職業や社会課題について学び、社会とのつながりを理解する。
- － 自分自身の強みや関心を理解し、将来のキャリアについて考えることができる。
- － 自己理解を深めながら大学4年間の学習目標を設定し、自身の成長につなげることができる。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話のノートテイキング）
2. グループワーク
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り

少人数（2－3人）や中人数（4－5人）のグループになって、ディスカッションを行うことがある。また、グループで話し合ったことを、端的にまとめて発表することがある。積極的な態度で参加することが望まれる。

<準備学習等（予習・復習）※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：講義の準備等事前に告知された課題 1時間、 復習：テーマに即したノートに記述するレポート等の作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、課題① 50%（ノートテイキング、レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学で学ぶとは何か／主体性と成長マインドセット（中山先生）	・ 大学と高校の違い ・ 主体性 ・ 挑戦と失敗 ・ 講義録取りまとめ ・ 事前配布資料の閲覧と要約（抄録式読書術） ・ アカデミア時間空間環境とアカデミアの立場
2	大学生活の時間管理と学習習慣（アカデミア時間空間環境）	・ 時間管理 ・ 学習習慣 ・ 講義録 ・ 開かれた討論 ・ 講義録取りまとめ
3	レポートの書き方①	・ 事前配布資料の閲覧と要約 ・ 問いの立て方 ・ レポート構造

4	大学での情報収集	・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約 ・インターネット検索 ・情報の信頼性
5	プレゼンテーションの基礎	・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約 ・伝わる話し方 ・構成
6	コミュニケーションと傾聴力（中山先生）	・講義録取りまとめ ・傾聴 ・共感 ・対話
7	グループディスカッション 1	・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約 ・KJ法で上がった社会課題と解決策について、ディスカッションし、まとめて、グループ発表を行う。 ・講義録取りまとめ
8	ゲストスピーカ講演会 1	社会人講義① ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約
9	グループディスカッション 2	・KJ法で上がった社会課題と解決策について、ディスカッションし、まとめて、グループ発表を行う。 ・講義録取りまとめ
10	ゲストスピーカ講演会2	社会人講義② ・講義録取りまとめ
11	ゲストスピーカ講演会3	社会人講義③ ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約
12	社会課題の発見	・グループで、KJ法等のツールを用いて、社会課題と解決策をまとめる。 ・講義録取りまとめ
13	ゲストスピーカ講演会 4	社会人講義④ ・講義録取りまとめ
14	自己理解とリフレクション（中山先生）	・振り返り ・自己成長 ・講義録取りまとめ提出 ・事前配布資料の閲覧と要約
15	後期オリエンテーション	・後期始まりにあたり、履修計画、後期日程のオリエンテーションを行う。 ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約
16	キャリア形成とは何か	・キャリア形成について、ジョブカードやエントリーシート記述を行い、どのように書くか体験する。 ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約
17	チームビルディングアクティビティ	・主体性 ・協働 ・講義録取りまとめ
18	リーダーシップとチームワーク（中山先生）	・主体性 ・協働 ・講義録取りまとめ
19	ゲストスピーカ講演会5	社会人講義⑤ ・講義録取りまとめ
20	ゲストスピーカ講演会6	社会人講義⑥ ・講義録取りまとめ
21	ゲストスピーカ講演会7	社会人講義⑦ ・講義録取りまとめ
22	ゲストスピーカ講演会8	社会人講義⑧ ・講義録取りまとめ
23	ゲストスピーカ講演会9 ・講義録取りまとめ	社会人講義⑨
24	ゲストスピーカ講演会10	社会人講義⑩ ・講義録取りまとめ
25	レジリエンスと挑戦（中山先生）	・困難への対応 ・成長

26	自己分析	・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約 ・デュセイが開発した，交流分析手法エゴグラム等のツールを用いて，自己と他者との交流分析を実施する．
27	キャリアプレゼンテーション	・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約 ・5年後，10年後，20年後のキャリアイメージを記述し，4年間の学習計画，課外活動，社会活動，学園生活，研究発表活動，資格取得など記述し，プレゼンテーションする．
28	総括	・講義録取りまとめ ・事前配布資料の速読と要約 ・大学4年間の目標とゴールを設定する ・講義録取りまとめ提出

科目コード	T110403				区 分	教養科目 キャリア領域			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [再履]				担当者名	董 航／栗本 育三郎			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、大学で主体的に学ぶための基礎的能力を身につけることを目的とする。大学での学習方法、情報収集、ノートテイキング、レポート作成、プレゼンテーションなどのアカデミックスキルを学ぶとともに、社会人ゲストによる講義を通して社会や仕事への理解を深める。また、共感力・傾聴力・主体性などのメタ認知能力の育成にも重点を置く。

<授業の到達目標>

本授業の履修を通して、学生は以下の能力を身につける。

- － 大学で主体的に学ぶための基本的なノートテイキングなどの学習スキルを身につける。
- － 情報収集、資料の整理、レポート作成、プレゼンテーションなどの基礎的なアカデミックスキルを理解し、実践できる。
- － 他者と協働して学ぶ姿勢とコミュニケーション能力を身につける。
- － 傾聴力、共感力、対話力などの非認知能力を理解し、グループワークや議論を通して実践できる。
- － 社会や企業の活動について理解を深める。
- － ゲスト講義などを通して多様な職業や社会課題について学び、社会とのつながりを理解する。
- － 自分自身の強みや関心を理解し、将来のキャリアについて考えることができる。
- － 自己理解を深めながら大学4年間の学習目標を設定し、自身の成長につなげることができる。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話のノートテイキング）
2. グループワーク
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り

少人数（2～3人）や中人数（4～5人）のグループになって、ディスカッションを行うことがある。また、グループで話し合ったことを、端的にまとめて発表することがある。積極的な態度で参加することが望まれる。

<準備学習等（予習・復習）※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：講義の準備等事前に告知された課題 1時間、 復習：テーマに即したノートに記述するレポート等の作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、課題① 50%（ノートテイキング、レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学で学ぶとは何か／主体性と成長マインドセット（中山先生）	・ 大学と高校の違い ・ 主体性 ・ 挑戦と失敗 ・ 講義録取りまとめ ・ 事前配布資料の閲覧と要約（抄録式読書術） ・ アカデミア時間空間環境とアカデミアの立場
2	大学生活の時間管理と学習習慣（アカデミア時間空間環境）	・ 時間管理 ・ 学習習慣 ・ 講義録 ・ 開かれた討論 ・ 講義録取りまとめ
3	レポートの書き方①	・ 事前配布資料の閲覧と要約 ・ 問いの立て方 ・ レポート構造

4	大学での情報収集	・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約 ・インターネット検索 ・情報の信頼性
5	プレゼンテーションの基礎	・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約 ・伝わる話し方 ・構成
6	コミュニケーションと傾聴力（中山先生）	・講義録取りまとめ ・傾聴 ・共感 ・対話
7	グループディスカッション 1	・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約 ・KJ法で上がった社会課題と解決策について、ディスカッションし、まとめて、グループ発表を行う。 ・講義録取りまとめ
8	ゲストスピーカ講演会 1	社会人講義① ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約
9	グループディスカッション 2	・KJ法で上がった社会課題と解決策について、ディスカッションし、まとめて、グループ発表を行う。 ・講義録取りまとめ
10	ゲストスピーカ講演会2	社会人講義② ・講義録取りまとめ
11	ゲストスピーカ講演会3	社会人講義③ ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約
12	社会課題の発見	・グループで、KJ法等のツールを用いて、社会課題と解決策をまとめる。 ・講義録取りまとめ
13	ゲストスピーカ講演会 4	社会人講義④ ・講義録取りまとめ
14	自己理解とリフレクション（中山先生）	・振り返り ・自己成長 ・講義録取りまとめ提出 ・事前配布資料の閲覧と要約
15	後期オリエンテーション	・後期始まりにあたり、履修計画、後期日程のオリエンテーションを行う。 ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約
16	キャリア形成とは何か	・キャリア形成について、ジョブカードやエントリーシート記述を行い、どのように書くか体験する。 ・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約
17	チームビルディングアクティビティ	・主体性 ・協働 ・講義録取りまとめ
18	リーダーシップとチームワーク（中山先生）	・主体性 ・協働 ・講義録取りまとめ
19	ゲストスピーカ講演会5	社会人講義⑤ ・講義録取りまとめ
20	ゲストスピーカ講演会6	社会人講義⑥ ・講義録取りまとめ
21	ゲストスピーカ講演会7	社会人講義⑦ ・講義録取りまとめ
22	ゲストスピーカ講演会8	社会人講義⑧ ・講義録取りまとめ
23	ゲストスピーカ講演会9 ・講義録取りまとめ	社会人講義⑨
24	ゲストスピーカ講演会10	社会人講義⑩ ・講義録取りまとめ
25	レジリエンスと挑戦（中山先生）	・困難への対応 ・成長

26	自己分析	・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約 ・デュセイが開発した，交流分析手法エゴグラム等のツールを用いて，自己と他者との交流分析を実施する．
27	キャリアプレゼンテーション	・講義録取りまとめ ・事前配布資料の閲覧と要約 ・5年後，10年後，20年後のキャリアイメージを記述し，4年間の学習計画，課外活動，社会活動，学園生活，研究発表活動，資格取得など記述し，プレゼンテーションする．
28	総括	・講義録取りまとめ ・事前配布資料の速読と要約 ・大学4年間の目標とゴールを設定する ・講義録取りまとめ提出

科目コード	T110401				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ 〔①〕				担当者名	董 航／都築 智津子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
 DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのテーマで調べる 「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ オリエンテーション	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める(1)
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める(1)
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める(2)
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める(2)
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅠ〔②〕				担当者名	鈴木 達郎／渡辺 亮			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
 DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのテーマで調べる 「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ オリエンテーション	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める(1)
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める(1)
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める(2)
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める(2)
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ 〔③〕				担当者名	馬場 哲也／末原 聡			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリーツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのテーマで調べる 「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ オリエンテーション	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める(1)
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める(1)
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める(2)
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める(2)
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅠ 〔④〕				担当者名	藪内 正樹／尾崎 信之			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
 DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのテーマで調べる 「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ オリエンテーション	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める(1)
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める(1)
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める(2)
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める(2)
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ〔⑤〕				担当者名	栗本 育三郎／古賀 敢人			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのテーマで調べる 「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ オリエンテーション	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める(1)
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める(1)
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める(2)
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める(2)
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅠ〔⑥〕				担当者名	田原 俊司／Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
 DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのテーマで調べる 「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ オリエンテーション	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める(1)
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める(1)
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める(2)
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める(2)
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ〔⑦〕				担当者名	武末 朝生/佐々木 庸子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
 DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのテーマで調べる 「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ オリエンテーション	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める(1)
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める(1)
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める(2)
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める(2)
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅠ〔⑧〕				担当者名	安井 良彰／伊藤 敦司			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する （図書館ライブラリツアー）
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのテーマで調べる 「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ オリエンテーション	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める(1)
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める(1)
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める(2)
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める(2)
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110401				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅠ [再履]				担当者名	田原 俊司／董 航			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
 DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション ノートテイキングについて	本科目の開講意義やその内容設定について理解する ノートテイキングについて知る
2	課外活動（いちご狩り）	地域産業に着目し、身近なビジネスに興味を持つ
3	大学での学び1-①～講義受講の基本～	1年間の夢・目標設定・活動計画について整理する
4	大学での学び1-②～文章の書き方～	情報収集の仕方について理解する (図書館ライブラリツアー)
5	大学での学び1-③～資料収集～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート作成指導
6	大学での学び1-④～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート添削
7	大学での学び1-⑤～情報精査～	「この時代だからこそヒトにしか出来ないこと」レポート内容プレゼンテーション
8	大学での学び2-①～講義受講の基本～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人ベース） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
9	大学での学び2-②～文章の書き方～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
10	大学での学び2-③～資料収集～	個人で調べたことをグループに情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
11	大学での学び2-④～情報精査～	個人で調べたことをグループに情報共有する（個人→グループ）

12	大学での学び2-⑤～グループディスカッション～	「市川市の○○」についてのテーマで調べる 「市川市の○○」についてのグループごとの発表準備を行う
13	大学での学び2-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についてのグループごと発表を行う
14	前期まとめ オリエンテーション	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導
15	個人目標設定	前期の振り返り、後期における個人目標シート作成
16	大学での学び3-①～資料収集～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（グループ→個人） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
17	大学での学び3-②～情報精査～	個人で調べたことをゼミ全体で情報共有する（個人→グループ） 「市川市の○○」についてのテーマで調べる
18	大学での学び3-③～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
19	大学での学び3-④～グループディスカッション～	「市川市の○○」についての発表準備を行う
20	大学での学び3-⑤～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表練習を行う
21	大学での学び3-⑥～プレゼンテーション～	「市川市の○○」についての発表を行う
22	コースについて①	各コースの概要についての説明
23	コースについて②	コース別課外活動で学びを深める(1)
24	コースについて③	コース別課外活動で学びを深める(1)
25	コースについて④	コース別課外活動で学びを深める(2)
26	コースについて⑤	コース別課外活動で学びを深める(2)
27	コースについて⑥	コース意向調査の実施、まとめレポート作成
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ 〔①〕				担当者名	上田 隆穂／都築 智津子			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 (ゼミ面談)
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 (ゼミ面談)
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ 〔②〕				担当者名	鈴木 達郎／渡辺 亮			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 (ゼミ面談)
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 (ゼミ面談)
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ 〔③〕				担当者名	馬場 哲也／末原 聡			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 (ゼミ面談)
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 (ゼミ面談)
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ 〔④〕				担当者名	藪内 正樹／尾崎 信之			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 (ゼミ面談)
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 (ゼミ面談)
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ 〔⑤〕				担当者名	栗本 育三郎／古賀 敢人			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 (ゼミ面談)
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 (ゼミ面談)
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ 〔⑥〕				担当者名	田原 俊司／Everett Ofori			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有
大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
 DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 (ゼミ面談)
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 (ゼミ面談)
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ 〔⑦〕				担当者名	武末 朝生／佐々木 庸子			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 (ゼミ面談)
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 (ゼミ面談)
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ 〔⑧〕				担当者名	安井 良彰／伊藤 敦司			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 (ゼミ面談)
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 (ゼミ面談)
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ〔9〕				担当者名	前野 一夫／董 航			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 (ゼミ面談)
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 (ゼミ面談)
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ 〔⑩〕				担当者名	國井 裕			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。
2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。
3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

Google ClassroomやUNIVERSAL PASSPORTなどのツールを用いて、授業情報の共有、授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法を導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）

復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、クラス共創度 20%、プレゼンテーション・レポート課題 60%

※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 個人目標設定	前期における個人目標シート作成 (ゼミ面談)
2	1年次の学びを振り返り	1年次の学びの振り返りレポートの作成 (ゼミ面談)
3	就活学力試験について	就活学力試験を通しての振り返り
4	専門ゼミナールについて①	専門ゼミナールの概要についての説明
5	自由研究①	自由研究の概要についての説明
6	自由研究②	自由研究の探究活動
7	自由研究③	自由研究の探究活動
8	専門ゼミナールについて②	各専門ゼミナールの説明会①
9	専門ゼミナールについて③	各専門ゼミナールの説明会②
10	専門ゼミナールについて④	専門ゼミナール志願理由書の指導
11	自由研究④	各自由研究のプレゼンテーション
12	専門ゼミナールについて⑤	専門ゼミナール面接日①
13	専門ゼミナールについて⑥	専門ゼミナール面接日②
14	前期まとめ	前期の振り返り、試験について説明、夏休みに向けての指導

15	オリエンテーション 個人目標設定	後期における個人目標シート作成
16	専門ゼミナール別活動①	専門ゼミナールの活動概要についての説明
17	専門ゼミナール別活動②	専門領域の探究活動（導入）
18	専門ゼミナール別活動③	専門領域の探究活動（導入）
19	専門ゼミナール別活動④	専門領域の探究活動の（導入）
20	専門ゼミナール別活動⑤	専門領域の探究活動の実践（展開）
21	専門ゼミナール別活動⑥	専門領域の探究活動の実践（展開）
22	専門ゼミナール別活動⑦	専門領域の探究活動の実践（展開）
23	専門ゼミナール別活動⑧	専門領域の探究活動の実践（展開）
24	専門ゼミナール別活動⑨	専門領域の探究活動の実践（展開）
25	専門ゼミナール別活動⑩	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
26	専門ゼミナール別活動⑪	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
27	専門ゼミナール別活動⑫	専門領域の探究活動の実践（まとめ）
28	後期まとめ	後期の振り返り、試験について説明、春休みに向けての指導

科目コード	T110101				区 分	教養			
授業科目名	英語 I 〔①〕				担当者名	古賀 敢人			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、他者との会話演習を実施することで、必要となる情報を英語で時間をかけることなく伝える練習を行う。また、まとまった英語を聞き取り、その内容について、自身の言葉で説明する練習を行う。

<授業の到達目標>

1. 基本的な文法を用いて、他者に英語で発話を行うことができる。
2. 他者が話す英語の質問を聞き取り、回答することができる。
3. 他者が話すまとまった英語を聞き取り、その内容を把握することができる。

<授業の方法>

本授業では、講義、演習、ペアワークおよびグループ活動を組み合わせながら授業を進める。語彙・文法・リスニング・リーディング等の英語運用能力を高めるため、実践的な課題やミニゲーム等も取り入れ、学生の主体的な参加を促す。
また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。
授業では理解度を確保するための小テストや演習を適宜実施し、学生同士のディスカッションや発表活動を通して学習内容の定着を図る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有。クラスメートとペアまたはグループとなり、英語を用いたやりとりを実施する。具体的には、指定された構文を用いて自ら文を作成しそれを他者に伝える。また、他者から与えられた情報について聞き取り、内容についてペアまたはグループ内で共有する活動を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内容の理解を深めるため、毎回の授業に対して以下の準備学習を行うこと。

予習（約90分）

授業で扱う語彙・表現・テーマについて事前に確認し、指定された教材の該当箇所を読み、重要語彙や内容の概要を把握しておく。また、必要に応じてオンライン教材（Google Classroom等）に掲載された資料や動画を確認し、授業内容について自分なりの疑問点を整理しておく。

復習（約90分）

授業で学習した語彙・表現・文法・リスニング内容を整理し、ノートの見直しおよび課題演習を行う。特に英語運用能力向上のため、音読・シャドーイング・語彙確認等を行い、理解を定着させる。また、Google Classroom等で提示された復習課題やオンライン教材に取り組み、学習内容の定着を図る。

合計：約180分（3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題：65点（5点×13回）

口頭試問①：15点

口頭試問②：20点

<教科書>

使用しない（独自プリント配布）

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	自己紹介の英語	相手に響く英語での自己紹介とその深掘りに必要な語句を習得する。
2	現在形・過去形：習慣に関する英語	現在形と過去形のほか、頻度副詞を用いて、グループで情報を集め、集めた内容について英語で共有する。
3	未来表現：未来の予定について述べる	be going to, will, be V-ingの表現を用いて、個人のスケジュールを説明するほか、他者に質問をしながら予定を埋める練習を行う。
4	助動詞：能力について述べる	can, be able toの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。

5	助動詞：義務・提案の表現	must, have to, shouldの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。
6	助動詞：可能性の表現	must, should, may, can, will, would, couldの表現を用いて可能性を説明する練習を行う。
7	口頭試問①	第1回～第6回の表現を用いて、ひとりずつ英語にて質疑応答に対応する。
8	現在完了形	経験、継続、完了について現在完了形の意味を理解したうえで、出来事の詳細を説明する練習を行う。
9	仮定法現在	将来起こり得ることについて、第6回で学んだ助動詞を用いて説明する練習を行う。
10	仮定法過去・仮定法過去完了	事実と反する内容について説明する練習を行う。
11	関係詞	関係代名詞と関係副詞を用いて、示された事象について詳細な説明をする練習を行う。。
12	比較級	同格を含めた比較の表現を学び、様々な事象やデータについて比較する練習を行う。
13	接続詞	接続副詞など、文と文をつなぐ表現を正確に把握したうえで、実際の英会話において使う練習を行う。
14	口頭試問②	第7回～第13回の表現を用いて、ひとりずつ英語にて質疑応答に対応する。

科目コード	T110101				区 分	教養			
授業科目名	英語 I 〔②〕				担当者名	Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

English I (2) continues the development of basic English communication skills for beginner learners who already has limited control of simple present tense structures. The course strengthens accuracy and fluency in present tense and gradually expands student ability to use past and future forms in controlled and guided communication.

Students increase vocabulary related to daily routines, school life, food, shopping, travel, hobbies, health, abilities, comparisons, and basic advice. Grammar instruction focuses on sentence accuracy, question formation, and combining ideas into short connected speech and writing. Listening practice develops the ability to understand short conversations and identify key information, and respond appropriately.

Speaking activities emphasize structured role-plays, interviews, and guided information-gap tasks to increase confidence. Writing develops from sentence-level work to organized paragraphs of approximately 12–18 sentences using linking words (and, but, because, so, then, first, next, finally). By the end of the course, students will be able to give a short structured oral presentation (2–3 minutes) and write a short multi-paragraph composition integrating present, past, and future forms.

<授業の到達目標>

- Students will be able to use present, past, and future tense forms with improved accuracy to describe daily life, experiences, plans, and simple opinions.
- Students will be able to ask and answer questions in structured conversations and short role-plays using appropriate question forms.
- Students will be able to understand the main idea and key details in short listening passages related to familiar topics.
- Students will be able to write organized paragraphs using correct basic grammar and simple connectors.
- Students will be able to deliver a short guided oral presentation using notes and simple visuals Upport.

<授業の方法>

- Clear grammar explanation with examples
- Guided written and oral practice
- Structured pair and small-group activities
- Listening tasks with repetition and comprehension checks
- Paragraph writing with modeling and scaffolding
- Short guided presentations

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- Pair interviews
- Structured role-plays
- Information-gap tasks
- Class surveys and reporting
- Peer review of writing
- Short individual presentations
- Vocabulary building competitions
- Listening dictation practice

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students are expected to spend approximately 60 minutes per week on preparation and review.

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Assessment will be weighted as follows: 40% for class participation activities (writing, presentations, role-plays, etc.) and 60% for the final test.

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Week 1 Theme: Course Introduction and	Students review be-verbs and basic simple present sentence structure in

	Review of Present Tense	affirmative, negative, and question forms. The instructor confirms students' prior knowledge through guided whole-class exercises and short oral drills. Students complete a structured pair interview about daily routines using prepared question prompts. Emphasis is placed on correct subject–verb agreement and clear pronunciation. Students then write a guided paragraph of approximately 10–12 sentences describing their daily life. The class concludes with feedback on common grammar errors and homework focused on review and vocabulary building. Students learn and practice adverbs of frequency such as always, usually, often, sometimes, and never. Controlled sentence-building exercises reinforce correct word order placement.
2	Week 2 Theme: Daily Routines and Frequency	A class survey activity allows students to ask classmates about their habits and record answers. Students report their findings orally using complete sentences. Listening practice includes short conversations about daily schedules with comprehension questions. Students write a structured paragraph incorporating frequency expressions and transitions such as first, then, and after that. Students practice forming Wh-questions accurately in the present tense. Grammar focus includes auxiliary verbs do and does in question formation. Students participate in a guided role-play about discussing class schedules and part-time jobs.
3	Week 3 Theme: School Life and Schedules	Listening exercises focus on identifying key details such as time and location. Students complete a short reading about a student's typical week and answer comprehension questions. Writing practice involves composing a paragraph describing their weekly schedule with clear organization. Students practice using like + noun and like + verb-ing structures. The conjunction because is introduced to connect ideas logically. Pair interviews focus on hobbies and preferences with structured follow-up questions. Listening practice includes short dialogues expressing opinions.
4	Week 4 Theme: Likes, Dislikes, and Giving Reasons	Students are guided to expand sentences by adding reasons and examples. Writing assignment: a paragraph explaining hobbies and preferences with at least three reasons. Students learn adjective order and intensifiers such as very and really. Controlled practice reinforces correct adjective placement before nouns. Students describe classmates or public figures using guided prompts.
5	Week 5 Theme: Describing People and Objects	Listening activities focus on identifying descriptive vocabulary in short recordings. A vocabulary-building activity expands words related to personality and appearance. Students write a descriptive paragraph of 12–15 sentences about a person they admire. Students practice 'there is' and 'there are' in affirmative, negative, and question forms. Grammar drills emphasize correct singular and plural agreement. Students complete an information-gap map activity that requires accurate spoken description.
6	Week 6 Theme: Describing Places (There is / There are)	Listening practice involves identifying locations and objects in a room. Students practice prepositions of place such as next to, behind, and in front of. Writing assignment: describe their room, house, or classroom in an organized paragraph. Students learn the formation and pronunciation rules for regular past tense verbs. Timeline visuals are used to explain completed actions in the past.
7	Theme: Introduction to Past Tense (Regular Verbs)	Controlled drills reinforce affirmative and negative sentence formation. Students conduct short interviews about yesterday's activities. Listening tasks focus on recognizing -ed endings in natural speech. Writing assignment: a paragraph describing what they did last weekend. Students learn common irregular verbs through memorization and practice activities. Matching exercises reinforce base and past forms. Pair storytelling activities use picture prompts to encourage simple narrative construction.
8	Theme: Past Tense (Irregular Verbs)	Listening tasks require identifying past tense verbs in short dialogues. Students practice asking and answering questions. Writing assignment: describe a memorable day using at least five irregular verbs.

9	Theme: Asking About the Past	Students focus on forming accurate past tense questions using did + base verb. Structured role-plays simulate interviews about past experiences. Error correction exercises reinforce common mistakes. Listening tasks include short conversations about travel and weekend activities. Students practice responding in full sentences rather than one-word answers. Writing activity: compose a short Q&A style paragraph about a partner's past experience. Students practice describing past events in sequence using time expressions such as "first, then, after that, and finally."
10	Theme: Talking About Experiences	Speaking activities include guided storytelling with prompts. Listening exercises focus on understanding short narratives about trips or celebrations. Grammar review reinforces regular and irregular verb usage. Students work in pairs to expand short sentences into longer, more detailed descriptions. Writing assignment: a structured paragraph describing a past event with a clear chronological order.
11	Theme: Future Plans (Going to)	Students learn the structure of be going to for planned future actions. Controlled drills reinforce affirmative, negative, and question forms. Pair interviews focus on weekend and vacation plans. Listening practice includes short dialogues about future arrangements.
12	Theme: Will and Going To (Basic Contrast)	Students are encouraged to ask follow-up questions for additional details. Writing task: describe future goals for the next year in a structured paragraph. Students practice distinguishing between planned actions and spontaneous decisions in a simple contexts. Grammar exercises compare 'will' and 'going to' in controlled sentences. Role-play activities simulate making quick decisions during conversations. Listening tasks reinforce recognition of both forms.
13	Theme: Midterm Review	Students practice writing short dialogues using both future forms correctly. Homework includes revision exercises for tense accuracy. Students review present, past, and future structures through interactive grammar games. Pair quizzes reinforce vocabulary retention. Listening comprehension practice revisits earlier topics. Students complete a guided paragraph integrating multiple tenses.
14	Theme: Midterm Assessment	Speaking rehearsal prepares students for midterm assessment. Teacher provides detailed corrective feedback. Students complete a written paragraph assessment demonstrating tense control and organization. Individual short oral presentations (approximately two minutes) assess speaking clarity and structure. Listening comprehension section evaluates understanding of short dialogues. Students receive feedback on strengths and areas for improvement. Reflection activity encourages self-assessment.

科目コード	T110101				区 分	教養			
授業科目名	英語 I 〔③〕				担当者名	古賀 敢人			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、他者との会話演習を実施することで、必要となる情報を英語で時間をかけることなく伝える練習を行う。また、まとまった英語を聞き取り、その内容について、自身の言葉で説明する練習を行う。

＜授業の到達目標＞

1. 基本的な文法を用いて、他者に英語で発話をすることができる。
2. 他者が話す英語の質問を聞き取り、回答することができる。
3. 他者が話すまとまった英語を聞き取り、その内容を把握することができる。

＜授業の方法＞

本授業では、講義、演習、ペアワークおよびグループ活動を組み合わせながら授業を進める。語彙・文法・リスニング・リーディング等の英語運用能力を高めるため、実践的な課題やミニゲーム等も取り入れ、学生の主体的な参加を促す。
また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。
授業では理解度を確保するための小テストや演習を適宜実施し、学生同士のディスカッションや発表活動を通して学習内容の定着を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有。クラスメートとペアまたはグループとなり、英語を用いたやりとりを実施する。具体的には、指定された構文を用いて自ら文を作成しそれを他者に伝える。また、他者から与えられた情報について聞き取り、内容についてペアまたはグループ内で共有する活動を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内容の理解を深めるため、毎回の授業に対して以下の準備学習を行うこと。

予習（約90分）

授業で扱う語彙・表現・テーマについて事前に確認し、指定された教材の該当箇所を読み、重要語彙や内容の概要を把握しておく。また、必要に応じてオンライン教材（Google Classroom等）に掲載された資料や動画を確認し、授業内容について自分なりの疑問点を整理しておく。

復習（約90分）

授業で学習した語彙・表現・文法・リスニング内容を整理し、ノートの見直しおよび課題演習を行う。特に英語運用能力向上のため、音読・シャドーイング・語彙確認等を行い、理解を定着させる。また、Google Classroom等で提示された復習課題やオンライン教材に取り組み、学習内容の定着を図る。

合計：約180分（3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。

と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題：65点（5点×13回）

口頭試問①：15点

口頭試問②：20点

＜教科書＞

使用しない（独自プリント配布）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	自己紹介の英語	相手に響く英語での自己紹介とその深掘りに必要な語句を習得する。
2	現在形・過去形：習慣に関する英語	現在形と過去形のほか、頻度副詞を用いて、グループで情報を集め、集めた内容について英語で共有する。
3	未来表現：未来の予定について述べる	be going to, will, be V-ingの表現を用いて、個人のスケジュールを説明するほか、他者に質問をしながら予定を埋める練習を行う。
4	助動詞：能力について述べる	can, be able toの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。

5	助動詞：義務・提案の表現	must, have to, shouldの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。
6	助動詞：可能性の表現	must, should, may, can, will, would, couldの表現を用いて可能性を説明する練習を行う。
7	口頭試問①	第1回～第6回の表現を用いて、ひとりずつ英語にて質疑応答に対応する。
8	現在完了形	経験、継続、完了について現在完了形の意味を理解したうえで、出来事の詳細を説明する練習を行う。
9	仮定法現在	将来起こり得ることについて、第6回で学んだ助動詞を用いて説明する練習を行う。
10	仮定法過去・仮定法過去完了	事実と反する内容について説明する練習を行う。
11	関係詞	関係代名詞と関係副詞を用いて、示された事象について詳細な説明をする練習を行う。
12	比較級	同格を含めた比較の表現を学び、様々な事象やデータについて比較する練習を行う。
13	接続詞	接続副詞など、文と文をつなぐ表現を正確に把握したうえで、実際の英会話において使う練習を行う。
14	前置詞	場所や時間を示す前置詞の正しい用法を通して、より細かい表現を身につけ実際の会話に活かすことができる。

科目コード	T110101				区 分	教養			
授業科目名	英語 I 〔④〕				担当者名	Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

This course builds fundamental English communication skills for very low-level learners. Students strengthen their control of present tense structures and gradually develop the ability to express past experiences and future plans. Vocabulary development expands to include food, places, descriptions, time expressions, abilities, comparisons, and basic advice.

Grammar instruction is scaffolded carefully, moving from controlled practice to guided production and finally to short communicative tasks. Listening activities focus on recognizing key words and simple sentence patterns in short conversations.

Speaking tasks emphasize structured pair work and confidence building. Writing progresses from sentence-level production to short paragraphs of 10–15 sentences. By the end of the course, students integrate multiple tenses in a short written and oral presentation.

<授業の到達目標>

Goal of the Class

- Students will be able to use basic present, past, and future tense structures to communicate about daily life, experiences, and plans.
- Students will be able to understand and respond to simple spoken English in structured classroom situations and short conversations.
- Students will be able to produce short, organized paragraphs and deliver a brief oral presentation about themselves using basic grammar and vocabulary.

<授業の方法>

- ・Lecture-based grammar explanation
- ・Guided practice and structured drills
- ・Pair and small-group communication activities
- ・Integrated listening, speaking, reading, and writing tasks

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ・Pair interviews,
- ・Role-play simulations,
- ・Information-gap activities,
- ・Student surveys and data reporting,
- ・Peer feedback and editing exercises,
- ・Short oral presentations.

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students are expected to devote approximately two hours per week to independent study, including preparation for upcoming lessons and review of previously covered material. Independent study activities include vocabulary memorization, grammar review, completion of written assignments, and preparation for oral tasks and assessments.

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Evaluation will be twofold: 40% will be based on class participation (writing, quizzes, presentations, etc.) and 60% will be based on a final test.

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Week 1: Hello & Classroom English	Theme words: hello, hi, name, teacher, student Students learn basic greetings and classroom words. They practice "My name is..." and "What is your name?" Grammar focus is subject pronouns (I, you) and am/is. Listening includes simple

		greetings. Writing is a 3–4 sentence self-introduction. Activities: Greeting circle role play, name card writing, listen-and-repeat drill, simple introduction worksheet. Theme words: he, she, it, we, they Students learn the difference between is and are. They practice short sentences like “She is a student.” “They are friends.” Listening focuses on identifying singular and plural. Writing includes 5 simple sentences using is/are. Activities: Picture description, board correction game, pair speaking drills.
2	Week 2: Is / Are	
3	Week 3: Alphabet & Spelling	Theme words: letters, spell, first name, last name Students practice the alphabet and spelling names. They learn how to ask “How do you spell...?” Grammar review: is/are + nouns. Writing includes spelling practice and simple forms. Activities: Spelling race, dictation, phone-number listening practice.
4	Week 4: Numbers & Age	Theme words: numbers 1–100, age, phone number Students practice numbers and say their age. Grammar: “I am ___ years old.” Listening includes number dictation. Writing includes personal information sentences. Activities: Bingo, interview partner activity, number listening quiz.
5	Week 5: Family	Theme words: mother, father, sister, brother Students learn family vocabulary. Grammar: possessive adjectives (my, your). They say “This is my mother.” Listening includes a short family description. Writing is 5 sentences about family. Activities: Family tree drawing, pair interview, role play meeting someone’s family.
6	Week 6: My Things	Theme words: bag, book, phone, pen Students learn possession using ’s and possessive adjectives. Grammar: “This is John’s book.” Students write simple ownership sentences. Activities: Classroom object game, find-the-owner speaking activity.
7	Week 7: Daily Routines (Simple Present 1)	Theme words: wake up, eat, go, study, sleep Students begin simple present (I/You). “I wake up at seven.” Listening includes short daily routine audio. Writing: My Day (5 sentences). Activities: Schedule interview, clock drawing practice.
8	Week 8: Simple Present (He/She)	Theme words: works, studies, plays Students learn third person singular (adds -s). Practice “He works.” “She studies.” Writing about a friend’s routine. Activities: Partner interview and report, board transformation drills.
9	Week 9: Questions in Present	Theme words: do, does, when, what Students form questions: “Do you work?” “Does she study?” Listening for yes/no answers. Writing simple Q&A dialogue. Activities: Survey activity, class questionnaire.
10	Week 10: Time & Days	Theme words: Monday–Sunday, morning, afternoon Students tell time and talk about weekly schedule. Grammar review: present tense + time expressions. Writing a short schedule paragraph. Activities: Timetable role play, listening for time exercise.
11	Week 11: Food & Likes (Affirmative and Negative)	Theme words: rice, bread, chicken, vegetables, like, don’t like Students learn to express preference s using “I like...” and “I don’t like...”. Introduce count/non-count nouns in a very simple way (e.g., “a banana” vs. “rice”). They practice short dialogues such as “Do you like chicken?” “Yes, I do / No, I don’t.” Listening includes short conversations about food preferences. Writing focuses on a guided paragraph: “I like... I don’t like...” (6–8 sentences). Activities: · Class food survey (students collect 5 answers) · Restaurant role play (waiter/customer using simple menu) · Listening gap-fill (food words missing) · Write a simple menu
12	Week 12: There Is / There Are (Places in Town)	Theme words: school, bank, park, supermarket, near, next to Students learn “There is...” and “There are...” with singular and plural nouns. Introduce simple prepositions of place (in, on, under, next to). Speaking includes describing their town or neighborhood. Listening practice includes identifying locations on a simple map. Writing is a guided paragraph: “In my town, there is...” (8 sentences). Activities: · Map labeling activity · Pair map role play (Student A asks, Student B answers) · Draw your neighborhood and describe it · Listening: follow directions and mark a map
13	Week 13: Describing People (Appearance & Personality)	Theme words: tall, short, kind, friendly, quiet, funny Students combine adjectives with “is/are.” Review adjective position before nouns (“a tall man”)

14	Week 14: Review & Presentation	Speaking includes describing a classmate (positive only). Listening: short description and students identify the correct picture. Writing: describe a friend or family member (8–10 sentences). Activities: · Guess Who speaking game · Adjective matching worksheet · Listening picture selection · Peer editing of writing Students review present tense, likes, there is/are, descriptions. Grammar consolidation through mixed exercises. Speaking: short presentation "About My Life." Listening: peer presentations with note-taking. Writing: 10-sentence paragraph combining family, routine, and likes. Activities: · Grammar stations (rotation practice) · Mini oral test · Written midterm test · Self-evaluation and reflection
----	--------------------------------	--

科目コード	T110101				区 分	教養			
授業科目名	英語 I 〔⑤〕				担当者名	京塚 在裕美／Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本講義では、基礎的な英文法の理解と語彙の向上、リスニング・リーディング・ライティングの3技能を包括的に取り入れる。日常の学校生活やビジネスシーンを想定した、より実践的な実用英語を身につけることが求められるので、コミュニケーション・イングリッシュのレベルアップをはかる。語彙の充実から始まり文法やリスニングなど、インプットを重視した構成で、インタラクティブな授業を展開する。

<授業の到達目標>

基礎的な英文法を完全に理解し、正しく活用ができるようにする。
日常英語やビジネス英語の基本語句2000語程度を活用できるようにする。
リスニング・リーディング・ライティングの3技能を包括的に向上させる。
TOEICまたはTOEFLの目標スコアを各自で設定する。（TOEICであれば、100点アップ等）

<授業の方法>

基礎的な英文法の理解と活用のため、基本例文を用いて詳しく解説する。
日常英語やビジネス英語の基本語句2000語程度を聞き取り、読み取り、書き取る。
リスニング・リーディング・ライティングの3技能を包括的に向上させる。最初に語彙力の飛躍的な向上をはかり、文章を読みやすくする。リスニング練習や実践的なライティング学習など、インプット中心に基礎を固める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

発音練習のアプリを用い、各自で練習を進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を読み、不明な点を明確にしておく。
新出単語の確認をしておく。
前回の学習ポイントを復習しておく。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲および課題提出、積極性、小テストのスコア、定期試験の結果をもとに総合的に判定する。

<教科書>

講師作成の指定の冊子（授業の初回に配布）

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業の目標と目的を明確にする。 授業の進め方を具体的に説明する。 アクティブラーニングの目的と進め方を説明する。 「Nice to meet you」 [Talking about ourselves]	講師より、授業の目的と意義、進め方を説明する。 学生は自分の到達目標を設定する 教科書のUnit1を開始 ・基礎的な英単語の書き取り① ・基礎的な英文の聞き取り① ・基礎的な会話文の読み取り① ・基本英文法の確認（文の構造と文型） 教科書のUnit 2を開始 ・基礎的な英単語の書き取り② ・基礎的な英文の聞き取り② ・基礎的な会話文の読み取り② ・基本英文法の確認（文の構造と文型） 教科書のUnit 3を開始 ・基礎的な英単語の書き取り③ ・基礎的な英文の聞き取り③ ・基礎的な会話文の読み取り③ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
2	What do you like to do? [Talking about Hobbies and Pastimes]	
3	Where are you from? [Talking about hometowns]	

4	Are you hungry? [Talking about food]	教科書のUnit 4を開始 ・基礎的な英単語の書き取り④ ・基礎的な英文の聞き取り④ ・基礎的な会話文の読み取り④ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
5	Let's eat [Talking about restaurants and meals]	教科書のUnit 5を開始 ・基礎的な英単語の書き取り⑤ ・基礎的な英文の聞き取り⑤ ・基礎的な会話文の読み取り⑤ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
6	What music do you like? [Talking about music]	教科書のUnit 6を開始 ・基礎的な英単語の書き取り⑥ ・基礎的な英文の聞き取り⑥ ・基礎的な会話文の読み取り⑥ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
7	Where are you going? [talking about travel and vacations]	教科書のUnit 7を開始 ・基礎的な英単語の書き取り⑦ ・基礎的な英文の聞き取り⑦ ・基礎的な会話文の読み取り⑦ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

科目コード	T110101				区 分	教養			
授業科目名	英語 I 〔⑥〕				担当者名	京塚 在裕美／Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本講義では、基礎的な英文法の理解と語彙の向上、リスニング・リーディング・ライティングの3技能を包括的に取り入れる。日常の学校生活やビジネスシーンを想定した、より実践的な実用英語を身につけることが求められるので、コミュニケーション・イングリッシュのレベルアップをはかる。語彙の充実から始まり文法やリスニングなど、インプットを重視した構成で、インタラクティブな授業を展開する。

＜授業の到達目標＞

基礎的な英文法を完全に理解し、正しく活用ができるようにする。
日常英語やビジネス英語の基本語句2000語程度を活用できるようにする。
リスニング・リーディング・ライティングの3技能を包括的に向上させる。
TOEICまたはTOEFLの目標スコアを各自で設定する。（TOEICであれば、100点アップ等）

＜授業の方法＞

基礎的な英文法の理解と活用のため、基本例文を用いて詳しく解説する。
日常英語やビジネス英語の基本語句2000語程度を聞き取り、読み取り、書き取る。
リスニング・リーディング・ライティングの3技能を包括的に向上させる。最初に語彙力の飛躍的な向上をはかり、文章を読みやすくする。リスニング練習や実践的なライティング学習など、インプット中心に基礎を固める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

発音練習のアプリを用い、各自で練習を進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を読み、不明な点を明確にしておく。
新出単語の確認をしておく。
前回の学習ポイントを復習しておく。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲および課題提出、積極性、小テストのスコア、定期試験の結果をもとに総合的に判定する。

＜教科書＞

講師作成の指定の冊子（授業の初回に配布）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	講師より、授業の目的と意義、進め方を説明する。 学生は自分の到達目標を設定する。 授業の目標と目的を明確にする。 授業の進め方を具体的に説明する。 アクティブラーニングの目的と進め方を説明する。 「Nice to meet you」 [Talking about ourselves]	教科書のUnit1を開始 ・基礎的な英単語の書き取り① ・基礎的な英文の聞き取り① ・基礎的な会話文の読み取り① ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
2	What do you like to do? [Talking about Hobbies and Pastimes]	教科書のUnit 2を開始 ・基礎的な英単語の書き取り② ・基礎的な英文の聞き取り② ・基礎的な会話文の読み取り② ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
3	Where are you from? [Talking about hometowns]	教科書のUnit 3を開始 ・基礎的な英単語の書き取り③

4	Are you hungry? [Talking about food]	・基礎的な英文の聞き取り③ ・基礎的な会話文の読み取り③ ・基本英文法の確認（文の構造と文型） 教科書のUnit 4を開始 ・基礎的な英単語の書き取り④ ・基礎的な英文の聞き取り④ ・基礎的な会話文の読み取り④ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
5	Let's eat [Talking about restaurants and meals]	教科書のUnit 5を開始 ・基礎的な英単語の書き取り⑤ ・基礎的な英文の聞き取り⑤ ・基礎的な会話文の読み取り⑤ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
6	What music do you like? [Talking about music]	教科書のUnit 6を開始 ・基礎的な英単語の書き取り⑥ ・基礎的な英文の聞き取り⑥ ・基礎的な会話文の読み取り⑥ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
7	Where are you going? [talking about travel and vacations]	教科書のUnit 7を開始 ・基礎的な英単語の書き取り⑦ ・基礎的な英文の聞き取り⑦ ・基礎的な会話文の読み取り⑦ ・基本英文法の確認（文の構造と文型）
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

科目コード	T110101				区 分	教養			
授業科目名	英語 I [再履]				担当者名	古賀 敢人			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業は、英語Iを再履修する学生を対象とし、英語の基礎的な文法・語彙・読解力および簡単な会話表現の習得を目的とする。高校レベルの基本文法を復習しながら、日常生活や大学生活に関わる英語表現を理解し、英語を読む・聞く・話す・書くという4技能の基礎力をバランスよく身につけることを目指す。
また、英語に対する苦手意識を克服し、継続的に学習する姿勢を養うことも重要な目的とする。

＜授業の到達目標＞

本授業を履修した学生は、以下の能力を身につけることを目標とする。
基本的な英文法（時制、助動詞、前置詞など）を理解できる。
日常生活に関する簡単な英文を読むことができる。
自己紹介や簡単な会話表現を英語で行うことができる。
短い英文を書くことができる。

＜授業の方法＞

講義と演習を組み合わせる授業を行う。
文法解説に加えて、ペアワークや簡単な会話練習を行い、英語を実際に使う機会を設ける。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有
ミニゲーム、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等の参加型活動を取り入れ、学生同士の協働的な学習を促進する。また、英語による発話・対話の機会を多く設け、実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

準備学習（予習・復習等）：週あたり3時間程度

予習として、授業で扱う語彙・表現の確認や指定教材の事前学習を行う。復習として、授業で扱った表現の定着を目的とした音読・書き取り・オンライン教材（Google Classroom等）の課題に取り組む。また、ペアワーク・グループワークで使用した表現を整理し、次回授業で活用できるよう準備する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
DP1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
DP5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・授業内活動への取り組み（発話量、積極性、協働姿勢等） 40%
- ・課題（提出物・オンライン課題等） 30%
- ・最終発表 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	英語の基本構造	英語の語順（SVO）を理解する。主語・動詞・目的語の役割を確認し、簡単な英文を作る練習を行う。
2	現在形と日常表現	現在形の使い方を学び、日常生活や習慣を表す英文を理解する。簡単な自己紹介や日常活動を英語で表現する練習を行う。
3	過去形	過去形の基本的な用法を学び、過去の出来事を説明する英文を読む・書く練習を行う。
4	未来表現	will / be going to を用いた未来表現を学び、予定や計画を英語で表現する。
5	助動詞	can / must / should などの助動詞の意味と使い方を学び、可能・義務・助言を表す英文を理解する。
6	前置詞と場所表現	in / on / at などの基本的な前置詞を学び、場所や時間を表す表現を理解する。
7	日常英会話	挨拶、依頼、質問など大学生活で使える基本的な会話表現を練習する。
8	英語での自己紹介とまとめ	英語で簡単な自己紹介を作成し発表する。授業で学んだ内容を振り返り、基礎表現の定着を図る。

9	基礎表現の再定着①（時制・基本文）	これまで扱った基本文型・時制を確認し、ペアワークで反復練習を行う。
10	基礎表現の再定着②（疑問文・応答）	簡単な質問と応答を中心に、ミニゲームを通して運用練習を行う。
11	トピック会話①（身近なテーマ）	日常生活に関するテーマで短い会話を行い、発話量の増加を図る。
12	トピック会話②（意見表現）	簡単な意見（好き・嫌い・理由）を英語で伝える練習を行う。
13	発表準備①（構成・表現整理）	最終発表に向けて、テーマ設定と基本構成の作成を行う。
14	発表（フィードバック）	発表を行い、相互に改善点を共有する。

科目コード	T110103				区 分	教養			
授業科目名	英語Ⅲ 〔①〕				担当者名	Everett Ofori／古賀 敢人			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

This course develops conversational fluency through structured question-and-answer practice and functional communication activities. Each class begins with a short grammar or vocabulary focus that supports communication. Students then practice answering common real life questions smoothly, participate in functional role-plays, and practice improvisational conversation through situational dialogue. Special emphasis is placed on accurate and confident use of present, past, and future tenses.

<授業の到達目標>

Students will:

- ・ Answer at least 80 common conversational questions smoothly.
- ・ Communicate effectively using present, past, and future tenses.
- ・ Participate confidently in role-plays based on real-life situations.
- ・ Develop the ability to improvise conversations in unfamiliar situations.

<授業の方法>

Classes follow a communicative language teaching approach. Each lesson begins with a short explanation and practice of key grammar or vocabulary. Students then engage in structured question-and-answer activities designed to build fluency and automatic responses. This is followed by role-play exercises that simulate real-life communication situations. Finally, students participate in improvisational dialogue tasks where they respond to spontaneous scenarios using the language practiced during the lesson.

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

The course emphasizes student-centered learning through interactive speaking activities. Students participate in pair and group discussions, role-plays, interviews, and situational problems-solving tasks. Question-and-answer drills help students develop fluency, while improvisation tasks encourage flexible communication. Peer interaction and collaborative speaking exercises ensure that students actively use English during each class session.

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students should spend 30-60 minutes preparing before class, reviewing questions, vocabulary, and practicing answers aloud.

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Participation will comprise 40% of the grade and a final test will make up the balance of 60%.

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Theme: Introductions and Personal Information	Grammar Focus: Present tense of be for introductions. Questions - What is your name? - Where do you live? - Where are you from? - What is your hobby? - What is your major? - What year are you in? - Why did you choose your major? - What do you want to do in the future? Function (Role-Play) Meet someone for the first time. Situations/Dialogue (Improvisation scenario placeholder) Vocabulary Focus: Daily routine expressions.
2	Theme: Daily Life and Routines	Questions - What time do you usually wake up? - What do you do in the morning? - What do you usually eat for breakfast? - How do you get to university? - How long does it take? - What do you usually do after class? - What do you do on weekends?

3	Theme: Family and Relationships	- How often do you exercise? Function: (Role-Play) Talking about daily routines with a friend. Situations/Dialogue Grammar Focus: Present simple for habits and family descriptions. Questions - How many people are in your family? - Do you have any brothers or sisters? - What do your parents do? - Who are you closest to in your family? - What do you usually do with your family? - How often do you see your family? - What do you like to do together? Function (Role-Play) Introducing family members. Situations/Dialogue Vocabulary Focus: Leisure and hobby vocabulary. Questions - What are your hobbies? - When did you start this hobby? - How often do you do it? - Why do you enjoy it? - Do you prefer indoor or outdoor hobbies? - What hobbies would you like to try? - Do you have hobbies with friends? - What hobbies are popular in your country?
4	Theme: Hobbies and Free Time	Function (Role-Play) Discussing hobbies with classmates. Situations/Dialogue Grammar Focus: Past tense for recent experiences. Questions - What is your favorite food? - What food do you dislike? - How often do you eat out? - Do you cook? - What food did you eat yesterday? - What food would you like to try? - Do you prefer Japanese or international food? - What is a popular dish in your country?
5	Theme: Food and Dining	Function (Role-Play) Ordering food at a restaurant. Situations/Dialogue Vocabulary Focus: University and classroom vocabulary. Questions - Why did you choose this university? - What classes are you taking now? - Which class is your favorite? - Which class is difficult? - What did you study last semester? - What do you want to study in the future? - How many hours do you study each day? - Where do you usually study?
6	Theme: University Life	Function (Role-Play) Talking with a classmate about courses. Situations/Dialogue Grammar Focus: Future forms (will and going to). Questions - What do you usually do in your free time? - What did you do last weekend? - What will you do next? weekend? - Do you prefer staying at home or going out? - Do you watch movies? - What kind of movies do you like? - Do you play games? - How often do you relax with friends?
7	Theme: Free Time and Social Activities	Function (Role-Play) Inviting someone to spend time together. Situations/Dialogue Vocabulary Focus: Travel vocabulary. Questions - Do you like traveling? - Where did you travel last year? - Where do you want to travel? - Why do you want to go there?
8	Theme: Travel and Vacations	- Who do you travel with? - 62. What do you usually do when traveling? - Do you prefer mountains or beaches? - What country would you like to visit? Function (Role-Play) Planning a trip Situations/Dialogue Grammar Focus:
9	Theme: Asking for and Giving Directions	Imperatives and polite requests.

		Questions - Do you know this area well? - Where is the nearest station? - How do you get to the library? - Is there a convenience store nearby? - How long does it take to get there? - What transportation do you usually use? - Can you give directions in English? - Have you ever helped a tourist? Function (Role-Play) Giving directions to a visitor. Situations/Dialogue (Improvisation scenario placeholder) Vocabulary Focus: Shopping vocabulary.
10	Theme: Shopping and Buying Things	Questions - Do you like shopping? - Where do you usually shop? - What did you buy recently? - How often do you buy clothes? - Do you prefer online shopping? - What do you usually buy online? - What will you buy next? - Do you like sales? Function (Role-Play) Shopping in a store. Situations/Dialogue Grammar Focus: Present simple for habits.
11	Theme: Health and Lifestyle	Questions - Do you exercise regularly? - What kind of exercise do you do? - How often do you exercise? - What did you do to stay healthy last week? - Do you eat healthy food? - How many hours do you sleep? - What do you do to relax? - What will you do to improve your health? Function (Role-Play) Talking to a doctor or giving health advice. Situations/Dialogue Vocabulary Focus: Weather vocabulary.
12	Theme: Weather and Seasons	Questions - What is the weather like today? - What is your favorite season? - Why do you like that season? - What did you do last summer? - What activities do you do in winter? - Does the weather affect your mood? - What is the weather like in your hometown? - What season would you like to travel in? Function (Role-Play) Making plans depending on the weather. Situations/Dialogue Grammar Focus: Present tense vs past tense.
13	Theme: Technology and Daily Life	Questions - How often do you use your smartphone? - What apps do you use the most? - Did you use technology a lot when you were younger? - What technology do you use for studying? - Do you prefer books or digital devices? - How does technology help students? - What technology will be important in the future? - What new technology would you like to try? Function (Role-Play) Helping someone solve a technology problem. Situations/Dialogue Vocabulary Focus: Transportation vocabulary.
14	Theme: Transportation and Travel	Questions - How do you usually travel to school? - Do you use trains often? - What transportation did you use yesterday? - What is the fastest way to travel in your city? - Do you like driving? - What transportation do you prefer for long trips? - What transportation will people use in the future? - Have you ever missed a train or bus? Function (Role-Play) Buying a train or bus ticket. Situations/Dialogue

科目コード	T110103				区 分	教養			
授業科目名	英語Ⅲ 〔②〕				担当者名	古賀 敢人／Everett Ofori			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本授業では、英語によるコミュニケーション能力の向上を目的とし、ミニゲームやアクティビティを多く取り入れながら英語を実際に使う機会を増やす。

英語の文法や語彙の復習を行いながら、ペアワークやグループワーク、クイズ、ロールプレイなどのゲーム形式の活動を通して、英語を楽しく学ぶ環境を作ることを目指す。

また、英語に対する心理的なハードルを下げ、学生が自発的に発話することを促すことで、実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。

<授業の到達目標>

基本的な英語表現を使って簡単なコミュニケーションができる。

英語を使ったゲームや活動に積極的に参加できる。

英語で自分の意見や経験を簡単に説明できる。

英語を使うことへの抵抗感を減らし、学習意欲を高める。

<授業の方法>

本授業は、ミニゲーム、ペアワーク、グループワーク等の参加型活動を中心とした演習形式で実施する。学生が英語を実際に使用する機会を重視し、実践的なコミュニケーション能力の育成を目的とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

ミニゲーム、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等の参加型活動を取り入れ、学生同士の協働的な学習を促進する。また、英語による発話・対話の機会を多く設け、実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

準備学習（予習・復習等）：週あたり3時間程度

予習として、授業で扱う語彙・表現の確認や指定教材の事前学習を行う。復習として、授業で扱った表現の定着を目的とした音読・書き取り・オンライン教材（Google Classroom等）の課題に取り組む。また、ペアワーク・グループワークで使用した表現を整理し、次回授業で活用できるよう準備する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・授業内活動への取り組み（発話量、積極性、協働姿勢等） 40%
- ・課題（提出物・オンライン課題等） 30%
- ・最終発表 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Ice Breaker English	英語での自己紹介ゲーム、クラスのルール確認、簡単な英語ゲームを通してクラスの雰囲気を作る。
2	Vocabulary Game	英単語クイズや連想ゲームを行い、語彙力を楽しく強化する。
3	Conversation Game	ペアでの質問ゲームやスピード会話ゲームを通して英語で話す練習を行う。
4	Guessing Game	英語でヒントを出して答えを当てるゲームを行い、説明力と語彙力を養う。
5	Role Play	レストランや買い物などの場面を想定したロールプレイを行う。
6	Story Game	英語で物語を作るゲームを通して表現力を養う。
7	Team Quiz	チーム対抗の英語クイズを行い、理解度を確認する。
8	English Presentation	簡単な英語プレゼンテーションを行い、授業のまとめを行う。
9	ディスカッション①（意見交換）	賛成・反対の意見表現を学び実践
10	ディスカッション②（問題解決）	グループで課題に対する解決策を検討・発表
11	プレゼン準備①（テーマ設定・構成）	最終発表に向けた企画立案
12	プレゼン準備②（スライド・発話練習）	ペア・グループでの相互フィードバック

13	プレゼンリハーサル	模擬発表と改善
14	最終発表	学生によるプレゼンテーション

科目コード	T110201			区 分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I 〔①〕			担当者名	安井 良彰				
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシーの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

<授業の到達目標>

マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

<授業の方法>

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（90分程度）

タイピング練習（30分程度）

前回の授業ならびに関連するMOS検定出題問題の確認（60分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト50%

<教科書>

土岐 順子 情報利活用 文書作成 Word 2024対応 日経BP社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	レポート・報告書作成の基本	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
4	表の作成・図形の挿入（1）	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
5	表の作成・図形の挿入（2）	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行う。
6	グラフの利用	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
7	既存データの利用	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータをワードで利用する方法について解説する。
8	長文の作成（1）	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
9	長文の作成（2）	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
10	長文の作成（3）	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
11	差し込み印刷の使い方	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときには有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。 「
12	総合問題[1]	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
13	総合問題[2]	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
14	まとめと確認	学習内容の達成度の確認を行う。

科目コード	T110201				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I 〔②〕				担当者名	渡辺 亮			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシーの基礎や一般事務業務に支障が出ないレベルのタイピングスキルも固めていく。

＜授業の到達目標＞

マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

＜授業の方法＞

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（2時間程度）

タイピング練習（30分程度）

前回の授業の確認（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度20%、課題提出30%、定期試験50%

＜教科書＞

土岐 順子 情報利活用 文書作成 Word 2024対応 日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書の作成と管理	Wordの導入から、タイピングやファイル作成といった基礎を確認する。
3	一般的なビジネス文書の作成	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
4	シンプルなレポートや報告書の作成	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
5	表、画像、図形を使った文書の作成 (1)	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
6	表、画像、図形を使った文書の作成 (2)	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行う。
7	図やグラフで情報を伝える文書の作成	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
8	既存のデータを利用した文書の作成	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータをワードで利用する方法について解説する。
9	読みやすいレイアウトの長文の作成	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
10	効率のよい長文の作成	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
11	長文の編集と加工	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
12	共同作業と文書の保護	Wordファイルを複数人でブラッシュアップする際の機能について学習する。
13	複数の宛先に送付する文書の作成	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときには有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。

科目コード	T110201			区 分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I 〔③〕			担当者名	安井 良彰				
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシーの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

＜授業の到達目標＞

マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

＜授業の方法＞

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（90分程度）

タイピング練習（30分程度）

前回の授業ならびに関連するMOS検定出題問題の確認（60分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト50%

＜教科書＞

土岐 順子 情報利活用 文書作成 Word 2024対応 日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	レポート・報告書作成の基本	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
4	表の作成・図形の挿入（1）	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
5	表の作成・図形の挿入（2）	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行う。
6	グラフの利用	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
7	既存データの利用	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータをワードで利用する方法について解説する。
8	長文の作成（1）	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
9	長文の作成（2）	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
10	長文の作成（3）	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
11	差し込み印刷の使い方	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときには有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。 「
12	総合問題[1]	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
13	総合問題[2]	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
14	まとめと確認	学習内容の達成度の確認を行う。

科目コード	T110201				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I 〔④〕				担当者名	渡辺 亮			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシーの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

<授業の到達目標>

マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

<授業の方法>

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（2時間程度）

タイピング練習（30分程度）

前回の授業の確認（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度20%、課題提出30%、定期試験50%

<教科書>

土岐 順子 情報利活用 文書作成 Word 2024対応 日経BP社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書の作成と管理	Wordの導入から、タイピングやファイル作成といった基礎を確認する。
3	一般的なビジネス文書の作成	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
4	シンプルなレポートや報告書の作成	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
5	表、画像、図形を使った文書の作成 (1)	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
6	表、画像、図形を使った文書の作成 (2)	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行う。
7	図やグラフで情報を伝える文書の作成	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
8	既存のデータを利用した文書の作成	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータをワードで利用する方法について解説する。
9	読みやすいレイアウトの長文の作成	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
10	効率のよい長文の作成	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
11	長文の編集と加工	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
12	共同作業と文書の保護	Wordファイルを複数人でブラッシュアップする際の機能について学習する。
13	複数の宛先に送付する文書の作成	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときには有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。

科目コード	T110201				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [再履][オンデマンド]				担当者名	渡辺 亮			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシーの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

＜授業の到達目標＞

マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

＜授業の方法＞

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す(2時間程度)

タイピング練習 (30分程度)

前回の復習 (30分程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度20%、課題提出30%、定期試験50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書の作成と管理	Wordの導入から、タイピングやファイル作成といった基礎を確認する。
3	一般的なビジネス文書の作成	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
4	シンプルなレポートや報告書の作成	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
5	表、画像、図形を使った文書の作成 (1)	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
6	表、画像、図形を使った文書の作成 (2)	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行う。
7	図やグラフで情報を伝える文書の作成	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
8	既存のデータを利用した文書の作成	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータをワードで利用する方法について解説する。
9	読みやすいレイアウトの長文の作成	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
10	効率のよい長文の作成	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
11	長文の編集と加工	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
12	共同作業と文書の保護	Wordファイルを複数人でブラッシュアップする際の機能について学習する。
13	複数の宛先に送付する文書の作成	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときには有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。

科目コード	T110203				区 分	教養・汎用的技能領域			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅢ				担当者名	尾崎 信之／栗本 育三郎			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本授業の目的はコンピュータシステムの全般に関して、深く理解することです。まずは新聞ニュースなどで使われている用語が判ることを目指します。そのためには大きく、条業の到達目標にある4項目に関して講義を進めて行きます。またグループワークとして特定の題材を元に、さらに深堀をして、相互に発表討議をしていながら、理解を深めていきましょう。途中数回にわたって、どの程度理解しているかのクイズを出していきます。

<授業の到達目標>

1. コンピュータの基本構造・仕組みを理解し、情報社会に必要な基礎的リテラシーを身につける
2. ハードウェアからソフトウェア、ネットワーク、データ活用まで一連の概念を体系的に理解する。
簡易アセンブラ言語をプログラミングすることで、計算機の動作原理を理解する。
3. LSIを含むデジタル回路の基礎を知り、現代コンピュータがどのように動作しているかを説明できる。
4. ソフトウェア開発、システム開発とはどのようなものであるか、理解する。

<授業の方法>

解説と問いの提示、グループ討論、プレゼンテーション、ICTを活用した事前資料提示、演習問題等の回収

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有り

グループ討論、プレゼンテーション、ICTを活用した事前資料提示、演習時利用、事後学習、演習問題等の回収並びにフィードバックを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

リサーチ活動：事前に授業要約メモからWEBなどの調査(100分)

プレゼン資料作成：グループ討論のための資料、プレゼンテーション資料の作成とアップロード、期中、期末でのノートの取りまとめ提出(100分)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価方法

評価＝QUIZ（10%）、グループ討議、プレゼンテーション（10%）、質問など、授業中の貢献(10%）、レポート（70%）

合計100パーセント

フィードバック方法

QUIZは適宜、解説する。グループ討議、プレゼンテーションは質疑などでリアルタイムでコメントする。質問や授業中のコメントなど随時受付、リアルタイムでコメントする。

レポートは、採点し適宜コメントを返す。

<教科書>

使用予定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義で学ぶこと、計算機の歴史、半導体の歴史
2	コンピュータの原理(1)	基本構成と機能
3	コンピュータの原理(2)	プロセッサまわり
4	コンピュータの原理(3)	簡易アセンブラのプログラミングを通じた動作原理の理解
5	デジタル回路と半導体(1)	半導体とは
6	デジタル回路と半導体(2)	基本的なデジタル回路
7	デジタル回路と半導体(3)	集積回路とは
8	デジタル回路と半導体(4)	半導体のサプライチェーン
9	オペレーションシステム (OS)	ドライバ、ミドルウェア、アプリケーションの構造
10	データ構造	リレーショナルデータベース、ファイルシステム
11	ネットワークとインターネット	外部とのさまざまな通信方式

12	ソフトウェア開発論	手法論
13	システム開発	受託開発、パッケージ開発、工数
14	まとめ	全体を総括する.

科目コード	T110205				区 分	教養			
授業科目名	TOEIC I 〔①〕				担当者名	古賀 敢人			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

TOEICの各PARTについて詳細な解法手法を提示し、高得点の獲得を目指す。

<授業の到達目標>

TOEICの各PARTについて、一つずつ丁寧に解説し、TOEIC本試験で500点台に到達することを目標とする。また、英語の使用に慣れた学生においては実用域である700点台以上のスコアを獲得するために必要な知識・技能を身につける。

<授業の方法>

各パートの模擬問題を行いつつ、必要な解法手法を提示し、手法通りに問題を解く練習を行う。
また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有。試験問題を模した問題を学生自らが作成し、お互いに問題を解きあうことで、作問者の意図を理解するとともに、正答への道筋を自ら把握する機会を設ける。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（約90分）

授業で扱う語彙・表現・テーマについて事前に確認し、指定された教材の該当箇所を読み、重要語彙や内容の概要を把握しておく。
また、必要に応じてオンライン教材（Google Classroom等）に掲載された資料や動画を確認し、授業内容について自分なりの疑問点を整理しておく。

復習（約90分）

授業で学習した語彙・表現・文法・リスニング内容を整理し、ノートの見直しおよび課題演習を行う。特に英語運用能力向上のため、音読・シャドーイング・語彙確認等を行い、理解を定着させる。また、Google Classroom等で提示された復習課題やオンライン教材に取り組み、学習内容の定着を図る。

合計：約180分（3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

TOEIC IPテスト（期末） 40%

小テスト（語彙・リスニング確認等） 20%

課題（オンライン課題・演習問題等） 20%

授業参加・授業内活動（演習・グループワーク等） 20%

<教科書>

早川幸治 TOEIC L&Rテスト書き込みドリル 桐原書店

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Part 1 人物の動作と状態、物の状態と位置	Part 1で出題される発話文の文法を確認するほか、穴埋めリスニングを行い確実に文の内容を聞き取る練習を行う。
2	Part 2 疑問詞を使った疑問文、基本構文と応答の決まり文句、Yes/No疑問文	Part 2で出題される会話文の提携パターンを学ぶ。
3	Part 1, Part 2演習、Part 5 品詞	過去2回分の確認を図るリスニングテストの実施。また、問題を実際に作成し全体で解き合う。Part 5では頻出する品詞問題の解説を行う。
4	Part 5 動詞、代名詞、関係代名詞	Part 5で必ず出題される文法項目の確認及び練習問題を解く。
5	Part 5 接続詞・前置詞、Part 5復習	Part 5の難関問題である接続詞・前置詞の問題の解説を行う。そのうえで、文法問題の総復習を行う。
6	TOEICハーフ模試及び解説	これまで学んだことの確認をするために、実際の問題の半分の量のTOEICを模試として解く。
7	Part 3 日常場面での会話、電話での会話、オフィスでの会話①、オフィスでの	Part 3で出題される頻度の高い会話文を聞き取る方法を学ぶ。

	会話②	
8	Part 4 アナウンス・ツアー、ラジオ放送・宣伝	Part 4で出題される頻度の高いスピーチ文を聞き取る方法を学ぶ。
9	Part 4 留守番電話、トークスピーチ・会議の一部	図表を伴うスピーチ文の聞き取り方法を学ぶほか、先読みができない場合の対処法を習得する。
10	Part 3, 4の復習	Part 3, 4の模擬問題を解答し、これまでの解答手法を習得できているか確認する。
11	Part 7 Skim Reading	Part 7の攻略に必要な速読で求められるSkim Readingを実践する。
12	Part 7 表・用紙、広告、チャット、手紙・Eメール	前回学んだskim readingを使ってpart 7の様々な問題を解く。
13	Part 7 ダブルパッセージ、トリプルパッセージ	時間のかかる複数パッセージ問題への取り組み方、skim readingの仕方を説明し問題を解く。
14	Part 6 時制・代名詞・語彙問題、つなぎ言葉・文の挿入	Part 6の全パターンの解説を行ったうえで、各パターンの解答手法を学ぶ。

科目コード	T110205				区 分	教養			
授業科目名	TOEIC I 〔②〕				担当者名	Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

TOEIC I introduces students to the structure and skills required for the TOEIC test while building their fundamental listening, reading, speaking, and writing abilities. Students will learn practical strategies for all TOEIC sections and develop active skills through role-plays, simulations, pair work, and guided exercises.

Listening tasks focus on identifying key information, understanding conversations, and following short talks. Reading tasks build vocabulary, grammar awareness, and skimming/scanning abilities. Speaking and writing are developed through structured practice in short answers, picture descriptions, emails, and paragraph writing.

By the end of the course, students will be able to perform basic TOEIC-style tasks with confidence and begin integrating skills under timed conditions.

<授業の到達目標>

- a) Students will be able to understand and respond accurately to basic TOEIC listening and reading tasks.
- b) Students will be able to produce short spoken and written responses using appropriate vocabulary and grammar for TOEIC scenarios.
- c) Students will be able to apply test-taking strategies to manage time, interpret instructions, and avoid common mistakes.
- d) Students will be able to reflect on their performance, self-correct, and develop independent study strategies for TOEIC preparation.

<授業の方法>

- ・Lecture-based explanation of test structure and grammar points
- ・Guided exercises for controlled skill development
- ・Pair and small-group communicative tasks for active learning
- ・Timed practice tests and feedback sessions
- ・Integrated listening, reading, speaking, and writing practice

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ・Pair interviews and role-plays simulating TOEIC scenarios
- ・Information-gap exercises (maps, menus, schedules)
- ・Vocabulary building through matching, collocation, and context practice
- ・Peer feedback on speaking and writing
- ・Mini timed quizzes and mock sections
- ・Guided paragraph and email writing practice

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students are expected to devote approximately 2–3 hours per week for review, vocabulary practice, and timed TOEIC exercises.

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Grading will consist of in-class participation and homework (40%) and final test (60%).

<教科書>

All materials will be created by the lecturer.

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Theme: Overview of TOEIC Test	Content: Students are introduced to TOEIC Listening and Reading sections, as well as optional Speaking and Writing sections. The teacher explains test timing, question types, and scoring. Students complete a short diagnostic listening and reading test to determine current skill levels. Strategies such as listening for key words, scanning text for details, and

		eliminating wrong answers are discussed. Students review basic vocabulary and grammar commonly seen on TOEIC. A short reflective discussion allows students to set goals for the course. Content: Students practice listening to descriptions of photographs and matching them to the correct Image. Vocabulary for objects, places, and actions is introduced and reinforced.
2	Theme: Observing and Describing Images	Controlled listening drills focus on key details such as position, color, and action. Pair work allows students to describe photographs aloud to a partner, checking for accuracy. Listening comprehension exercises include short audio prompts and multiple-choice questions. Students write a brief description of one photograph using key vocabulary. Content:
3	Theme: Understanding Short Questions and Answers	Students practice listening to short questions and identifying correct responses. Common TOEIC question-response patterns are introduced, including simple yes/no, short-answer, and clarification responses. Controlled drills focus on intonation and stress in both questions and answers. Pair activities simulate short conversations where students must choose or produce correct responses. Listening comprehension worksheets are completed individually. Students reflect on common traps and strategies to avoid them. Content:
4	Theme: Identifying Main Ideas in Conversations	Students listen to two- to three-speaker conversations and identify main ideas and specific Details. Note-taking techniques are introduced and practiced with guided exercises. Pair discussion follows where students compare notes and confirm answers. Listening drills include comprehension questions that focus on speaker intention and sequence of events. Vocabulary related to daily life, business, and travel is reinforced. Students write a short paragraph summarizing the conversation using key phrases and transitions. Content:
5	Theme: Listening for Detail and Sequence	Students practice listening to short talks, announcements, and presentations. Activities focus on identifying main ideas, sequence of events, and specific numeric or factual details. Guided note-taking exercises are provided to improve information retention. Pair discussion allows students to ask each other questions about what they heard. Listening worksheets include multiple-choice and short-answer questions. Students write a short summary paragraph including main points and supporting details. Content:
6	Theme: Grammar and Vocabulary for Completion	Students review key TOEIC grammar points such as verb tense, subject-verb agreement, prepositions, and article use. Strategies for eliminating wrong answer choices are practiced in controlled exercises. Pair activities involve analyzing sample sentences and explaining the reasoning behind answer choice. Timed exercises simulate test conditions. Vocabulary relevant to business, travel, and daily life is reinforced. Students write five sentences of their own using the structures reviewed. Content:
7	Theme: Completing Short Paragraphs	Students practice reading paragraphs and filling in missing words or sentences. Strategies include predicting content from context and understanding logical flow. Pair exercises allow discussion of choices and reasoning. Listening or reading context clues are incorporated where possible. Exercises integrate new vocabulary and reinforce grammar structures. Students write a short paragraph completing a partially given text, ensuring cohesion and grammatical accuracy. Content:
8	Theme: Skimming and Scanning Techniques	Students are introduced to longer passages and practice skimming for main ideas and scanning for details. Techniques for managing time and approaching multiple-choice questions are explained. Pair practice involves reading a passage and asking each other comprehension questions. Listening exercises may complement reading where dialogues or announcements appear in the text. Students summarize the passage in their own words in 3–4 sentences. Vocabulary from the reading is reinforced through matching and gap-fill exercises.

9	Theme: TOEIC-Relevant Vocabulary	Content: Students practice vocabulary in context, focusing on business, travel, and daily life. Word families, synonyms, and common collocations are reviewed. Pair activities include matching words with definitions, using words in sentences, and creating mini -dialogues. Listening practice reinforces vocabulary recognition in short audio clips. Students write sentences using new vocabulary. Homework focuses on flashcards and mini-quizzes to reinforce retention.
10	Theme: Pronunciation and Fluency	Content: Students practice reading short sentences aloud clearly and with natural rhythm. Teacher models stress, intonation, and linking words. Pair practice involves reading to a partner and providing feedback. Listening activities include identifying correct pronunciation in audio recordings. Students record themselves reading aloud to monitor improvement. A brief reflection and discussion focus on clarity and intonation patterns.
11	Theme: Responding to Familiar Questions	Content: Students practice answering questions about familiar topics such as hobbies, family, and work. Model answers are provided for structure and vocabulary support. Pair interviews simulate test conditions. Listening tasks reinforce the correct intonation and answer length. Students work on full sentences rather than one-word responses. Writing a short paragraph with possible responses helps reinforce structure and vocabulary.
12	Theme: Extended Responses and Organization	Content: Students learn strategies to describe pictures using location, action, and details. Pair activities involve describing a picture to a partner without showing it. Controlled prompts guide students to organize ideas logically. Listening exercises include following a partner's description to match the correct image. Students practice fluency by timing themselves while speaking. Writing task: a short descriptive paragraph based on one picture.
13	Theme: Grammar Accuracy and Clarity	Content: Students review sentence structure, word order, and punctuation. Exercises involve correcting errors in short sentences. Pair editing allows peer feedback. Students practice expanding simple sentences into slightly longer ones. Controlled writing exercises simulate TOEIC sentence-completion tasks. Homework: write five sentences using recently learned grammar structures.
14	Theme: Formal Email Writing	Content: Students learn email structure: greeting, purpose, body, closing. Sample prompts are provided for requesting information or providing updates. Pair review allows students to critique each other's drafts. Focus is placed on tone, clarity, and appropriate vocabulary. Students write one email individually and share with the teacher for feedback. Vocabulary and transitional phrases are reinforced through exercises.

科目コード	T110207				区 分	教養			
授業 科目名	TOEICⅢ				担当者名	古賀 敢人			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

TOEICの総合スコアを伸ばすために、解説と演習を繰り返す。

<授業の到達目標>

TOEICで400点以上（一般学生）、700点以上（留学生）を目指す。

<授業の方法>

本授業では、講義、演習、ペアワークおよびグループ活動を組み合わせながら授業を進める。語彙・文法・リスニング・リーディング等の英語運用能力を高めるため、実践的な課題やミニゲーム等も取り入れ、学生の主体的な参加を促す。

また、ICTを活用し、Google Classroom等の学習管理システムを通じて授業資料の配布、課題提出、フィードバックを行う。必要に応じてオンライン教材や動画資料を活用し、授業内外での学習を支援する。

授業では理解度を確認するための小テストや演習を適宜実施し、学生同士のディスカッションや発表活動を通して学習内容の定着を図る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内容の理解を深めるため、毎回の授業に対して以下の準備学習を行うこと。

予習（約90分）

授業で扱う語彙・表現・テーマについて事前に確認し、指定された教材の該当箇所を読み、重要語彙や内容の概要を把握しておく。

また、必要に応じてオンライン教材（Google Classroom等）に掲載された資料や動画を確認し、授業内容について自分なりの疑問点を整理しておく。

復習（約90分）

授業で学習した語彙・表現・文法・リスニング内容を整理し、ノートの見直しおよび課題演習を行う。特に英語運用能力向上のため、音読・シャドーイング・語彙確認等を行い、理解を定着させる。また、Google Classroom等で提示された復習課題やオンライン教材に取り組み、学習内容の定着を図る。

合計：約180分（3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

TOEIC IPテスト（期末） 40%

小テスト（語彙・リスニング確認等） 20%

課題（オンライン課題・演習問題等） 20%

授業参加・授業内活動（演習・グループワーク等） 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	TOEICテストの理解とスコアアップ戦略	内容 ・コース説明・レベル確認 ・TOEICテスト構成の確認 ・よくある間違い ・時間配分の戦略 活動 ・ミニ模試（Listening + Reading） ・自己分析 TOEIC Part 2（応答問題）の攻略
2	日常会話のリスニング強化	・疑問文パターン ・間接的な返答 ・活動

		Listening drills ・ペアでQ&A練習 ・シャドーイング TOEIC Part 3 対策 ・会話の目的を聞き取る ・推測問題 活動 ・会話問題演習 ・ロールプレイ ・情報メモ取り TOEIC Part 4 対策 ・重要情報の聞き取り ・キーワード予測
3	職場の会話理解	
4	アナウンス・説明の理解	活動 ・Listening note-taking ・要約練習 ・問題演習 TOEIC Part 5 ・品詞問題 ・時制・前置詞
5	文法問題の攻略	活動 ・Grammar drills ・スピード問題演習 ・ミス分析 TOEIC Part 6 ・文脈から語彙を推測 ・接続詞・論理展開
6	文脈理解と語彙	活動 ・短文読解 ・空所補充練習 ・ペアディスカッション TOEIC Part 7 ・Email ・Notice ・Advertisement
7	ビジネス文書の読解	活動 ・スキミング ・スキヤニング ・情報検索 ・ミニTOEICテスト ・弱点分析 ・スコアアップ戦略
8	模擬試験と総復習	活動 ・模試実施 ・解説 ・個別フィードバック
9		
10		
11		
12		
13		
14		

科目コード	T110209				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 I [a]				担当者名	小川 千尋			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	1.00単位	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、屋内スポーツであるバレーボール、バスケットボール、バドミントン等を行う。

<授業の到達目標>

本授業は、主に室内で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで、それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし、次の4点を到達目標とする。

- ①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ、能力に応じ実践できる
- ②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる
- ③ゲームの流れとルールを理解し、審判ができる

<授業の方法>

1. 点呼・ウォーミングアップ (10分)
2. 本時の学習の確認 (10分)
3. 基礎技術の練習 (20分)
4. グループ活動 (20分)
5. ミニゲーム、試合 (30分)
6. 振り返り・片付け (10分)

UNIVERSAL PASSPORTによる課題提示

Googleフォームを使用した授業のリフレクションを毎授業で実施

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

各種目の後半では「問題解決型学習」として、技術の習得をする為に練習の機会を設けたり、試合の戦略を学生同士で話し合いをすることで、運動に親しむ基礎を身に付ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施種目についてルールやテクニックについて調べたり、練習を行ったりする（90分）

復習：本日学んだことや課題を明らかにし練習を行い技術の習得に努める（90分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%、グループ（チーム）内における態度・協調性30%、事前課題・事後課題 20%、技術の上達度20%によって評価する。

〔受講上の注意〕

グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも、1/4 を超えてはならない。なお、3分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また、遅刻は原則として認めない。

実技の際は必ずトレーニングシャツ、トレーニングパンツ、運動靴（体育館用）を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

<教科書>

特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

<参考書>

授業時に指示

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツの意義と目的（スポーツ①/体力テスト）	からだを動かす意義 授業の進め方 体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
2	スポーツの意義と目的（スポーツ①/体力テスト）	からだを動かす意義 授業の進め方 体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施

3	スポーツ②（個人種目）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
4	スポーツ②（個人種目）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
5	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
6	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
7	スポーツ④（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
9	スポーツ④（集団種目）	フォークダンスやリズムダンスでの創作活動
10	スポーツ④（集団種目）	フォークダンスやリズムダンスでの創作活動
11	スポーツ⑤（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
12	スポーツ⑤（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
13	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施
14	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施

科目コード	T110209				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 I [b]				担当者名	小川 千尋			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	1.00単位	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、屋内スポーツであるバレーボール、バスケットボール、バドミントン等を行う。

<授業の到達目標>

本授業は、主に室内で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで、それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし、次の4点を到達目標とする。

- ①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ、能力に応じ実践できる
- ②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる
- ③ゲームの流れとルールを理解し、審判ができる

<授業の方法>

1. 点呼・ウォーミングアップ (10分)
2. 本時の学習の確認 (10分)
3. 基礎技術の練習 (20分)
4. グループ活動 (20分)
5. ミニゲーム、試合 (30分)
6. 振り返り・片付け (10分)

UNIVERSAL PASSPORTによる課題提示

Googleフォームを使用した授業のリフレクションを毎授業で実施

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

各種目の後半では「問題解決型学習」として、技術の習得をする為に練習の機会を設けたり、試合の戦略を学生同士で話し合いをすることで、運動に親しむ基礎を身に付ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施種目についてルールやテクニックについて調べたり、練習を行ったりする（90分）

復習：本日学んだことや課題を明らかにし練習を行い技術の習得に努める（90分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%、グループ（チーム）内における態度・協調性30%、事前課題・事後課題 20%、技術の上達度20%によって評価する。

〔受講上の注意〕

グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも、1/4 を超えてはならない。なお、3分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また、遅刻は原則として認めない。

実技の際は必ずトレーニングシャツ、トレーニングパンツ、運動靴（体育館用）を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

<教科書>

特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

<参考書>

授業時に指示

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツの意義と目的（スポーツ①/体力テスト）	からだを動かす意義 授業の進め方 体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
2	スポーツの意義と目的（スポーツ①/体力テスト）	からだを動かす意義 授業の進め方 体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施

3	スポーツ②（個人種目）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
4	スポーツ②（個人種目）	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
5	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
6	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
7	スポーツ④（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
9	スポーツ④（集団種目）	フォークダンスやリズムダンスでの創作活動
10	スポーツ④（集団種目）	フォークダンスやリズムダンスでの創作活動
11	スポーツ⑤（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
12	スポーツ⑤（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
13	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施
14	スポーツ⑥（集団種目）	チーム対抗競技の実施
		まとめ

科目コード	T110301				区 分	教養			
授業 科目名	心理学				担当者名	田原 俊司			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、心理学の初学者を対象に心理学の基礎的事項についての理解を深め、日常生活や就労後に起こりがちな問題の解決に向けて心理学の知見を活用・応用してウェルビーイングな生活ができるようになることを目指す。具体的には、心理学の主要な分野で得られた知見を広範にかつ深化させる学習を通して、心理学的「こころ」の理解を深め、実践・応用できるようにする。心理学の主な分野としては、記憶、感情（情動）、思考、発達心理、臨床心理、人格心理学、社会心理等を網羅する。

<授業の到達目標>

- ・事前学習にしっかりと取り組み、講義内容で「分かること」と「分からないこと」を区別できるようになる。
- ・解説やグループディスカッション、発表を通して「なぜそうなのか？」を理解し、他者に説明できる。
- ・日常生活において本講義で得られた知見を活用・応用し、実践できるようになる。

<授業の方法>

1. 出席確認と事前提示資料の内容理解確認小テスト（10分）
2. 解説・質疑（40分）
3. 設定した課題に対するグループディスカッションと発表（20分）
4. 解説・質疑・意見交換（20分）
5. リフレクションシートの作成・提出（10分）

※授業関連の活動（資料の提示、内容理解確認テストの提出、リフレクションシートの提出等）については、Google Classroomで行います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッションやネット検索を通して「予習し議論に備える姿勢」「知識を主体的に学ぼうとする姿勢」「考えの異なる人と議論しようとする姿勢」を身につけるとともに、発表により簡潔に分かりやすく他者に意見・説明を伝えることができるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- ・予習：事前にGoogle Classroomにより提示された資料を読み、内容を要約。要約した内容はGoogle Classroomにより提出する（100分程度）。
- ・復習：提示された資料、および講義終了時に提出したリフレクションシートを再確認し、必要に応じて提出したリフレクションシートを修正する（100分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
 DP1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
 DP4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、内容理解確認小テスト 15%、グループディスカッションへの貢献度 20%、リフレクションシートの提出 15%、最終課題 30%

<教科書>

<参考書>

田原俊司（2010年12月1日） 心の健康相談室 健学社
 田原俊司（2017年3月1日） 心の健康教育 健学社
 田原俊司（2020年12月30日） 心の健康教育（中高生用） 健学社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	記憶のメカニズム	記憶と睡眠の関係、睡眠障害
2	感情（情動）(1)	情動と認知、行動との関係
3	感情（情動）(2)	情動のコントロール
4	思考	思考と言語の関係、外言、内化
5	発達心理(1)	受精～乳児期
6	発達心理(2)	幼児期～児童期
7	発達心理(3)	青年期、成人期、老年期
8	臨床心理(1)	DSM-5、および心身相関
9	臨床心理(2)	うつ症状と対応

10	臨床心理(3)	適応障害と対応
11	パーソナリティ心理(1)	パーソナリティとA群パーソナリティ障害への対応
12	パーソナリティ心理(2)	B群パーソナリティ障害への対応、C群パーソナリティ障害への対応
13	社会心理学	リーダーシップと認知的斉合性
14	まとめ	1～14回の学習内容を最終課題として提出

科目コード	T110304				区 分	教養科目			
授業科目名	数学基礎 I				担当者名	安井 良彰			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

経済経営やICTの現場で求められる数理科学的な知識とスキルを基礎から学ぶ。前期は初等数学の問題からスタートし、高等数学を学ぶ上で必要となる基礎知識を固める。後半では経済数学や数理科学の分野では必須でありながら高校数学では扱わない線形代数の基礎を学ぶ。

<授業の到達目標>

国際経済経営の分野でデータを科学的に分析できるスキルを身につける為、数理データサイエンスで必須の基礎知識を習得する。

<授業の方法>

講義

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

特になし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予備知識となる高校数学の確認と復習(90分)

授業中に指示された課題(90分)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

宿題などの提出課題30%+小テスト・確認試験 70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論 大学の数学とは(1)	四則演算のおさらいからスタートし、小中学校の算数や初等数学で見落とされがちな問題を再考し大学の数学への道標を示す。
2	序論 大学の数学とは(2)	第1回に引き続き初等数学で見落とされがちな問題を再考し大学の数学への道標を示す。
3	関数(1)	1 変数関数の基本を復習する。
4	関数(2)	逆関数や合成関数など後半学ぶ写像や後期で学ぶ微積分学への準備行う。
5	関数(3)	対数関数や指数関数、三角関数などの復習
6	線形代数(1)	ベクトル演算の初歩を学ぶ
7	線形代数(2)	行列とは 行列の足し算掛け算
8	線形代数(3)	行列の基本変形と連立方程式の解法を学ぶ
9	線形代数(4)	行列の基本変形の意味と逆行列の利用。
10	線形代数(5)	行列式の計算方法と行列式の意味
11	線形代数(6)	余因子行列と逆行列の一般形
12	線形代数(7)	線形写像
13	線形代数(8)	回転行列と三角関数
14	まとめと確認	復習と定着度の確認

科目コード	T110404				区 分	教養科目			
授業 科目名	ボランティア活動 [通年集中]				担当者名	董 航／小川 千尋			
配当年次	1年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、ボランティア活動に対する関心が高まっており、その分野は福祉、教育、まちづくり、文化・芸術、スポーツ、環境、災害、国際協力など多岐に渡っている。これからの社会を考えると、一人ひとりが地域における課題を察知・認識し、課題解決に向け主体的に行動・活動することが求められる。本授業では実際のボランティア活動を通して、社会が直面する問題を理解していく。

<授業の到達目標>

ボランティア活動をおこなう地域、施設、団体などの沿革・事業を理解するとともに、社会貢献としてのボランティア活動の意義を体得する。

<授業の方法>

自分が選んだ地域・施設・団体において最低20時間のボランティア活動を行う。事前指導の受講、規定時間以上のボランティア参加、各活動の報告書提出、レポートによる報告を行うことで授業としての活動を認める。詳細は都度UNIVERSAL PASSPORT上にて連絡する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ボランティア活動はアクティブラーニングと位置付けられている。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：都度参加するボランティア活動について調べることを、ならびに事前指導等に伴う諸活動に参加すること（90分）

復習：活動報告書の作成、ボランティア報告会等の諸活動に参加すること（90分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ボランティア活動オリエンテーション（10％）、ボランティア活動参加（60％）、ボランティア活動事後レポート（30％）

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ボランティアとは何か
2	ボランティアマナーについて	ボランティアだけでなく就職活動にも使えるマナー学習
3	ボランティア事前指導（1）	どのようなボランティア活動をしたいか考える
4	ボランティア事前指導（2）	ボランティア活動先を探す（1）
5	ボランティア事前指導（3）	ボランティア活動先を探す（2）
6	ボランティア活動（1）	地域・施設・団体でのボランティア活動（1）
7	ボランティア活動（2）	地域・施設・団体でのボランティア活動（2）
8	ボランティア活動（3）	地域・施設・団体でのボランティア活動（3）
9	ボランティア活動（4）	地域・施設・団体でのボランティア活動（4）
10	ボランティア活動（5）	地域・施設・団体でのボランティア活動（5）
11	ボランティア活動（6）	地域・施設・団体でのボランティア活動（6）
12	ボランティア事後指導（1）	レポート作成指導
13	ボランティア事後指導（2）	レポート作成指導
14	ボランティア事後指導（3）	学生のボランティア参加の現状と課題について発表する

科目コード	T110405				区 分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメントⅠ				担当者名	都築 智津子			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」の多面的な意味を理解しながら、自己理解（価値観・強み）と社会理解（産業・職種）を深め、今後の進路選択や学修の基盤となる視点を養う。主体性・コミュニケーション力・応用力を中心に、講義・演習・対話を通じて自分のキャリアを考える姿勢を育成する。また、複数のゲスト講話やふり返りを通じて、働くことへの実感と将来像を広げ、次年度以降のキャリア形成や就職活動につながる気づきを得ることを目的とする。

<授業の到達目標>

- ・「働くこと」の多面的な意味を理解し、自分の言葉で要点を説明できる。
- ・自己理解（価値観・強み）と社会理解（産業・職種）を整理し、関心分野を簡潔に要約できる。
- ・主体性・コミュニケーション力・応用力を演習で発揮し、行動と学びを短く記述できる。
- ・授業やゲスト講話からの学びを基に、次の行動（One Action）と簡易的なキャリア計画を示せる。

<授業の方法>

1. 出席確認と前回の振り返り（10分）
2. 講義（40分）
3. 個人ワーク/グループワーク/ディスカッション（40分）
4. 意見交換/まとめ（10分）

※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。

※履修者の理解度を勘案して、授業の順序や内容は変更になることがあります。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ・グループディスカッションによる、多様な価値観・職業観の共有と理解の深化。
- ・個人ワーク（価値観・強みの整理／経験の短文化）による、主体的な思考の促進。
- ・ペアワークや相互コメントによる、自分の考えの明確化と改善点の把握。
- ・ミニケース検討による、状況に応じた考え方・判断の基礎の養成。
- ・ゲスト講話の事前質問づくり・事後の次の一歩（One Action）の設定による、自分事化の促進。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 予習（各回 90分）

次回テーマに関係する自分の経験・観察をメモ化。

2. 復習（各回 90分）

授業で扱ったキーワードと学びを1ページに要点整理。演習や対話で得た気づきを1つ挙げ、「次の一歩（One Action）」を1つ記入。

3. 中間前（60～90分）

前半のキーワードと要点の再確認。短答・用語確認・ミニケースの自作解答を各1題ずつ。自分の弱点を1つ明確化。

4. 期末前（60～90分）

学期全体の要点を再整理（働く意味／自己理解／社会理解／コミュニケーション）。想定Q&Aを2～3問作成し、個人ふり返りシート（学んだこと・気づき・今後の行動）を下書き。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・小課題・取り組み姿勢 30%、中間ミニテスト（授業内） 20%、最終確認（筆記） 35%、個人ふり返りシート 15%

<教科書>

なし

<参考書>

田中 研之輔（2019年8月7日） プロティアン ― 70歳まで第一線で働き続ける最強のキャリア資本術 日経BP

安宅 和人（2024年9月22日） イシューからはじめよ ― 知的生産の「シンプルな本質」〔改訂版〕 英治出版

金井 壽宏（2002年1月15日） 働くひとのためのキャリア・デザイン PHP新書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
---	-----	---------

1	オリエンテーション・導入／働くことの意味を考え、本授業の目的と進め方を理解する	・科目の目的・進め方の説明 ・働くことの多面的な意味（生活・社会貢献・自己実現）の整理 ・現時点の不安・期待の可視化と共有
2	自己理解①：価値観を整理し、自分にとって大切な基準を見つける	・自分が大切にしたい価値観の抽出 ・経験や日常場面との関連づけ ・価値観から見えてくる興味の方向性
3	自己理解②：強みと興味の手がかりを整理し、自分らしさの基盤をつくる	・強みの見つけ方（経験・没入・他者の視点） ・強みを活かせる場面のイメージ化 ・短い自己紹介の基礎づくり
4	社会理解①：産業と職種の全体像を学び、社会理解の視点を身につける	・社会に存在する産業・仕事の大まかな把握 ・仕事を捉える基本視点（何をしている／誰のため／どんな価値を生む）の習得 ・関心分野の仕事の要点整理と簡潔な説明準備
5	社会理解②：働く現場への理解を深め、社会理解を広げる	・関心分野の仕事の特徴を簡潔に要点化 ・企業・仕事調べの視点（概要の読み取り） ・自己理解とのつながりの確認
6	ゲストスピーカー①：就活終了学生・若手社会人から働くリアルを学ぶ	・講話と質疑 ・働くことのリアルとキャリアの初期経験を学ぶ
7	中間ミニテスト＋前半の振り返り	・ミニテスト（基礎概念の理解確認） ・自己採点による弱点の把握
8	コミュニケーション基礎：聴く・伝えるの基本を知り、コミュニケーションの土台をつくる	・聴き方・要点整理の基礎 ・30秒自己紹介の構成と練習 ・ペアでのフィードバック
9	ゲストスピーカー②：一般企業の人事担当者からのアドバイス／夏季インターンシップについて	・就活に向けてのロードマップ ・夏季インターンシップオリエンテーション
10	自己表現：自分の経験を整理し、簡易的な自己PRをつくる	・行動→結果→学びの整理 ・90秒自己PRの骨子づくり ・経歴書・エントリーシートの書き方基礎
11	ゲストスピーカー③：人事エージェント会社より	・就活に向けてのロードマップ ・インターンシップオリエンテーション
12	3か月の振り返りと今後について	・振り返りと現状認識 ・自身の行動特性の把握と今後に向けての改善・活用
13	ゲストスピーカー④：人事エージェント会社より	・就活に向けてのロードマップ ・活用ツールについてのオリエンテーション
14	最終テストと振り返り	・最終テストと振り返り ・夏休みに向けての行動計画策定

科目コード	T220101				区 分	専門基礎			
授業科目名	経営学概論				担当者名	糟谷 崇			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修科目

<授業の概要>

この講義は、企業経営の基本を学ぶ科目である。企業の役割・目的・責任といった企業に関する基礎的知識およびビジネスの全体像を把握するために必要不可欠となる企業を取り巻く環境についての基本的な理解を得ることを目的とした講義である。本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、企業経営にとって重要と思われるニュースが生じた場合、受講生の理解や興味・関心に応じて講義内容を変更する場合がある。こうした進行予定の詳細や受講上の注意・評価方法等の詳細については授業内で説明するので、必ず出席をすること。

<授業の到達目標>

- ① 全国紙に紹介されている記事、ビジネス雑誌・ビジネス関連書籍で頻出している用語を理解できるようになる。
- ② 日本の経済・経営のトピックスおよびビジネスの最新事例について理解できるようになる。
- ③ 経営学の理論を学習するために必要となる基礎的知識を習得する。

<授業の方法>

パワーポイントを用いて講義を進める。テキストは使用しない。授業の最後に毎回、学生諸君の意見を書いてもらう（コメントシート）。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

事例を中心に、学生諸君と討議する時間を設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<予習> (各60分)

次の講義内容について、新聞・雑誌等を参考に具体的な企業・事例を調べてくること。

<復習> 下記のテーマに沿って新聞・雑誌等を読み、
授業内容についてまとめたものをファイリングしてください。
また自分なりの考察を加えたものをレポート形式にまとめること
(各180分)

- 第1回 経営と経営学の違い
- 第2回 会社は誰の物か
- 第3回 経営者に必要な資質
- 第4回 会社の社会的責任
- 第5回 生産システム
- 第6回 破壊的イノベーション
- 第7回 サプライチェーン
- 第8回 出店計画
- 第9回 新商品開発
- 第10回 業務管理の手法
- 第11回 モチベーション
- 第12回 給与体系
- 第13回 ワークライフバランス
- 第14回 ビジネスモデル

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題（80%）＋ コメントシート（20%）

レポート課題については学生の理解度に応じて複数回、提出を求めることがある。

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
---	-----	---------

1	第1回 イン트로ダクション	経営と経営学の違いについて考える。
2	企業のしくみ①	会社って誰の物 会社の所有権について考える。
3	企業のしくみ②	経営者とはどんな人 経営者の資質について考える。
4	企業のしくみ③	会社の役割 会社の社会性・営利性について考える。
5	生産のしくみ①	モノづくり 生産システムについて考える。
6	生産のしくみ②	新しいものづくり イノベーションについて考える。
7	流通・販売のしくみ①	流通について サプライチェーンについて考える。
8	流通・販売のしくみ②	モノの売り方 出店について考える。
9	流通・販売のしくみ③	商品について 商品開発について考える。
10	組織のしくみ①	仕事ってどんなもの 業務管理について考える。
11	組織のしくみ②	やる気を引き出す モチベーションについて考える。
12	労働のしくみ①	給与ってどう決まる？ 給与体系について考える。
13	労働のしくみ②	働くカタチ 働き方について考える。
14	これからの企業経営について	新しい企業経営 新しいビジネス・現代の経営課題について考える。

科目コード	T220102				区 分	専門基礎			
授業 科目名	経済学概論 [週2オンデマンド]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義（オンデマンド）	卒業要件	必修

<授業の概要>

経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済学の体系、経済学的ものの見方、経済学を学ぶ上での基礎知識、キーワードとなる経済用語、経済社会の構造などを学ぶ。

<授業の到達目標>

マクロ経済学、ミクロ経済学、その他の経済系専門科目を学ぶための基礎知識を身につける。

<授業の方法>

Google Classroomを使いオンデマンドの講義形式で行う。クラスコード：x3ygimmc

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義に際しては、毎回講義の理解についてGoogle Classroomを使い確認を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

経済学の基礎となる授業なので、わからないところは、繰り返し。動画を見ること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業の課題・感想（40%）とまとめレポート（60%）で評価する。

<教科書>

<参考書>

飯田幸裕・岩田幸訓（2022） 入門経済学〔第四版〕 創成社
宿輪純一（2024） はじめまして、経済学 株式会社ウェッジ

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	経済学とは何か	経済学とはどういう学問かについて解説をおこなう。
2	グラフの見方・書き方	マクロ経済学、ミクロ経済学で使う基本的なグラフの見方・書き方を練習する。
3	国内総生産（GDP）	マクロ経済学の基礎となる国内総生産（GDP）の概念、その規模や世界各国GDPの比較をおこなう。
4	生産・所得・消費の決定	生産・所得・消費がどのようにして決まるかを考える。
5	貨幣	貨幣の成り立ち、貨幣の役割、さらには新しい貨幣（デジタル通貨、仮想通貨）について考える。
6	マクロ経済政策	経済をどのようにコントロールするか、財政政策、金融政策を中心に考える。
7	インフレ、デフレ、失業	インフレ、デフレの要因とその経済への影響、失業との関係などを考える。
8	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学とは何かを解説する。
9	需要と供給	需要と供給の関係をさまざまな例をもとに考える。
10	需要と効用	消費者剰余、効用について考える。
11	供給と利潤	供給の決定、費用、利潤最大化について考える。
12	競争と独占	自由競争状態、独占状態について解説し、その問題点を考える。
13	市場の失敗、ゲームの理論	市場はなぜ失敗するのかを理論的に考える。また、ゲームの理論の基礎を学ぶ。
14	まとめ	講義全体のまとめを行う。

科目コード	T220103				区 分	専門基礎			
授業科目名	マーケティング総論				担当者名	上田 隆穂			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

この授業は、マーケティングの基本と、事例に基づいた実践について学ぶことを目的としている。理解を深めるために、理論面だけでなく、できるだけ事例を用いて、わかりやすい内容を目指している。マーケティングの内容は、変化のスピードがはやいため、旧来の理論からできるだけ新しい理論や、そして新しい領域を含めて解説する。特に地域活性化等はまだ理論面も十分に確立しているわけではないので、多くの事例を示しながら解説を行い、理解を含めていく。

<授業の到達目標>

1. 消費者あるいは市場の問題に接したとき、いかなる考え・理論に基づいて対応を考えるかがわかるようになる。
2. 他のマーケティング事例に接したときに、その成功要因が何であるか理解できるようになる。

<授業の方法>

基本的にはパワーポイントを用いて講義を行う。事例ごと質問を投げかけて答えてもらうこともある。なお、期間中に1度は企業等のゲストスピーカーを迎え、マーケティング事例の講演をしてもらう。その際には感想文を課す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングほどではないが、講義中にQ&Aは行うつもりである。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 教科書を事前に読んで来てもらう。（30分）
2. 復習として講義でのポイントを振り返る（20分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート（感想文）20点、学習意欲 30点、期末レポート50点

<教科書>

上田隆穂，澁谷寛，西原彰宏（2020年12月） グラフィックマーケティング これ以外に、参考資料を配布することがある。 新世社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	シティバンクの日本進出のケースからマーケティングの基礎を学ぶ、マーケティングの4P, STP等	まずマーケティングにおいて重要な事柄をクイズ形式で学び、その後でシティバンクの事例でマーケティングの基礎を学ぶ
2	マーケティングにおいて消費者の感じる価値の4階層を学ぶ、	これらの価値の意味するところは何か、事例を持って学んでいく。
3	マーケティングを構成する戦略は3つの種類からなり、それぞれを学ぶ	競争市場戦略、マーケティング・マネジメント戦略についてその内容を学ぶ
4	マーケティングを構成する戦略のうち残りの1つソーシャル・マーケティングについて学ぶ	ソーシャル・マーケティングは現在、サステナブル・マーケティングにまで拡張しており、その流れと重要性、そして事例により本質を学ぶ
5	マーケティングにおいて顧客との関係性をどうマネジメントしていくかについて学ぶ	このリレーションシップ・マーケティングの必要な理由について、概要について、それを構成するライフタイム・バリュー等の要素を学ぶ。
6	リレーションシップ・マーケティングの実例を解説	企業の事例や演劇マーケティングの事例などを学ぶ。
7	企業からゲストスピーカーを招き、同社の事例から実際のマーケティングを学ぶ	より実践的なマーケティングをお話いただき、担当教員とのディスカッションを聞いて学ぶ。また学生にも質問もしてもらう。
8	簡単な事例でプロダクト・マネジメントを学び、関連する製品ライフサイクルの理論などで学習する	ハイチオールC等の事例を学び、製品ライフサイクル論や新製品の普及理論の詳しい内容について学ぶ
9	定性的な新製品開発方法を学ぶ	観察による方法、深層心理分析による方法について学ぶ

10	定量的な方法に基づくプロダクト・マネジメント1を学ぶ	定量的な新製品開発方法についての概要を学ぶ
11	定量的な方法に基づくプロダクト・マネジメント2を学ぶ	多変量解析を用いた一般的な手法を学ぶが、やや難解であるため、事例を用いて概要をわかりやすい方法で学ぶ
12	サービス・マーケティングについて学ぶ	サービス・マーケティングの内容を学び、またサービス・ドミナント・ロジックについても理解を深める。営利機関と非営利機関のサービス・マーケティングを学び、また3つの財による特徴などを学ぶ
13	マーケティングの重要要素の1つである価格つまりプライシングについて学ぶ	プライシングを構成する内容について学ぶ。プライシングの内容は多岐にわたるが、重要なもののみをピックアップし、それぞれについて理解を深める
14	地域活性化の定義、分類、そして地域ブランディングの重要性、方法について学ぶ	地域活性化の事例は多いが、まだ確立していない分野であり、分類などを通じて理解を深め、どう具体的に実施するかについて学ぶ

科目コード	T220104				区 分	専門基礎			
授業科目名	簿記入門Ⅰ 〔①〕				担当者名	武末 朝生			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

- ①本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）の基本を学ぶ。
- ②簿記を学修することにより、経営・経済を理解するために必要な基礎知識を修得することができる。
- ③また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。
- ④問題集を利用して、一つ一つの論点を確実に理解することに重点を置く。
- ⑤全国経理教育協会主催の簿記能力検定試験「3級商業簿記」（以下「全経3級」）を受験し、合格することを目標とする。

<授業の到達目標>

- ①全経3級に合格するための知識を身につける。
- ②簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ。
- ③基本的な取引の仕訳ができるようになる。
- ④取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する。

<授業の方法>

- ①授業の開始時に、前回の復習を行う。
- ②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う。
- ③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること。
- ④手書きの問題演習を主体とする。
- ⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ①練習問題の解答について、順番に「プレゼンテーション」してもらう。
- ②質問を投げかけて、インタラクティブに「ディスカッション」する時間を設ける。
- ③GoogleClassroomのデジタル教材などを通じて、フォローアップする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- ①予習：テキストを読んで例題を解き、授業の内容について事前に確認して、質問をまとめておく。（1時間）
- ②復習：授業で取り扱った練習問題を解く。追加で配布される練習問題がある場合には、解答する。（2時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価方法：授業に対する積極的な態度・小テストなどの平常点 60%、期末テスト 40%
 フィードバック：授業時間中に、演習問題の解答・解説を行う。

<教科書>

伊藤 正義（著）2024年2月18日 初学者・留学生在が合格できる 全経簿記3級テキスト&模擬問題集（※「簿記入門Ⅱ」でも同じ教科書を使います。） 日本能率協会マネジメントセンター
 TAC簿記検定講座（2025年3月20日） 合格ドリル 日商簿記3級 Ver. 15.0（※「簿記入門Ⅱ」でも同じ教科書を使います。） TAC出版

<参考書>

（監修）新田忠誓（編著）桑原知之 2024年2月20日 全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記 ネットスクール出版
 （監修）新田忠誓（編著）桑原知之 2024年2月20日 全経簿記能力検定試験問題集3級商業簿記 ネットスクール出版
 （編著）TAC株式会社 2025年2月27日 よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0 TAC出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	身の回りの簿記
2	仕訳と転記	仕訳 勘定と転記 仕訳帳と総勘定元帳
3	現金と預金	現金と預金 当座預金 小口現金
4	商品売買	三分法 掛取引 返品 商品売買に係る帳簿 売上原価対立法
5	その他の収益と費用	収益の受取り 費用の支払い
6	決算の手続き①	決算とは 試算表の作成

7	その他の債権債務	貸付金と借入金 未収金と未払金 前払金と前受金
8	一時的な処理	仮払金と借受金 消費税の処理 立替金・預り金と給料の支払い 現金過不足
9	有価証券と有形固定資産	有価証券の取得・期末評価 有形固定資産の取得・減価償却
10	株式の発行	株式の発行 株式会社の資本構成
11	決算の手続き②	決算整理記入 売上原価の計算 貸倒の見積もり
12	決算の手続き③	消耗品費の処理 費用の繰延べ 費用の見越し
13	精算表①	精算表の作成方法
14	精算表②	損益計算書と貸借対照表 帳簿の締め切り

科目コード	T220104				区 分	専門基礎			
授業科目名	簿記入門Ⅰ 〔②〕				担当者名	末原 聡			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）の基本を学ぶ。簿記を学修することにより、経営・経済を理解するための基礎知識を修得することができる。また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。問題集を利用して、一つ一つの論点を確実に理解することに重点を置く。全国経理教育協会主催の簿記能力検定試験「3級商業簿記」（以下「全経3級」）を受験し、合格することを目標とする。

<授業の到達目標>

- ①全経3級に合格するための知識を身につける
- ②簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ
- ③基本的な取引の仕訳ができるようになる
- ④取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する

<授業の方法>

- ①授業の開始時に、前回のフィードバックを行う
- ②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う
- ③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること
- ④手書きの問題演習を主体とする
- ⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ①実際の商取引における仕訳の方法等についてのディスカッション
- ②実際の商取引で用いる会計ソフトウェアや証憑書類を用いた実習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<予習>テキストを読み、例題を解く。授業で取り扱う内容について検討し、質問をまとめておく。（1時間）

<復習>授業で取り扱った練習問題を解く。追加で配布される練習問題がある場合には、解答する。（2時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に対する積極的な態度、小テストなどの平常点60% + 定期試験40%

フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

<教科書>

伊藤 正義（著）2024年2月18日 初学者・留学生在が合格できる 全経簿記3級テキスト&模擬問題集 日本能率協会マネジメントセンター

（編著）TAC株式会社 2025年3月20日 合格ドリル 日商簿記3級 Ver. 15.0 TAC出版

<参考書>

（監修）新田忠誓（編著）桑原知之 2024年2月20日 全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記 ネットスクール出版

（監修）新田忠誓（編著）桑原知之 2024年2月20日 全経簿記能力検定試験問題集3級商業簿記 ネットスクール出版

（編著）TAC株式会社 2025年2月27日 よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0 TAC出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	身の回りの簿記
2	仕訳と転記	仕訳 勘定と転記 仕訳帳と総勘定元帳
3	現金と預金	現金と預金 当座預金 小口現金
4	商品売買	三分法 掛取引 返品 商品売買に係る帳簿 売上原価対立法
5	その他の収益と費用	収益の受取り 費用の支払い
6	決算の手続き①	決算とは 試算表の作成
7	その他の債権債務	貸付金と借入金 未収金と未払金 前払金と前受金
8	一時的な処理	仮払金と借受金 消費税の処理 立替金・預り金と給料の支払い 現金過不足
9	有価証券と有形固定資産	有価証券の取得・期末評価 有形固定資産の取得・減価償却

10	株式の発行	株式の発行 株式会社の資本構成
11	決算の手続き②	決算整理記入 売上原価の計算 貸倒の見積もり
12	決算の手続き③	消耗品費の処理 費用の繰延べ 費用の見越し
13	精算表①	精算表の作成方法 決算整理仕訳
14	精算表②	精算表の作成方法 損益計算書と貸借対照表の作成

科目コード	T220104				区 分	専門基礎			
授業 科目名	簿記入門Ⅰ〔再履〕				担当者名	末原 聡			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）というシステムの基本を学ぶ。簿記を学修することにより、経営・経済を理解するための基礎知識を修得することができる。また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。問題集を利用して、一つ一つの論点を確実に理解することに重点を置く。全国経理教育協会主催の簿記能力検定試験「3級商業簿記」（以下「全経3級」）を履修者全員が受験し、合格することを目標とする。

<授業の到達目標>

- ① 全経3級に合格するための知識を身につける
- ② 簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ
- ③ 基本的な取引の仕訳ができるようになる
- ④ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する

<授業の方法>

- ① 授業の開始時に、前回のフィードバックを行う
- ② テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う
- ③ 仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること
- ④ 手書きの問題演習を主体とする
- ⑤ GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ① 実際の商取引における仕訳の方法等についてのディスカッション
- ② 実際の商取引で用いる会計ソフトウェアや証憑書類を用いた実習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<予習>テキストを読み、例題を解く。授業で取り扱う内容について検討し、質問をまとめておく。（1時間）

<復習>授業で取り扱った練習問題を解く。追加で配布される練習問題がある場合には、解答する。（2時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度・受講態度・授業の課題など60%：期末テスト40%

フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

<教科書>

（監修）新田忠誓（編著）桑原知之 2024年2月20日 全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記 ネットスクール出版

（監修）新田忠誓（編著）桑原知之 2024年2月20日 全経簿記能力検定試験問題集3級商業簿記 ネットスクール出版

<参考書>

（編著）TAC株式会社 2025年2月27日 よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0 TAC出版

（編著）TAC株式会社 2025年2月27日 よくわかる簿記シリーズ合格トレーニング日商簿記3級Ver15.0 TAC出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	身の回りの簿記
2	仕訳と転記	仕訳 勘定と転記 仕訳帳と総勘定元帳
3	現金と預金	現金と預金 当座預金 小口現金
4	商品売買	三分法 掛取引 返品 商品売買に係る帳簿 売上原価対立法
5	その他の収益と費用	収益の受取り 費用の支払い
6	決算の手続き①	決算とは 試算表の作成
7	その他の債権債務	貸付金と借入金 未収金と未払金 前払金と前受金
8	一時的な処理	仮払金と借受金 消費税の処理 立替金・預り金と給料の支払い 現金過不足
9	有価証券と有形固定資産	有価証券の取得・期末評価 有形固定資産の取得・減価償却
10	株式の発行	株式の発行 株式会社の資本構成

11	決算の手続き②	決算整理記入 売上原価の計算 貸倒の見積もり
12	決算の手続き③	消耗品費の処理 費用の繰延べ 費用の見越し
13	精算表①	精算表の作成方法
14	精算表②	損益計算書と貸借対照表 帳簿の締め切り

科目コード	T220106				区 分	専門基礎			
授業 科目名	社会調査法 [オンデマンド]				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	選択	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では「社会調査」とはどのようなものか、実生活においてどのように役立てることができるのか、基本的な考え方を説明し、あわせて事例も紹介していく。確かな手続きをもとに「調べる」ことの大事さと公表される結果（データ）が何を意味しているのかを理解を深める。情報発信者となった際には「社会調査」の方法を適切に使えること、また、情報受信者となった際に「社会調査」の方法がどのように使われているかを読み取ることができること、この2つのスキルを習得することをねらいとする。

<授業の到達目標>

- ①社会調査の本質と目的を理解し、科学的な調査手続き（量的・質的調査、標本抽出等）について適切に説明できる。
- ②既存の社会調査事例を収集・分析し、公表されたデータが何を示しているのか、その社会的意味を正確に読み解くことができる。
- ③調査倫理を遵守した上で、自ら調査計画を立案し、収集したデータを適切に分析・報告するスキルを発揮できる。

<授業の方法>

オンデマンド形式とする。クラスルームに掲載される説明に目を通し、課題をおこなうこと。クラスルーム内の機能を通じて対話をおこなう。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめる設計を用意する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：各回の講義テーマ（量的調査、調査倫理、標本抽出等）に関連する参考資料やWebサイトを確認し、専門用語の意味や基本的な考え方を整理して講義に臨む（100分程度）。

事後学習：配布資料を基に講義内容を復習し、提示された社会調査事例の分析やミニ課題を作成する。また、Classroom内の対話機能を用いて他者の意見を参照し、自身の理解を深化させる（100分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 14%、振り返り課題 26%、中間レポート 30%、最終確認テスト 30%

※各回の課題へのフィードバックは、Classroom上でのコメント返却や解説資料の配信を通じて行います。

<教科書>

なし（資料は講師が用意する）

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・ガイダンス	社会調査とは
2	実証となにか	科学的手続きの説明
3	社会調査の種類	量的調査・質的調査・一次分析・二次分析などの説明
4	調査倫理	ヒトを対象にした調査の在り方、倫理に関する資料を提示する
5	研究・調査対象	母集団、標本抽出、特定層の説明
6	調査事例を学ぶ①	国勢調査、行政調査を主に説明
7	調査事例を学ぶ②	視聴率、マーケティング、一般アンケートを主に説明
8	調査事例を学ぶ③	インタビュー、言説分析の説明
9	調査事例を学ぶ④	フィールドワーク、オートエスノグラフィーの説明
10	（中間レポート）社会調査を見つけて提出・報告	各自が気になった社会調査を持ち寄り、提出して、全体で共有する回
11	調査実施の流れ①	調査計画（量的・質的）を考える
12	調査実施の流れ②	調査実施（量的・質的）に至る
13	調査実施の流れ③	データ分析（量的・質的）と結果をわかりやすく公表（とくに図表には凝る）
14	社会調査の意味	本科目の振り返りと学修成果の確認・最終確認テストについて。

科目コード	T220113				区 分	専門基礎			
授業科目名	ビジネス特別講義 I				担当者名	鈴木 達郎			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

タイトル：～ビジネスを変えた素敵な技術の物語～

コンセプト：「答え」を求めるのではなく、「問い＝好奇心」を鍛える授業

ビジネスはこれまで、新しい技術によって大きな影響を受け、変革を遂げてきた。本講義では、ビジネスを大きく変えた素晴らしい技術について、アラカルト的に取り上げて、それぞれの「物語」の解説を行い、さらに議論を深く広く展開する。取り上げる技術は、私自身がこれまでシステムやビジネスの開発に関わってきた中で、関連するものや、なじみのあるものを出発点に選ぶ。また、授業の進め方は、生成AIを積極的に活用することで、学生の皆さんが主体的に参加できるような形を取りたい

<授業の到達目標>

基本的な技術トピックを出発点に、生成AIを使いながら、自分が興味を持ったことを次々に展開させ、何かテーマを見つけて深堀りすることで、技術がビジネスに及ぼす影響の面白さ、奥深さを体験することを目標とする

<授業の方法>

出発点となる技術や核となる技術を解説するとともに、ネットサーフィンのように、次々と生成AIサーフィンを行いながら議論を進める
「答え」を求めるのではなく、「問い＝好奇心」を鍛える
ことに重きを置く（人間らしさ、個性）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

事前課題：基本テーマに関連して、生成AIに聞いてみたい、自分らしい「問い」を考える

事後課題：基本テーマを出発点に、各自、生成AIサーフィンして、何か面白いテーマを各自が見つけて調べる

提出物：生成AIにどんな「問い」をしたか、を順番に記録したもの、と500字以内のまとめ

発表：提出された事後課題から選んで、次の授業内で紹介・発表する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

生成AIを活用することで、事前課題（20分程度）事後課題（20分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題（33%）、事後課題（33%）、発表（33%）、にそれぞれポイントを与え、合計点で成績決める

<教科書>

教科書は特になし

自分のPCで生成AI（Copilot365など自由）を使えるようにしておくこと

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方 成績の付け方 AIの使いかた
2	印刷技術	印刷技術の発明でその当時のビジネスはどう変化したか？
3	電子回路	大規模集積回路の作り方は印刷に似ている？
4	並列計算機	並列計算機のビジネスで時価総額世界No. 1になった会社の強みは？
5	量子コンピューター	量子コンピューターは並列計算機か？
6	銀行システム	銀行業務のシステム化の歴史を調べて、これから銀行はどうなるかを考察せよ
7	仮想通貨	ビットコインに関するナカモトサトシの論文のすごいところは何か
8	OS（オペレーティングシステム）	オペレーティングシステムの仕組みとその具体例をまとめよ
9	人工知能	第二世代の人工知能と第三世代以降の人工知能の大きな違いは何か
10	放送と通信	放送と通信の関係は、どう変化したか
11	インターネット	インターネットはビジネスにどんな影響を与えたか
12	webサービス	最近できたwebサービスで面白い例は？
13	テレワーク	コロナ以降、テレワークは定着したのか

科目コード	T220115				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	ビジネスマナー				担当者名	佐々木 庸子			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

この授業では、会話における他者との接し方、及び、他者から好印象を得ることを学びます。社会で、1つのミッションを成し遂げるには、他者に対して、状況を正確に伝達し、自分の意見を的確に伝え、また、他者の意見を取り入れ、ブラッシュアップを重ねる必要があります。DP①他者との付き合い、感情を調整し、目標を達成できるチカラ、そしてDP⑤異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できるスキルを得ます。

<授業の到達目標>

- ・自分の長所・短所を理解し、他者への上手な接し方を追求します。
- ・他者との相違や感覚の違いが発覚したとき、どのように解決してくのか学びます。
- ・人前で発表・ディスカッションできるスキルを学びます。
- ・身だしなみ、姿勢、発声を磨き、清潔感のある印象を持たれるようにして行きます。

<授業の方法>

- ①出席・セッションタイム（10分）
- ②アイスブレイク（加減を知る）（20分）
- ③宿題の発表とフィードバック（15分）
- ④講義／グループワーク・ロールプレイ・ディスカッション（40分）
- ⑤振り返り／次回の課題の説明（15分）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

演劇的要素を用いたアイスブレイクを実践します。また、実習的要素が多く、課題に対してグループワークやディベート・ディスカッション等を試み、ブラッシュアップを行う形になります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

※授業は「答え合わせの場」と捉え、宿題課題を仕上げ、予習復習をし、疑問点を整理して挑むようにして下さい。

- ・宿題課題の作成（60分）
- ・授業内容の復習（40分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（意欲・関心度）30％、課題準備・レポート提出等30％、習熟度・実技テスト40％

<教科書>

特に出版物は使用せず、必要に応じて資料を配布します。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、目的、評価についての説明。自己紹介をする。
2	アイスブレイク／自己PRスキル	感情のバランスを探る（アイスブレイク）／自己PRのロジックを学ぶ、作成・発表を試みる
3	自己研鑽／ビューティー①	身だしなみ、歩き方、セルフプロモーション等 講師：高田 とも子 先生(モデル)
4	表現マナー①	言葉遣い、表情、基本姿勢等 講師：都築 智津子 先生
5	表現マナー②	言葉遣い、表情、基本姿勢等 講師：都築 智津子 先生
6	アイスブレイク／討論スキル①（集団）	テーマトークでディスカッションの方法を学ぶ
7	アイスブレイク／討論スキル②（集団）	テーマトークでディスカッションの方法を学ぶ
8	アイスブレイク／討論スキル③（1人 対 集団）	ロールプレイングを用いて、討論スキルを養う

9	アイスブレイク／討論スキル④（1人 対 集団）	ロールプレイングを用いて、討論スキルを養う
10	アイスブレイク／ヒヤリングスキル①（個人）	聞き取るチカラ、聞き取ったことを理解するチカラを養う
11	アイスブレイク／ヒヤリングスキル②（集団）	聞き取るチカラ、聞き取ったことを理解するチカラを養う
12	自己研鑽／ビューティー②	身だしなみ、歩き方、セルフプロモーション等、 前回との比較 講師：高田 とも子 先生(モデル)
13	グループ発表の準備③	
14	発表会・振り返り	授業の統括

科目コード	T220202				区 分	専門基礎			
授業 科目名	地域企業経営論				担当者名	藪内 正樹			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

国家や企業によるオリンピックのような競争が展開されるグローバル経済に対し、地域経済は、国民経済の一部であると同時に、人が生まれ、育ち、働き、老いる場でもある。この授業では、千葉県という地域の歴史的特徴、少子高齢化や経済成長の停滞といった日本経済全体の状況を踏まえ、その中で経営改革に取り組む企業の事例を学ぶ。

<授業の到達目標>

1. 地域経済の特質や課題に関する専門的知識を身につけ、説明できる。
2. 地域企業の経営に関する知識や思考力を身につけ、経営改革の提案ができる。

<授業の方法>

パワーポイント画面を事前に配信し、対面授業で投射しながら講義する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回40分間講義し、その要点を10分の休憩中に書いて提出する。それを2回繰り返す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

掲示された授業資料を事前に読み、分からない言葉や内容を調べる（90分以上）。
授業資料とノートを読み返し、質問があればUNIVERSAL PASSPORTで質問する。（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業で要点メモを2回×14回提出（70%）
期末試験で、全体で学んだことを書いて提出（30%）

<教科書>

<参考書>

富山和彦（2014年6月13日）『なぜローカル経済から日本は甦るのか GとLの経済成長戦略』 PHP新書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	地域経済とグローバル経済	地域は生まれ育ち・働き・憩い・老いる場、グローバル経済のバリューチェーン、地域経済とグローバル経済の産業構造・労働生産性・雇用構造
2	グローバル・バリューチェーン	グローバリゼーション（人・モノ・カネの移動の自由化）、開発・製造・物流・販売の配置の最適化、自動車産業・電子産業の事例
3	日本の地域経済	縄文に根差し渡来人の受容・共生で発展してきた日本文明、企業本社や雇用が大都市に集中する政治経済構造、グローバル化で空洞化が進んだ製造業
4	地域経済の構造変化	戦後の産業構造変化、高度経済成長、バブル崩壊、少子高齢化、経済成長の停滞と日本の財政状況、AIがもたらす社会・経済の変化
5	千葉の地域経済	江戸時代の利根川東遷、首都圏と千葉地方圏、千葉県の産業、世界生産の4分の1を占める房総半島のヨウ素（ペロブスカイト太陽電池原料）、発酵の里・神崎町、市川市の地域デジタル通貨
6	地域経済の活性化①	農林水産業は国防安全保障の基本、農林水産業の6次産業化
7	地域経済の活性化②	島根県隠岐郡海士町の挑戦：町長が先頭に立った行政改革、産業振興、高校魅力化プロジェクト
8	医療と社会の改革①	平均寿命と健康寿命、医薬品市場の拡大より病気にならないことが重要、昔は家庭で行っていた出産と看取り、既に破綻している日本の「国民皆保険」（医療保険）
9	医療と社会の改革②	医療を「総合生活産業」と再定義し、八王子を起点に「真に持続可能な」未来型医療で日本と世界をつなぐ北原グループの挑戦
10	地域企業の経営改革①	食品小売：大橋食品（北九州市）
11	地域企業の経営改革②	59店舗の理美容チェーン：オオクシ（千葉県）
12	地域企業の経営改革③	地方金融機関：広島市信用組合

13	地域企業の経営改革④	地方路線バス：道のりホールディングス（東日本）、両備バス（岡山市）
14	地域の経済と経営の改革・まとめ	界の課題、日本の課題、地域の課題、人としての課題をもう一度考える

科目コード	T220301				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	プレゼンテーション技法				担当者名	佐々木 庸子			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業では、「会話」や「説明」における自己表出のスキルを身に着けます。自己の感情を解放し、感情の自然な発生を省みること、
「表現」＝「自分の言葉を持つこと」を理解します。DP1「他者と向き合い、感情を調整し、目標を達成できる」チカラを養い、
ビジネスの場で自己発信ができるようにします。尚、受講者の興味に応じて、また、本シラバスに関係する事象が報道された場合や、
相応しいゲスト講師がいらっしゃる場合等、講義内容を変更することがあります。

<授業の到達目標>

- ・「自分の心境や状況」が説明できるようになり、自信を持って自己表出できるようにします
- ・「他者理解」ができるようになり、コミュニケーション能力を高めます
- ・「物」や「状況」の説明を成し遂げられるチカラを身に着けます
- ・声量を増やし、滑舌・発声が整うようにします

<授業の方法>

- ①出席・セッションタイム（20分）
- ②滑舌・発声（20分）
- ③宿題の発表とフィードバック（20分）
- ④講義／グループワーク・ロールプレイ・ディスカッション（25分）
- ⑤振り返り／次回の課題の説明（15分）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実習的要素が多く、事前に出された課題や当日に出した課題を発表し、それに対してディベート・ディスカッション等を試み、ブラッシュアップを行う形になります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

※授業は「答え合わせの場」と捉え、宿題課題を仕上げ、予習復習をし、疑問点を整理して挑むようにして下さい。

- ・宿題課題の作成（60分）
- ・授業内容の復習（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（意欲・関心度）30％、課題準備・レポート提出等30％、習熟度・実技テスト40％

<教科書>

特に出版物は使用せず、必要に応じて資料を配布します。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、目的、評価についての説明／「プレゼンテーション」とは何かを知る
2	滑舌・発声の進め方／自己PRスキル①	自己PRのロジックを学ぶ／自己PRの作成を試みる
3	滑舌・発声／自己PRスキル②	自己PRを発表する／ブラッシュアップをする
4	滑舌・発声／シチュエーションの説明①	視覚で捉えた情報を言語化し、伝達する方法を学ぶ
5	滑舌・発声／シチュエーションの説明②	視覚で捉えた情報を言語化し、伝達する方法を学ぶ
6	滑舌・発声／原稿の読み方①	情報の伝達に相応しい原稿の読み方を学ぶ
7	滑舌・発声／原稿の読み方②	情報の伝達に相応しい原稿の読み方を学ぶ
8	滑舌・発声／説明スキル①	商品や現象の説明の仕方を学ぶ
9	滑舌・発声／説明スキル②	商品や現象の説明の仕方を学ぶ
10	滑舌・発声／資料・原稿作成①	商品や現象を説明する原稿を作成する
11	滑舌・発声／資料・原稿作成②	自作の説明原稿を発表し、伝達方法を学ぶ
12	滑舌・発声／発表テーマの作成、資料・原稿作成①	与えられた時間でプレゼンテーションするための原稿作成をする
13	滑舌・発声／発表テーマの作成、資料・	与えられた時間でプレゼンテーションするための原稿作成をする

14	原稿作成② 発表・振り返り	プレゼンテーション発表、授業の振り返り
----	------------------	---------------------

科目コード	T220302				区 分	専門基礎科目 / 国際コミュニケーション領域			
授業科目名	比較文化論				担当者名	董 航			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、「文化とは何か」という根源的な問いから始め、日本文化と海外文化（伝統文化から現代文化までを含む）を比較する。言語、芸術、衣食住、家族形態、教育、仕事など多様なテーマを取り上げ、それぞれの文化が人々の生活や価値観・思想にどのような影響を与えてきたか、また今後どのような影響を与えていくかを考察する。自文化を相対化する視点を養い、多様な文化を尊重する態度の醸成を目指す。

<授業の到達目標>

1. 知識理解：様々な文化の特性、価値観、歴史的背景を理解し、それぞれの文化を尊重する態度を身につける。
2. 思考判断：自文化を相対化し、異文化に対する偏見やステレオタイプを克服する力を養う。
3. 技能表現：文化現象を多角的な視点から捉え、複眼的思考を活用して分析・発表できる。

<授業の方法>

日本を含む諸国または地域の言語・文化・歴史・生活・思想について解説すると同時に、学生の能動的な参加を促す方法を積極的に導入する。

講義：各回のテーマに関する基礎知識や理論、国内外の事例について解説する。

ディスカッション：少人数グループでの意見交換を通じて、多様な視点に触れ、思考を深める。

グループワーク：比較分析ワークショップ、ケーススタディなど、協働作業を通じて理解を実践的に深める。

プレゼンテーション：グループでの考察結果を共有し、クラス全体での学びを促進する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業は、以下のアクティブ・ラーニング要素を中心に構成する。

比較分析ワーク：日本と海外の具体的な事例（例：昔話、祭り、家族形態）を比較し、その背景にある価値観の違いを探究する。

協同学習：グループワークやディスカッションを通じて、他者の意見に触れ、知識を共同構築する経験を積む。

反転学習の要素：各回の予習として、次回テーマに関する文献購読や事例調査を課し、授業内での能動的な議論や活動の基盤とする。

また、Google Classroom等のLMSを活用して授業資料の配布、課題の提出、学生間・教員とのコミュニケーションを行う。さらに、履修者の習得度にあわせて、CANVAなどのビジュアルコミュニケーションプラットフォームをグループワークでの成果物作成や共有に活用し、創造的な表現と協働作業を促進する場合もある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業の準備学習は、授業外における能動的な学びを促進することを目的とする。

予習（各回1時間、計14時間）：

各セッションのテーマに関する教科書該当箇所や指定された資料を読み、重要な概念や疑問点をノートにまとめる。

日本と比較対象となる文化圏の事例について、自身で簡単に調査する。

復習（各回1時間、計14時間）：

授業内容を振り返り、学んだ概念と自分自身の経験や予習での疑問を関連付けて考察する。

授業内でのディスカッションやグループワークでの気づきを「ラーニング・ジャーナル」に記録する。

提示された課題についてさらに考察を深め、プレゼンテーション準備や最終試験に向けた準備を行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

DP5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 通常評価

学習意欲（20%）、クラス共創度（20%）、中間（第1-6回）プレゼン録画3分間（30%）、最終（第1-14回）プレゼン録画5分間（30%）

2. 特別加点

学外プログラム「フィリピンイヤー（計4回）」に参加した履修者には、別途加点する。

加点の詳細を含め、評価方法については初回オリエンテーションで説明する。

3. フィードバック方法

プレゼン動画：LMS上で個別にコメントを付して返却。

グループワーク：発表後に口頭またはコメントシートでフィードバックを行う。

継続的支援：授業中の発言

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	文化を捉える視点：イントロダクションと多様な文化 (1/2)	【テーマ】イントロダクション / 多様な文化に触れる 【内容】本科目の開講意義や内容設定を理解した上で、「文化」の定義を探究する。身近な例（食習慣、挨拶、時間感覚など）から文化の多様性を捉え、自明と思っている行動が文化的に構築されていることに気づくワークショップを行う。
2	文化を捉える視点：イントロダクションと多様な文化 (2/2)	【テーマ】イントロダクション / 多様な文化に触れる 【内容】本科目の開講意義や内容設定を理解した上で、「文化」の定義を探究する。身近な例（食習慣、挨拶、時間感覚など）から文化の多様性を捉え、自明と思っている行動が文化的に構築されていることに気づくワークショップを行う。
3	言語と物語が映す文化：言葉の力と昔話の世界 (1/2)	【テーマ】言葉の力 / 物語の世界 【内容】日本語と外国語の構造や表現の違いから、言語が世界の捉え方に与える影響を考察する。さらに、日本の昔話（例：桃太郎）と世界の童話（例：グリム童話）を比較し、それぞれの文化圏の道德観や価値観の違いを分析する。
4	言語と物語が映す文化：言葉の力と昔話の世界 (2/2)	【テーマ】言葉の力 / 物語の世界 【内容】日本語と外国語の構造や表現の違いから、言語が世界の捉え方に与える影響を考察する。さらに、日本の昔話（例：桃太郎）と世界の童話（例：グリム童話）を比較し、それぞれの文化圏の道德観や価値観の違いを分析する。
5	美意識と芸術：心と体の表現 (1/2)	【テーマ】心と体 / 芸術 【内容】日本人の美意識（例：わび・さび、間）と欧米の価値観（例：合理主義、均整美）を比較する。また、日本の伝統芸能（能楽、歌舞伎など）と世界の音楽・芸術（クラシック、オペラなど）を紹介し、芸術表現に込められた文化的背景を考察する。
6	美意識と芸術：心と体の表現 (2/2)	【テーマ】心と体 / 芸術 【内容】日本人の美意識（例：わび・さび、間）と欧米の価値観（例：合理主義、均整美）を比較する。また、日本の伝統芸能（能楽、歌舞伎など）と世界の音楽・芸術（クラシック、オペラなど）を紹介し、芸術表現に込められた文化的背景を考察する。
7	生活に息づく文化：衣食住と年中行事 (1/2)	【テーマ】衣食住 / 年中行事 【内容】衣・食・住の各側面から文化の違いを読み解く（例：和食と洋食、量と絨毯）。さらに、日本の祭り（例：お盆、祇園祭）と世界のイベント（例：ハロウィン、クリスマス）を比較し、宗教や季節感と行事の結びつきを考察する。
8	生活に息づく文化：衣食住と年中行事 (2/2)	【テーマ】衣食住 / 年中行事 【内容】衣・食・住の各側面から文化の違いを読み解く（例：和食と洋食、量と絨毯）。さらに、日本の祭り（例：お盆、祇園祭）と世界のイベント（例：ハロウィン、クリスマス）を比較し、宗教や季節感と行事の結びつきを考察する。
9	社会の基盤をなすもの：家族のカタチと学校・教育 (1/2)	【テーマ】家族のカタチ / 学校と教育 【内容】変化する家族形態（核家族、拡大家族、多様な家族のかたち）を日本と世界で比較する。また、各国の教育制度や学び方の特徴（例：詰め込み教育 vs 探究型学習、集団主義 vs 個人主義）を分析し、社会と教育の相互関係を考察する。
10	社会の基盤をなすもの：家族のカタチと学校・教育 (2/2)	【テーマ】家族のカタチ / 学校と教育 【内容】変化する家族形態（核家族、拡大家族、多様な家族のかたち）を日本と世界で比較する。また、各国の教育制度や学び方の特徴（例：詰め込み教育 vs 探究型学習、集団主義 vs 個人主義）を分析し、社会と教育の相互関係を考察する。
11	社会と経済の中の個人：働くということとグローバル社会 (1/2)	【テーマ】働くということ / グローバル社会と文化 【内容】多様なワークスタイル（終身雇用 vs ジョブ型雇用、ワークライフバランスの考え方）や起業文化を日本と海外で比較する。さらに、グローバル化に伴う異文化の衝突や摩擦の事例を分析し、多文化共生のための方策をグループで議論する。
12	社会と経済の中の個人：働くということとグローバル社会 (2/2)	【テーマ】働くということ / グローバル社会と文化 【内容】多様なワークスタイル（終身雇用 vs ジョブ型雇用、ワークライフバランスの考え方）や起業文化を日本と海外で比較する。さらに、グローバル化に伴う異文化の衝突や摩擦の事例を分析し、多文化共生のための方策をグループで議論する。
13	未来を見据えて：未来の文化と学びの総括 (1/2)	【テーマ】未来の文化 / 期末プレゼンテーション 【内容】テクノロジーの進歩（AI、VR、SNSなど）に伴う文化の変容について考察する（例：デジタルネイティブの文化、バーチャル空間での交流）。後半は、これまでの学びを踏まえた最終プレゼンテーション（録画）を実施し、相互に共有・講評を行う。
14	未来を見据えて：未来の文化と学びの総括 (2/2)	【テーマ】未来の文化 / 期末プレゼンテーション 【内容】テクノロジーの進歩（AI、VR、SNSなど）に伴う文化の変容について考察する（例：デジタルネイティブの文化、バーチャル空間での交流）。後半は、これまでの学びを踏まえた最終プレゼンテーション（録画）を実施し、相互に共有・講評を行う。

科目コード	T220303				区 分	専門基礎			
授業科目名	韓国語 I				担当者名	國井 裕			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本授業では、韓国語学習の基礎力を養うことを目的とする。まず、ハングルの構造と読み書きの仕組みを理解し、簡単な単語や短文を自力で読んだり書いたりできるようにする。さらに、挨拶や自己紹介など初対面の場面が必要となる基本表現を習得し、相手の言葉を聞いて適切に応答できる力を身につける。また、日常生活で頻繁に用いられる簡単なフレーズを学び、ペアワークやロールプレイを通して実際の会話場面を想定した練習を行う。韓国語に初めて触れる学習者でも無理なく取り組めるよう、段階的に理解を深めながら基礎的なコミュニケーション能力の形成を図る授業である。

<授業の到達目標>

- ①簡単なあいさつ、自己紹介ができるようになる
- ②日常で使う簡単な表現を聞いて話せるようになる
- ③ハングルを読んで、短い文を書けるようになる

<授業の方法>

本授業では、韓国語の基礎的な運用能力を段階的に身につけるため、講義・練習・対話活動を組み合わせて進める。まず、ハングルの読み書きについては、文字の構造理解と音読練習を中心に、短い語句や文を書いて確認する演習を行う。次に、挨拶や自己紹介などの基本表現は、教員によるモデル提示とリピート練習を通して定着を図る。そのうえで、ペアワークやロールプレイを取り入れ、実際の会話場面を想定した練習を行い、聞いて理解し、簡単に応答できる力を養う。また、日常生活でよく使われる表現については、場面別の語彙提示と短い対話練習を行い、実践的な運用を促す。初学者が安心して学べるよう、反復と確認を重視しながら進める授業方法である。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業ではアクティブ・ラーニングの要素を取り入れる。ペアワークやロールプレイを通して、学習した表現を実際の会話場面で運用する練習を行う。また、学生同士の相互フィードバックを取り入れ、発音や表現の改善点を自ら気づく機会を設ける。これにより、受動的な知識習得にとどまらず、主体的に学ぶ姿勢を育成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習では、授業で扱う予定の語彙・表現を60分程度確認し、ハングルの読みを事前に練習する。復習では、授業内で行った会話練習を60分程度繰り返し、音読と書き取りを通して定着を図る。また、教科書の練習問題に取り組み、理解が不十分な箇所を次回授業までに補う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
 DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。
 DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は学習態度20%、小テスト30%、期末試験50%を基に総合的に評価する。課題や試験は返却時に個別コメントを付して理解度を確認させ、必要に応じて授業内で補足説明を行う。

<教科書>

キム・ミスク STEP UP 韓国語 初級1 Jリサーチ出版
 2023年11月10日

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ハングル	ハングルの基本母音と子音（平音）
2	ハングル	ハングルの基本母音と子音（激音・濃音）
3	ハングル	ハングルの基本母音、子音、パッチム
4	ハングル	ハングルの基本母音、子音、パッチム
5	平叙文	・自己紹介ができる ・国名が言える
6	名詞文2	・家族を紹介できる ・物品や場所を指し示す語を話せる
7	形容詞文 疑問文	・状態や気持ちを話せる ・曜日を言える
8	動詞文	・今何をしているのか話せる

9	存在詞	・ある行動をする時間について話せる
10	勧誘表現	・ある事柄を一緒にしようと言える
11	過去文型	・漢数詞を正しく読める ・過去にしたことを話せる
12	依頼文 否定文	・場所と、その場所で行うことを話せる ・ある事柄を丁寧に命令したり依頼したりできる ・否定の表現を話せる
13	動作の方向性	・行ったり来たりする動作の目的を話せる ・動作の方向を話せる
14	固有数詞	・固有数詞を正しく数えられる ・ある対象となるものを「ください」と言える

科目コード	T220401				区 分	専門基礎			
授業科目名	VR・AR入門概論				担当者名	渡辺 亮			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

Society5.0の現代社会においては、ほぼすべての産業活動に仮想現実（Virtual Reality;人工現実感；VR）及び拡張現実（Augmented Reality; AR）の環境応用が進められている。本科目ではVR・ARの定義や歴史、開発事例を学び、その基礎となる視覚・触覚等の認知特性と体験の理解、その主要周辺技術に触れ、新しい適用事例を学修する。

<授業の到達目標>

①VR・ARの考え方について説明できる。②VRが社会にどのように関わっているか説明できる。

<授業の方法>

- ・教員による講義
- ・簡単なVRインターフェース作成を通したグループワーク

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有
後半の講義ではグループワークを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の当該部分を事前に読み、考察する（1時間程度）

復習：講義内容を見返し、課題に取り組む（2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
DP2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとに課す小課題（計50%）とクオータ末に課す大課題（50%）にて評価

<教科書>

館, 佐藤, 廣瀬 監修 日本バーチャルリアリティ学会 編 (2011/01/25) バーチャルリアリティ学 日本バーチャルリアリティ学会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の概要・予定・評価方法について説明する。
2	VRとは何か	バーチャルリアリティ（VR）とは何か概観する。
3	ヒトと感覚(1)	VRに不可欠なヒトの感覚について生理学的・心理学的に学ぶ。脳神経系や受容器の性質、各種錯覚についても説明する。
4	ヒトと感覚(2)	VRに不可欠なヒトの感覚について生理学的・心理学的に学ぶ。脳神経系や受容器の性質、各種錯覚についても説明する。
5	ヒトと感覚(3)	VRに不可欠なヒトの感覚について生理学的・心理学的に学ぶ。脳神経系や受容器の性質、各種錯覚についても説明する。
6	ヒトと感覚(4)	VRに不可欠なヒトの感覚について生理学的・心理学的に学ぶ。脳神経系や受容器の性質、各種錯覚についても説明する。
7	インタフェース(1)	各感覚の性質を利用したインタフェースを紹介し、その仕組みを学ぶ。
8	インタフェース(2)	各感覚の性質を利用したインタフェースを紹介し、その仕組みを学ぶ。
9	インタフェース(3)	各感覚の性質を利用したインタフェースを紹介し、その仕組みを学ぶ。
10	インタフェース(4)	各感覚の性質を利用したインタフェースを紹介し、その仕組みを学ぶ。
11	実習(1)	触覚インタフェースを作成し、アプリケーションを考える。
12	実習(2)	触覚インタフェースを作成し、アプリケーションを考える。
13	まとめ(1)	講義内容のまとめ。
14	まとめ(2)	講義内容のまとめ。

科目コード	T220403				区 分	専門基礎科目 情報システム領域			
授業科目名	ドローンの社会応用と演習				担当者名	渡辺 桂吾／栗本 育三郎／渡辺 亮			
配当年次	2年	配当学期	前期 及び 集中 講義期間	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、ドローン技術を「社会でどう使うか」という視点から深く理解することである。ドローンは単なる飛行装置ではなく、データ収集・物流・点検・防災など多様な分野で社会課題を解決するツールとして注目されている。本授業では、ドローンの基本的な仕組みと応用分野を学んだ上で、社会実装に必要な法制度・倫理・ビジネスモデルについて講義を中心に学ぶ。毎回の講義では簡単な演習課題を交え、理解を深める。学習成果として、ドローン活用の企画・評価ができる能力を身につける。

<授業の到達目標>

1. ドローンの基本原理と主要な応用分野を説明できる。
2. ドローン活用における法制度・倫理・社会受容の重要性を理解し、説明できる。
3. ドローンビジネスの構造と収益モデルを分析できる。
4. ドローン社会実装の課題と未来展望について、多角的に考察できる。

<授業の方法>

講義を中心とする。各回の最後に10分程度の演習課題（ミニレポート・簡単な分析・ケーススタディ）を実施し、理解度を確認する。資料は事前に配布する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布資料を読み、専門用語や疑問点を整理する（目安30分）

復習：講義内容と演習課題を振り返り、知識を定着させる（目安30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・各回の演習課題（10回分の平均）：40%

・期末試験（または最終レポート）：60%

※ 別途、飛行演習（4回）の評価は実技担当教員が行い、総合評価に含める。

適宜解答やレポートの講評を提示、フィードバックする。

<教科書>

指定しない。毎回資料を配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：ドローンとは何か	授業の目的・構成、ドローンの定義・歴史、社会での位置づけ、なぜ今ドローンか
2	ドローンの技術と飛行原理	機体構成（フレーム・モーター・バッテリー）、センサー（GPS・ジャイロ・カメラ）、飛行原理（推力・姿勢制御・自律制御）、制御とモデリングの考え方
3	空撮・測量・点検分野	空撮・映像産業の特徴と事例、測量・3Dデータ取得の仕組み、インフラ点検（橋・トンネル・設備）の実際
4	農業・環境・防災分野	農業（農薬散布・生育モニタリング）、環境モニタリング（森林・河川）、災害対応（情報収集・捜索・物資輸送）
5	物流・配送分野	物流業界の構造的課題、ドローン配送の基本概念、国内外の実証事例、配送ビジネスの可能性と限界
6	ドローンの法制度①（航空法）	航空法の基本（無人航空機の定義・飛行禁止区域・許可承認制度）、機体登録制度、操縦者の責任、罰則
7	ドローンの法制度②（関連法規と条例）	小型無人機等飛行禁止法、道路・公園管理法、個人情報保護法、民法・刑法、条例、海外規制との比較

8	社会受容・倫理・リスクコミュニケーション	社会受容とは何か（不安・誤解・信頼）、プライバシー・監視問題、騒音・景観、事故と信頼、説明責任と対話
9	ドローンビジネスと産業構造	産業レイヤー（ハード・ソフト・サービス）、ビジネスモデル（機体販売・SaaS・請負）、市場別分析、成功と失敗の条件
10	未来展望：空飛ぶクルマとスマートシティ	空飛ぶクルマ（eVTOL）の動向、スマートシティとドローン、デジタルツイン、空の交通管理（UTM）、講義全体のまとめ
11	ドローン演習（1）	無人航空機の基礎知識と安全運航の基本（座学） 無人航空機の定義・分類（航空法上の位置付け） 機体の構造・飛行原理（推力・姿勢制御・センサー） 飛行に伴うリスクと安全意識（ヒューマンエラー） 飛行前確認（機体・バッテリー・周囲環境） 安全運航の基本概念 飛行ルールと運航管理（座学）
12	ドローン演習（2）	飛行ルール（DID・30m・目視内・夜間・目視外） 飛行禁止空域（空港周辺・150m以上） 安全確保措置（立入管理・補助者配置） 運航マニュアルの考え方と遵守 異常時対応の基本（通信断・バッテリー低下） 基本操縦および安全な飛行（実習） 基本操作（スティック操作・モード理解）
13	ドローン演習（3）	離陸・ホバリング・着陸 前後・左右移動と姿勢制御 機体の向きと位置把握（空間認識） 安全確認を伴う飛行（声出し確認） 応用飛行および総合演習（実習） 安定した飛行（定点保持・精密着陸） 簡易コース飛行（往復・方向転換）
14	ドローン演習（4）	異常時対応の実践（緊急停止・帰還） 模擬運用（離陸～飛行～着陸の一連動作） 飛行後点検・安全確認 国家ライセンス資格試験紹介とまとめ

科目コード	T220404				区 分	専門基礎			
授業科目名	情報科学とAI入門 [前期集中]				担当者名	笹埜 健斗			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター (集中講義)	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ChatGPT・Claude・GeminiなどのAI（生成AI）を、大学生活と学びにたっぷり活かすための入門講義です。いちばんの特徴は、第1回で自分だけのAIボット「AI Buddy」をつくり、毎回の授業で新しいスキルを少しずつ追加しながら、14回かけて一緒に育てていくことです。レポート、プレゼン、SNS発信、データ分析、お金の管理、語学、就活、自動化、AI倫理まで、大学生活で「本当に使える」14のスキルを、毎回のハンズオンワークで楽しく体験しながら身につけていきます。筆記試験はありません。各回は「ミニ講義＋ハンズオンワーク＋振り返り・AI Buddyアップデート」の三部構成で進めます。

<授業の到達目標>

①ChatGPT／Claude／Geminiで、自分専用のAIボットをつくって使いこなせるようになります。②プロンプト（AIへの伝え方）のコツをつかみ、AIから最高の出力を引き出せるようになります。③レポート・プレゼン・データ分析・SNS発信を、AIと協力して効率よくこなせるようになります。④AIを使ううえでの倫理的な課題（バイアス・著作権・プライバシー・アカデミック・インテグリティ）を理解し、責任をもって判断できるようになります。⑤AI時代に自分らしい価値を生み出すキャリアビジョンを描き、行動に移せるようになります。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせで進めます。対面授業を基本としつつ、一部の回はオンデマンド配信で実施します（オンデマンド回は動画視聴＋各自のワーク＋LMSでの課題提出という流れです）。対面回は毎回100分を「チェックイン→ミニ講義（約25分）→ハンズオンワーク（約50分）→振り返り・共有→AI Buddyアップデート」の流れで進めます。授業資料はLMSで配布し、課題の提出やフィードバックもLMSで行います。使うAIツールはすべて無料版でOKです（有料版の利用は任意です）。PCまたはスマートフォンを毎回持参してください（BYOD）。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。毎回、ペアやグループでのハンズオン演習を中心に進めます（AIボットづくり、プロンプト選手権、SNSコンテンツ制作、AIとの共著レポート、90秒プレゼンバトル、チームでのAIアート制作と展示会、データ分析の発表、英会話ロールプレイ、模擬面接、自動化ハッカソン、倫理ディベート（模擬法廷）、最終プレゼン大会など）。作品への投票や相互評価、クラスでの発表・議論を通じて、みんなで学び合うスタイルです。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（各回約2時間）：LMSで配布する次回テーマの資料に目を通し、使うAIツールのアカウント準備や操作確認をしておいてください（初回までにChatGPTアカウント（無料版でOK）をつくっておきましょう）。オンデマンド回は配信動画の視聴も予習・学修に含みます。復習（各回約2時間）：授業後にリフレクションシート（200字程度）を提出し、その回で学んだスキルを自分のAI Buddyに追加・更新します。あわせて各回の課題（プロンプトの改善、SNS投稿の分析、プレゼン動画のAI講評、支出の分析、英会話ログ、自動化フローの設計など）に取り組んでください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験は行いません。「やってみた→振り返った→成長した」というプロセスを大切に評価します。①AI Buddy進化ポートフォリオ（14回を通じた成長記録＋最終版の完成度）30%、②毎回のリフレクションシート（各回200字程度の振り返り）20%、③ハンズオン課題（第3・5・7・9・11回のワーク成果物、計5回）20%、④最終プレゼン「行動宣言」（第14回の5分間プレゼン＋AI Buddy展示）20%、⑤相互評価・授業貢献（他の人の発表への建設的なフィードバックと積極的な参加）10%。提出物へのフィードバック

<教科書>

<参考書>

Ethan Mollick（2024年） Co-Intelligence: Living and Working with AI Portfolio
深津貴之・水野祐（2024年） 生成AI時代の「超」仕事術大全 東洋経済新報社
松尾豊（2015年） 人工知能は人間を超えるか KADOKAWA

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	自分だけのAI相棒を爆誕させよ！ ―	ChatGPT（GPTs）・Gemini（Gems）・Claude（Projects）の3つの環境で、自分だけの

	GPTs/Gems/Claude Projectsでマイボット作成	オリジナルボットをつくります。名前・性格・口調・得意分野を自由に設定し、システム指示とユーザー入力の違いも学びます。演習は「AI Buddy誕生祭」。3体のボットをつくって、クラスみんなの前で自己紹介バトルを行います。課題：本命の1体を選び、14回の相棒として育てる宣言をLMSに投稿します。
2	AIの言葉が通じない？ — 魔法の呪文を極めろ（プロンプトエンジニアリング）	プロンプトの5大要素（Role/Context/Task/Constraint/Format）を学び、Zero-shot→Few-shot→Chain-of-Thoughtと工夫するほど出力が良くなることを体感します。演習は「プロンプト選手権」。ランチプラン提案のプロンプトを15分で磨き上げ、ピフオー・アフターを発表します。課題：AI Buddyに「プロンプト改善アドバイザー」機能を追加します。
3	SNSでバズりたい — AI×コンテンツ制作の破壊力	各SNS (Instagram/X/TikTok) の特性（文字数・画像比率・アルゴリズム）を知り、AIでキャッチコピー・投稿文・ハッシュタグ戦略をつくります。「AI丸出し感」を消して人間味を足す編集テクニックも実践します。演習は「バズ投稿チャレンジ」。3種類のコンテンツを30分で制作し、模擬「いいね」投票でバズ王を決めます。課題：SNSへの投稿（任意）または架空の投稿分析レポートを提出します。【ハンズオン課題①】
4	レポート地獄からの解放 — AIと共著する学術文	AIを「壁打ちパートナー」にしたレポート執筆の進め方と、アカデミック・インテグリティの原則——「使う」と「丸投げ」の境界線——を学びます。ファクトチェックとリライトの技術も身につけます。演習は「AI共著バトル」。800字レポートを、AIの出力・自分のリライト・自筆で色分けして提出し、AI依存度と品質の関係をみんなで議論します。課題：AI Buddyに「レポート執筆サポーター」機能を追加します。
5	プレゼンで全員の心を奪え — AI×スライド&話術	AIツール（Gamma/Canva AIなど）でプロ品質のスライドをすばやくつくり、PREP法やストーリーアークといったプレゼン構成をAIと一緒に設計します。演習は「90秒プレゼンバトル——推しを布教せよ！」。AIでつくったスライドと原稿に自分の熱量を上乗せし、拍手の大きさを優勝を決めます。課題：自分のプレゼン動画をAI Buddyに講評してもらい、改善点を3つリストアップします。【ハンズオン課題②】
6	アートが爆発する — 画像・動画・音楽をAIで創る	画像生成AI（DALL-E 3/Midjourney/Stable Diffusionなど）のプロンプトのコツを学び、動画生成・音楽生成の今の実力と、AI生成コンテンツの著作権・利用規約の基本もおさえます。演習は「AIアートフェス」。3人1組で「2050年の大学キャンパス」をテーマに画像・15秒動画・BGMを制作し、教室を展示会場にして投票でグランプリを決めます。課題：AI BuddyのアイコンをAIで生成して着せ替えます。
7	データで恋愛を科学する — AI×データ分析入門	AIに日本語で指示するだけで、グラフ・表・インサイトを出力できることを体験します。相関と因果の違いを理解し、データの「嘘」を見抜く目も養います。演習は「恋愛データサイエンス」。架空データ「大学生1000人の恋愛と生活習慣調査」を分析し、「モテる大学生の特徴TOP5」などをインフォグラフィックにまとめて発表、結論の信頼性もじっくり議論します。課題：1週間のスクリーンタイムをAI Buddyに分析してもらい「デジタルウェルビーイング診断書」をつくります。【ハンズオン課題③】
8	お金の不安をぶっ飛ばせ — AI×マネーリテラシー	AIで月次予算テンプレートをつくって支出を「見える化」し、複利・インデックス投資・リスク分散の基本や、奨学金返済シミュレーションなど大学生に直結するお金の知識を、AIとの対話で楽しく学びます。演習は「人生マネーRPG」。22歳～35歳のマネープランをAIと一緒にシミュレーションし、誰がいちばんリッチになれるか競います（架空シミュレーションです）。課題：1か月の支出をAI Buddyに分析してもらい、改善提案を3つ受け取ります。
9	英語ペラペラ計画 — AI語学チューターの實力	AIを「24時間いつでも付き合ってくれる英会話の先生」にする学習法を設計します。翻訳AIの得意・不得意（ニュアンスや文化的な文脈）も理解して、上手に使い分けます。演習は「AI英会話カフェ」。海外のカフェでの注文や空港でのトラブル対応などのロールプレイ5本勝負に挑戦し、最後は英語1分間自己紹介をAIに採点してもらいます。課題：AI Buddyと英語で10往復の会話をを行い、ログとフィードバックを提出します。【ハンズオン課題④】
10	就活を無双する — AI×自己分析&ES&面接	AIと一緒に自己分析を行い、ES（エントリーシート）のAI添削と「自分らしさ」の残し方、AI相手の模擬面接での回答の磨き方を実践します。演習は「就活シミュレーション大会」。強み分析レポートの生成→架空企業のESの共同執筆→AI模擬面接→人間同士の模擬面接との比較まで、就活の流れをまるごと体験します。課題：AI Buddyに自分の強みや経験を学習させ、いつでも相談できる「就活メンター」に育てます。
11	面倒なことは全部AIに任せろ — 自動化×ライフハック	ノーコードツール（Zapier/Make/IFTTTなど）とAIを組み合わせ、面倒な繰り返し作業を自動化する方法を学びます。「面倒なことの洗い出し→自動化の設計→実装」までを一気に体験します。演習は「自動化ハッカソン」。履修登録リマインダーや課題締切アラートなど、自分が欲しい自動化を40分で作ってデモ発表し、「一番欲しい！」に投票します。課題：実際に使う自動化フロー（または設計書）と、1週間使ってみた感想を提出します。【ハンズオン課題⑤】
12	AIの闇を暴け — フェイク・バイアス・倫理の最前線	ディープフェイクの仕組みと偽情報を見抜くリテラシー、AIのバイアス（学習データの偏りやステレオタイプの再生産）、AIと共生する社会での市民の責任と権利について考えます。演習は「倫理法廷」。「期末レポートでAI使用を全面解禁すべきか？」をテーマに、検察・弁護・裁判官に分かれてディベート裁判を行い、AIがつくった論点と人間の議論も比べてみます。課題：AI Buddyに「倫理チェッカー」機能を追加

13	2035年の自分を予言する ― AI時代のキャリア戦略	し、テストケース3件で検証します。 AIに代わられにくい「人間ならではのスキル」（創造性・共感・批判的思考・身体性）を自分の言葉にし、「専門分野×AI」の掛け算で自分だけのキャリアビジョンを描きます。演習は「タイムマシン・ワークショップ」。2035年の自分の1日をAIと対話しながら朝から夜まで具体的に描き、そこから逆算したマイルストーン年表とシナリオ分析（楽観・中立・悲観）をつくります。課題：「2035年キャリアビジョンシート」を完成させて提出します。
14	最高の大学生活宣言 ― AI Buddyとともに（最終プレゼン大会）	これまでの13回の学びをぜんぶ束ねて、自分なりの「AI活用哲学」を発表します。最終プレゼン大会「AI Buddy博覧会」では、「AIで私の大学生活はこう変わる―行動宣言」を5分間でプレゼンします。スライド・原稿・データ・ビジュアルは、これまでに習得したAIツールをフル活用して制作し、AI Buddyの成長日誌（Lv. 1→Lv. MAX）も展示します。相互評価と教員評価で総合採点し、MVP賞・成長賞・独創性賞を授与します。最終提出：AI Buddy最終版＋進化記録ポートフォリオ＋振り返りレポート（1000字）。

科目コード	T220405				区 分	専門基礎			
授業科目名	プログラミング入門(Python)				担当者名	渡辺 亮			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、プログラミング未経験者を対象に、Pythonの基礎文法を演習中心に学ぶ。変数・条件分岐・繰り返し・関数・データ構造といった基礎を扱い、入出力、例外処理、を通じてプログラムを書く能力を身につける。エラーメッセージの読み方やデバッグの手順、可読性のあるコードの書き方を重視し、自力で課題を解決できる力を養う。

<授業の到達目標>

Pythonの基礎文法を理解し、簡単なプログラムを作成できること。

<授業の方法>

PCを用いた演習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に講義資料を読む（60分）

課題に取り組む（120分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（30%）課題（70%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	プログラミングの基本	文字の表示や数値計算など、簡単なプログラムを作成し実行する。
2	データ型	整数、浮動小数点、文字列などのデータ型について学び、それらを使い分ける。
3	変数	変数と代入について学ぶ。各種演算子についても説明する。
4	組み込み関数	基本的な組み込み関数を学び、それらを用いた簡単なプログラムを作成する。
5	比較演算と論理演算（ブール演算）	条件分岐や繰り返しに必要不可欠な比較演算、ブール演算について学ぶ。
6	条件分岐（if文）	if文による条件分岐について学び、簡単なプログラムを作成する。
7	繰り返し（while文）	while文を用いた繰り返し処理について学び、簡単なプログラムを作成する。
8	リスト	リストを作成し、その要素を操作できるようになる。
9	繰り返し（for文）	for文を用いた繰り返し処理について学び、簡単なプログラムを作成する。while文との違いを確認する。
10	メソッド	データ型と関連する特別な関数メソッドについて学び、いくつかのメソッドを使用する。
11	モジュール	モジュールについて学び、標準ライブラリのいくつかをインポートし使う。
12	辞書型	辞書型（dict型）の構造を学び、その要素を操作できるようになる。
13	関数	関数の作り方を学ぶ。
14	まとめ	これまでの講義のまとめ。

科目コード	T220501				区 分	専門基礎			
授業科目名	ホテル経営 I				担当者名	都築 智津子			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、ホテルという産業の基礎から学び始め、成り立ち・歴史・業態区分・市場構造といった全体像を把握する。そのうえで、ホテル運営の三本柱である「宿泊」「料飲」「宴会」各部門の役割と基本業務を理解し、ホテル全体の収益構造や運営モデル（所有・運営分離、契約形態など）を体系的に学ぶ。

さらに、「ホテルビジネス実務検定（HB検）」ベーシックレベル2級合格を見据えた基礎知識整理と演習を行い、将来ホテル業界で働くための初歩的な実務感覚を育成する。現役ホテリエによるゲスト講義を前半・後半に配置し、現場のリアリティと最新動向に触れる機会を通して、学びを自分事化する。

<授業の到達目標>

- ・ホテル産業の成り立ち・業態・市場構造を説明できる
- ・宿泊・料飲・宴会の役割、基本用語、主要オペレーションを理解し説明できる
- ・収益指標（稼働率、ADR、RevPAR など）の意味を理解し、基礎的な読み解きができる
- ・所有・運営モデル（独立系、フランチャイズ、マネジメント契約等）の基本概念を説明できる
- ・HB検ベーシック2級の主要範囲を把握し、基礎問題に対応できる

<授業の方法>

1. 出席確認と前回の振り返り（10分）
2. 講義（40分）
3. ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（40分）
4. 意見交換/まとめ（10分）

※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。

※履修者の理解度を勘案して、授業の順序や内容は変更になることがあります。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ・グループディスカッションを行い、ホテル産業の多様な業態や部門の特徴について複数の視点から考察し、理解を深める。
- ・ロールプレイを通じて、チェックイン対応や接客場面などの宿泊・料飲サービスを体験し、実務に基づくコミュニケーションスキルを身につける。
- ・学生同士でフィードバックを行い、ホテリエ講義の内容やグループワークの成果を互いに検討し、相互学習を促進する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 予習（各回 90分）

次回テーマに関係する自分の経験・観察をメモ化。

2. 復習（各回 90分）

授業で扱ったキーワードと学びを1ページに要点整理。演習や対話で得た気づきを1つ挙げ、「次の一歩（One Action）」を1つ記入。

3. 中間前（60～90分）

前半のキーワードと要点の再確認。短答・用語確認・ミニケースの自作解答を各1題ずつ。自分の弱点を1つ明確化。

4. 期末前（60～90分）

学期全体の要点を再整理（働く意味／自己理解／社会理解／コミュニケーション）。想定Q&Aを2～3問作成し、個人ふり返しシート（学んだこと・気づき・今後の行動）を下書き。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間テスト 30%、最終テスト 40%、授業態度 30%

<教科書>

なし

<参考書>

仲矢秀一・テイラー雅子・中村光信（2016年5月31日） ホテル・ビジネス・ブック 中央経済社

日本能率協会マネジメントセンター（2020年3月10日） ホテルビジネス実務検定 公式テキスト ベーシック2級 日本能率協会マネジメントセンター

日本ホテル教育センター（2026年3月1日） ホテルビジネス 基本編 日本ホテル教育センター

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ホテル産業の成り立ち・歴史	・ホテルの歴史的背景を理解する ・旅館とホテルの違いを説明する ・ホテルの社会的役割を捉える ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
2	ホテルの業態と市場構造	・主要業態の特徴・提供価値・顧客層・立地との関係を体系的に理解 ・ホテルの多様な目的と形態を理解 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
3	ホテルの経営・運営形態①	・ホテルの経営・運営形態（所有と運営の関係）を整理・理解 ・主要ホテルチェーンの運営モデルを理解 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
4	ホテルの経営・運営形態②／ホテルの組織	・世界と日本のホテルチェーンの特徴の把握 ・ホテル組織の全体像の把握 ・総支配人の責任と権限の理解 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
5	ホテルの収益構造	・ホテルの収益構造の理解 ・ホテルのGOPとユニフォームシステムの把握 ・KPI（稼働率・ADR・RevPAR）の理解と計算演習 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
6	前半の振り返り／ホテルの宿泊部門	・前半の振り返り ・宿泊部門の特徴と各種業務の理解 ・KPI（稼働率・ADR・RevPAR）の視点で宿泊部門を理解 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
7	中間試験／ホテルの料飲部門①	・中間試験と振り返り ・料飲部門の特徴と各種業務の理解 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
8	ホテルの料飲部門②	・料飲部門の主要KPI（客単価・回転率・FLコスト）の理解 ・朝食オペレーションの重要性の把握 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
9	ホテルの宴会部門と MICE	・宴会オペレーションの理解 ・MICE（Meeting, Incentive, Convention, Exhibition）の理解 ・料飲関連その他部門（ブライダル、スパ、FBオフィス等）の把握 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
10	ホテルのセールス&マーケティング／ファイナルプレゼンテーション準備①	・セールス&マーケティングの機能と役割の把握 ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（最終回発表）
11	ホテルのレベニューマネジメント・ホテルのその他主要機能／ファイナルプレゼンテーション準備②	・レベニューマネジメントの理解 ・ホテルの施設管理の機能と役割の理解 ・ホテルの安全管理の重要性の理解 ・ホテルの人材育成の重要性の理解 ・ファイナルプレゼンテーションに向けて「ホテル作り」をグループワークで取り組む ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（最終回発表）
12	HB検ベーシック2級対策①／ファイナルプレゼンテーション準備③	・HB検2級の対策と演習 ・ファイナルプレゼンテーションに向けて「ホテル作り」をグループワークで取り組む ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（最終回発表）
13	HB検ベーシック2級対策②／ファイナルプレゼンテーション準備④	・HB検2級の対策と演習 ・ファイナルプレゼンテーションに向けて「ホテル作り」をグループワークで取り組む ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（最終回発表）
14	総まとめテスト／ファイナルプレゼンテーション	・総まとめテストと振り返り ・全グループによる「ホテルづくり」をテーマにしたファイナルプレゼンテーション ・（ピアラーニング） グループワーク 最終発表

科目コード	T230102				区 分	コア科目			
授業 科目名	流通論				担当者名	高橋 有弥			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ビジネスにおける商品流通（「メーカー」→「卸」→「小売」→「消費者」）の重要性について学んでいきます。また、経済環境と消費者の変化、そして、情報技術が発展していく中における国内外の卸売業及び小売業の近年の動向についても学び、日本と海外の流通機構の違いなどについても学んでいきます。加えて、流通産業におけるDX化やグローバル化について、大手流通企業の事例を用いて実践的に学んでいきます。

<授業の到達目標>

- ①ビジネスにおける流通機構の役割の理解
- ②国内外の流通産業の動向の理解及び日本と海外の流通機構の違いの理解
- ③流通産業における時代の変化に合わせた進化（DX化、グローバル化など）の理解

<授業の方法>

講義

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業は、授業、ディスカッション及びプレゼンテーションを活用して展開する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習各回毎に100分とする。

- ・予習：次回の授業内容に関連する資料を読み、基本的な用語や概念を事前に理解する。
- ・復習：授業で学んだ内容を振り返ると共に、ノートを整理する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末課題 40%、中間レポート 20%、授業態度・参加度40%

<教科書>

<参考書>

井上崇通, 村松潤一, 庄司真人 (2023/3/29) ベーシック流通論 (第2版) 同文館出版
 上原 征彦・坂上 眞介 (2008/3/11) 手に取るようにわかる小売・流通がわかる本 かんき出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業概要の説明・オリエンテーション 流通とは・・・ マーケティングと流通論の関係・社会における流通の役割について	「メーカー」→「卸」→「小売」→「消費者」についての詳細を学ぶ
2	流通の役割	5つの「隔たり」とそれらをうめる4つの「流」について事例研究を通じて学ぶ
3	卸売業と小売業の分類・日本の流通の特徴について	卸売業・小売業の分類、商品仕入形態、日本の流通業界の特徴などについて事例研究を通じて学ぶ
4	小売業とその業態と機能について（1）	小売業は、メーカーや卸売業者から商品を仕入れ、最終消費者に販売する事業者である。小売業における業態とそれらの機能について学ぶ
5	小売業とその業態について（2）・小売業におけるDXについて	継続して、小売業の業態について学ぶと共に、顧客体験の向上、業務の効率化などの小売業におけるDX化について事例研究を通じて学ぶ
6	日本と世界のGMS（総合量販店）について	近年の国内外のGMSの営業活動などについて事例研究を通じて学ぶ
7	卸売業の役割とは・・・	近年の国内卸売業界再編の動きについて総合商社の動きなどについて事例研究を通じて学ぶ
8	地域密着型小売業について ショッピングセンター（SC）・ショッピングモール（SM）・アウトレットモールについて	スーパーマーケットやドラッグストアの地域密着型戦略について
9	流通戦略（小売業）について	ショッピングセンターなどに求められる提供価値や機能について学ぶ
10		商品を効率的に消費者に届け、顧客満足度と利益を最大化する戦略について事例研究を通じて学ぶ

11	流通戦略（卸売業）について	卸は、メーカーと小売の間の橋渡しとして、いかに効率と付加価値を生み出すかについて事例研究を通じて学ぶ
12	流通戦略（製造業）について	製造業の流通戦略は、マーケティング・ミックス（4P）の「Place」に該当し、商品・サービスを顧客に届けるプロセス全体を最適化する戦略であることを事例研究を通じて学ぶ
13	流通戦略（全般）について	事例研究：大手製造業や小売業企業の事例を用いて、流通戦略について学ぶ
14	まとめ	1 回～13回の授業の振り返り

科目コード	T230103				区 分	コア科目			
授業科目名	消費者行動論				担当者名	上田 隆穂			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

消費者行動論では消費者に関する領域を学ぶことになる。具体的には「人はなぜ・どのように商品やサービスを選び、購入し、使用し、評価し、再購入するのか」について学習するもので、経営学・マーケティング論・心理学・社会学・行動経済学などを横断する学際領域となる。この授業では、消費者行動の基本とその事例を学ぶことを目的としている。理解を深めるために、理論面だけでなく、できるだけ事例を用いて、わかりやすい内容を目指している。消費者行動論の内容は、新しい概念、例えば、サステナブル・マーケティングとの関連が深いエシカル消費、持たざる消費であるリキッド消費など新しい内容も含めて解説する。

<授業の到達目標>

マーケティング総論やマーケティング戦略で対象となる消費者に関する知識を習得し、消費者がどういう状況でどういう判断をするかの意思決定枠組みを理解できるようになる。

<授業の方法>

基本的にはパワーポイントを用いて講義を行う。事例ごと質問を投げかけて答えてもらう方法をとる。なお1度は企業等のゲストスピーカーを迎え、マーケティング戦略事例の講演をしてもらう。感想文を課す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングほどではないが、講義中にQ&Aは行うつもりである。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 教科書を事前に読んで来てもらう。（60分）
2. 復習として講義でのポイントを振り返る（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート（感想文）20点、学習意欲 30点、期末レポート50点

<教科書>

松井 剛（著、編集）、西川英彦（著、編集） 2020年2月19日 1からの消費者行動 碩学舎（販売：中央経済社）
 時々、配布する資料もあり

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンスおよび消費者の知覚について	●ガイダンス ●知覚とは何か ●知覚の文化差について ●知覚の4段階のプロセスについて ●知覚の重要性 ●知覚の残り部分
2	知覚の残りおよび消費者の学習について	●学習とは何か ●学習に関する諸理論 ●消費者行動における学習の役割について ●記憶のメカニズム
3	消費者の記憶について	●短期記憶 ●長期記憶と連想ネットワーク ●ノスタルジー
4	消費者の態度について	●態度に影響を与える関与：関与とは何か ●態度：自分を含む人や、物、広告などに対する長期にわたる全体的評価 ●態度モデル：多属性態度モデル
5	ゲストスピーカーによる講演（ただしゲストスピーカーの予定により、期日が変動する可能性がある）	ゲストスピーカーが勤める企業・産業についてお話を頂く。特に対象となる消費者について詳しく解説をしていただく。 注意：事後の感想文の提出は極めて重要 忘れずに出すこと（自分で作成すること、他人の感想文を若干手直して提出することは許されない）
6	消費者の意思決定について	●消費者の購買意思決定プロセスとは何か

7	セグメンテーションについて（マーケティング総論よりも詳しく）	●問題認識 ●情報探索 ●代替製品の評価 ●購買決定 ●購買後の行動 ●セグメンテーションについて ●デモグラフィクスによるセグメンテーション ●サイコグラフィクスによるセグメンテーション
8	コミュニケーションについて：どのように消費者を納得させるか	●メディアの発信源効果 ●メッセージ効果 ●上手い使い分けのために精緻化見込みモデル ●店舗はどのようにつくられているのか
9	店頭マーケティングについて：売れるお店はどうやってつくる？	●私たちは、どのようにして店頭でものをかうのか ●状況について：様々な状況が消費行動に影響を与える ●インスタ・マーチャンダイジング ●非計画購買とは何か？
10	アイデンティティについて：消費で自己表現をしている？	●消費者のアイデンティティと消費 ●アイデンティティとは？ ●アイデンティティと社会からの期待 ●モノの中には、家族全員で所有したり、使用したりするものがあるのか？
11	家族の影響について：小石川家の買い物は誰が決めているのか？	●家族の購買意思決定において家族の各メンバーが担う役割は異なるのか？ ●個人と同様、家族にもライフサイクルがあるのか？ ●子供は家族やメディアの影響を受けて、消費者としてのスキルや知識を身に付けていくのか？ ●消費者が他者から受ける影響とは ・準拠集団とは ・オピニオン・リーダーとは ・クチコミと消費者行動
12	集団による消費：なぜ友人同士の服装は似てしまうのか ステイタス：なぜモノが集団のシンボルになるのか？	●ステイタス ・社会では、集団レベルでの規範や競争がある ・モノは、所属する階級や出自を示す手段、つまり集団の象徴となる ・それゆえ上の階級に移動したり、そう見せかけたりできるようなモノが流行する ・ただし、所属する階級は、モノに加えて、マナーや立ち居振る舞いにも現れる ●サブカルチャー ・マイクロカルチャー ・エスニシティ ・ステレオタイプ
13	サブカルチャー：日本人は全員納豆好き？	●文化と消費 ●聖なる消費と俗なる消費 ●儀式としての消費
14	文化：聖地巡礼も消費者行動？	

科目コード	T230104				区 分	コア科目			
授業科目名	原価計算				担当者名	末原 聡			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

工業簿記および原価計算は、製造業における生産活動を記録・計算し、製品原価を把握するための会計手法である。本講義では、材料費・労務費・経費などの原価要素を中心に、製造間接費の配賦および個別原価計算の基礎を学習する。あわせて、全経簿記能力検定2級工業簿記を中心とした内容を扱い、日本商工会議所簿記検定2級にもつながる基礎力の養成を目指す。

＜授業の到達目標＞

- ①全経簿記能力検定2級工業簿記および日本商工会議所簿記検定2級に関連する原価計算の基礎的な知識を身につける。
- ②原価計算の意義を知り、製造業における原価の基本的な考え方を学ぶ。
- ③材料費・労務費・経費の分類と計算、ならびに工業簿記の基本的な記帳処理ができるようになる。
- ④個別原価計算および総合原価計算の基礎を理解し、製品原価を計算できるようになる。

＜授業の方法＞

- ①授業の開始時に、前回の講義の振り返りとフィードバックを行う。
- ②教科書の解説を行い、その後問題演習および解説を行う。
- ③仕訳や集計などの計算を行うので、スマートフォンとは別に電卓を持参すること。
- ④GoogleClassroomによるデジタル教材の配布を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

- ①実際の商取引を題材として、仕訳の方法や帳簿管理の合理性について検討するディスカッション・ディベート
- ②実際の商取引で用いられる会計ソフトウェアや各種証票を活用した実習
- ③学生間で問題の解き方や考え方を教え合う協働学習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

＜予習＞テキストを読み、例題を解く。書籍や論文等で授業で取り扱う内容について検討し、質問をまとめておく。（1時間）
＜復習＞授業で取り扱った練習問題を解く。書籍や論文等で授業で取り扱った内容について検討し、質問をまとめておく。追加で配布される練習問題がある場合には解答する。（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、学科のディプロマポリシー (DP) のうち、
DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に対する積極的な態度、小テストなどの平常点60% + 定期試験40%
フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

＜教科書＞

(監修)新田忠誓（編著）桑原知之 2024年3月19日 全経簿記能力検定試験公式テキスト&問題集2級工業簿記 ネットスクール出版

＜参考書＞

(著)TAC簿記検定講座 2024年2月21日 合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記 Ver. 10.0 TAC出版
(著)公益社団法人全国経理教育協会 2026年4月14日 全経簿記能力検定試験最新過去問題集 2 級工業簿記【令和 8 年度版】（全経過去問題シリーズ） ネットスクール出版
(著)石川 和幸 2025年6月20日 この 1 冊ですべてわかる 製造業の仕事の基本 日本実業出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション 工業簿記の目的	イントロダクション 工業簿記の目的
2	工業簿記の基本構造	工業簿記の基本構造
3	材料費計算①	材料費の定義と分類、材料費関係の証ひょうと帳簿、購入原価
4	材料費計算②	材料費の消費量の計算、消費単価の計算、期末棚卸高
5	労務費計算①	労務費の定義と分類、賃金関係の証ひょうと帳簿、支払賃金の計算
6	労務費計算②	消費賃金の計算、給料などの計算
7	経費計算	経費の定義と分類、経費関係の証ひょうと帳簿、経費の計算
8	製造間接費計算	製造間接費の定義と分類、製造間接費関係の証ひょうと帳簿、製造間接費の製品への配賦

9	個別原価計算①	個別原価計算の意義と構造、種類
10	個別原価計算②	個別原価計算の実際配賦と予定配賦、仕損および作業層の処理
11	部門別個別原価計算①	部門費計算の意義と目的、原価部門の設定の方法
12	部門別個別原価計算②	部門費の集計、部門個別費と部門共通費
13	部門別個別原価計算③	補助部門費の製造部門への配賦
14	総復習	第1回から第13回までのまとめ

科目コード	T230105				区 分	コア科目			
授業科目名	財務会計				担当者名	武末 朝生			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

- ①「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」で修得した複式簿記という会計記録の技術に関する基礎知識を前提として、「財務会計」では、企業の財政状態（貸借対照表）及び経営成績（損益計算書）を外部の利害関係者（株主を含む投資者、債権者等）に対して報告・開示するための「財務諸表」の作成に関する会計ルールについて「理論」的な観点から学修する。
- ②授業を理解して「到達目標」を達成するため、「日商簿記検定3級」合格レベルの知識があることが望ましい。
- ③なお、第3クォーター・第4クォーターに開講する「経営財務入門」を履修する場合には、この「財務会計」を履修する必要がある。

<授業の到達目標>

- ①財務諸表の構造と機能を理解する：貸借対照表および損益計算書の各構成要素を理解し、体系的に説明できる。
- ②会計基準を理解する：会計基準の基本原則を理解し、なぜそのように規定されているのかを論理的に説明できる。
- ③会計情報の社会的役割を理解する：財務情報の開示が資本市場・コーポレートガバナンス・社会的信頼等に与える影響を理解し、財務会計の公共的意義を説明できる。

<授業の方法>

- ①「教科書」に沿った講義形式の授業で確実に理解する（「教科書」を必ず購入すること）。
- ②「練習問題」や「小テスト」に取組み、解答・解説で理解度を確認する。
- ③ディスカッションを通じて、理解を深め、知識を定着する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ①練習問題の解答について、順番に「プレゼンテーション」してもらう。
- ②質問を投げかけて、インタラクティブに「ディスカッション」する時間を設ける。
- ③GoogleClassroomのデジタル教材などを通じて、フォローアップする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- ①予習：「教科書」の指定箇所を読んでおく（1時間）
- ②復習：「練習問題」や「課題」に取り組む（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価方法：授業に対する積極的な態度 50%、確認テスト 50%
 フィードバック：授業時間中に、演習問題の解答・解説を行う。

<教科書>

坪谷 敏郎（2020年12月15日）【三訂版】『三訂 基礎から学ぶ財務知識』（ISBN：978-4-7668-4393-4）
 （※「経営財務入門」でも同じ教科書を使います。） 経済法令研究会

<参考書>

桜井久勝（2026年3月27日）『財務会計講義』第27版（30年以上読み継がれている財務会計の定番テキスト） 中央経済社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	(1) ガイダンス、(2) 財務諸表の構造と関連	(1)①授業の概要、②授業の方法、③成績評価方法、④他の授業との関連性など、 (2)①財務情報、②貸借対照表、 ③損益計算書
2	(1) 財務諸表の構造と関連（つづき）、 (2) 流動・固定分類基準、(3) 金銭債権の評価	(1)④株主資本等変動計算書、(2)①流動資産と固定資産、流動負債と固定負債を分類する根拠、②流動固定分類基準 (3)①金銭債権の評価方法
3	(1) 金銭債権の評価、(2) 有価証券	(1)②回収不能見込額（貸倒引当金）の見積り、③貸倒引当金の会計処理、④貸倒引当金の貸借対照表表示 (2)①有価証券の評価と分類、②有価証券の評価基準、③有価証券の評価方法
4	棚卸資産	①棚卸資産の範囲、②棚卸資産の評価基準、③棚卸資産の評価方法、④棚卸減耗損と商品評価損

5	固定資産	①固定資産の分類、②減価償却、③減価償却資産に関する税務上の取扱い、④資産除去債務、⑤リースの取扱い、 ⑥無形固定資産、⑦投資その他の資産
6	(1) 減損会計、(2) 繰延資産	(1) ①減損会計とは、②減損処理の基本的なしくみ、③財務諸表の表示と注記、 (2) ①繰延資産の意義、②会社法上の繰延資産、③法人税法上の繰延資産
7	1学期の総まとめ (理解度の確認)	(1) 確認テストと解説、(2) 質疑応答
8	(1) 負債の内容、(2) 引当金	(1) ①負債の分類、②主な負債の内容 (負債性引当金をの除く)、(2) ①引当金の意義、②引当金の計上基準、 ③負債性引当金の会計処理、④退職給付引当金、⑤税法上の取扱い
9	純資産	①純資産の分類、②資本金、③資本剰余金、④利益剰余金、⑤自己株式、⑥評価・換算差額等、⑦新株予約権
10	費用・収益の計上基準	①計上基準、②現金基準、③発生基準、④実現基準 (販売基準)、⑤費用収益対応の原則、⑥実現基準 (販売基準) の適用形態、⑦工事進行基準、⑧収益認識に関する会計基準
11	(1) 外貨換算、(2) 税効果会計	(1) ①外貨建取引とは、②取引時の円換算、③決算時の円換算、④決済に伴う損益の処理、⑤在外支店の財務諸表項目の円換算、⑥在外子会社の財務諸表項目の円換算、(2) ①会計上の利益と課税所得の違い、②税効果会計の目的
12	(1) 税効果会計 (つづき)、(2) 連結会計	(1) ③法人税等調整額とは、④一時差異と永久差異、⑤繰延税金資産と繰延税金負債、(2) ①連結財務諸表の意義、 ②連結の範囲、③連結決算日
13	連結会計 (つづき)	④連結財務諸表の作成手続、⑤持分法
14	2学期の総まとめ (理解度の確認)	(1) 確認テストと解説、(2) 質疑応答

科目コード	T230112				区 分	コア科目の経営総合領域			
授業科目名	会社法 I				担当者名	伊藤 敦司			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

この講義では、現代社会において重要な役割を担う会社、特に株式会社に関し、主にガバナンスの面の法制度を解説する。

現代社会において、会社とりわけ株式会社と無縁な生活は考えられない。将来いかなる方面に進もうとも、株式会社及び株式会社に関する法制度の理解は不可欠である。ところが、日々変化する社会情勢を反映して、株式会社法は頻繁に改正されてきており、既存の制度の見直しや新たな制度の創設が多数なされ、その重要性にもかかわらず、わかりにくい法分野となっている。しかも、2007年5月から施行された会社法は、多くの問題を背景に大改正がなされ、新たな問題も指摘されている。

そこで、会社法 I では、まず企業形態における株式会社の位置付け・特色を明らかにしたうえで、株式会社に対する法規制の基本的な仕組みを理解してもらうための解説を行う。そのうえで、機関構造、設立、各種会社について、近時の法改正や将来的な課題をふまえながら、具体的な解説を行う。

<授業の到達目標>

現代社会において重要な機能を有する株式会社をはじめとする会社制度の概要とその課題を認識すると同時に、関連科目の基礎を提示したい。

将来いかなる方面に進もうとも、株式会社及び株式会社に関する法制度の理解は不可欠である。企業社会の一員として、(株)会社の基本的な仕組みやルール等の常識を身につけることは必要不可欠である。

そのため、実務界の事例にも論及しながら、身近なわかりやすい講義としたい。毎回、授業終了時に確認のための簡単なレポートを作成してもらい、履修者の理解度を確認しながら、授業を進行する。また、時事問題を取り上げ、会社法の視点から分析を行うことにより、実践的に会社法を理解してもらう。

<授業の方法>

パワーポイントを用いて講義を進める。テキストは特に指定しない。毎回、授業の最後に、授業のまとめや意見を書いてもらう。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

具体的な出来事等をもとに、学生諸君と討論する時間を設ける。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- 第1回：(予習)新聞等を利用し、会社をめぐる報道がいかになされているかを概観しておくこと (60分)
 (復習)会社の意義をふまえ、関係する利害関係者とその保護の必要性とその手法を整理しておくこと (180分)
- 第2回：(予習)身の回りにおける会社の種類や仕組みについて考察すること (60分)
 (復習)四種会社の社員の責任及び特色を整理しておくこと (180分)
- 第3回：(予習)株式制度及び有限責任について、その内容や特色を概観しておくこと (60分)
 (復習)株式制度及び株主有限責任の意義及びそこから導かれる特色を整理しておくこと (180分)
- 第4回：(予習)株式会社の経営を担う者たちとその役割を調べておくこと (60分)
 (復習)株式会社における所有と経営の分離、機関分化の意義及び内容を整理しておくこと (180分)
- 第5回：(予習)ネットを通じて、特定の企業の株主総会招集通知を調べ、その記載事項を概観しておくこと (60分)
 (復習)議決権保障のための各種制度を整理しておくこと (180分)
- 第6回：(予習)取締役役に期待される機能を第4回の授業をふまえ整理しておくこと (60分)
 (復習)取締役の義務・責任をその実効性を含め、整理しておくこと (180分)
- 第7回：(予習)取締役会に期待される機能を第4回の授業をふまえ整理しておくこと (60分)
 (復習)取締役会に関する法規制を、株主総会と比較しながら整理しておくこと (180分)
- 第8回：(予習)代表取締役役に期待される機能を第4回・第5回の授業をふまえ整理しておくこと (60分)
 (復習)授業で指摘した二つの論点に関する判例を調べ、整理しておくこと (180分)
- 第9回：(予習)第4回の授業をふまえ、監督監査体制の必要性を整理しておくこと (60分)
 (復習)株式会社の監督監査体制の概要・問題点を整理しておくこと (180分)
- 第10回：(予習)指名委員会等設置会社形態をとる特定の企業を調べ、その概要をつかんでおくこと (60分)
 (復習)指名委員会等設置会社の意義・問題点を整理しておくこと (180分)
- 第11回：(予習)監査等委員会設置会社形態をとる特定の企業を調べ、その概要をつかんでおくこと (60分)
 (復習)監査等委員会設置会社の意義・問題点を整理しておくこと (180分)
- 第12回：(予習)コーポレートガバナンス・コードを読んでおくこと (60分)
 (復習)コーポレートガバナンス・コードの意義・問題点を整理しておくこと (180分)
- 第13回：(予習)会社設立の実体形成手続と法人格取得手続の概要をつかんでおくこと (60分)
 (復習)株式会社の設立手続きの法規制の概要・特色を整理しておくこと (180分)
- 第14回：(予習)第2回の授業をふまえ、四種会社の概要を概観しておくこと (60分)
 (復習)合名会社及び合同会社の意義・特色を、株式会社と対比しながら整理しておくこと (180分)
- 第15回：(予習)これまでの授業ノートを復習し、疑問点があれば、それを確認しておくこと (60分)
 (復習)会社法の課題を整理しておくこと (180分)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

確認テスト40%、平常点（小レポート、授業参加の姿勢等）60%により総合的に評価する。詳細については、第1回目の授業の際に説明する。

<教科書>

<参考書>

江頭憲治郎（2024年4月） 『株式会社法 第9版』 有斐閣
伊藤靖史ほか（2025年3月） 『会社法 第6版』 有斐閣
近藤 光男（2026年1月） 『現代商法入門 第12版』 有斐閣

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	会社の現代社会における機能を概観し、各種企業形態における会社の位置付けを明らかにする。
2	会社法総論	※時事的な問題を取り上げるため、以下の予定は若干変更する場合もある。 会社の意義を明らかにしたのち、会社法の規定する四種会社の概観し、そこから導かれる法規制の特色を考察する。
3	株式会社法総論	株式会社の基本的特質を、合名会社と対比しながら明らかにし、そこから導かれる法規制を考察する。
4	株式会社の機関構造（経営機構）①総論	所有と経営の分離を背景に、基本的な機関構造を学ぶとともに、会社法の機関構成の柔軟化とその制限を考察する。
5	株式会社の機関構造②株主総会	株主総会の意義機能を明らかにしたのち、株主の議決権保障に向けた会社法の規制を考察する。
6	株式会社の機関構造③取締役	経営を委託された取締役に課される義務・責任、それをめぐる論点を考察する。
7	株式会社の機関構造④取締役会	取締役会の意義・機能を背景に、株主総会との比較をふまえながら、その規制を考察する。
8	株式会社の機関構造⑤代表取締役	代表取締役の意義・機能を背景に、権限濫用行為や専断的行為等の論点を考察する。
9	株式会社の機関構造⑥会計参与・監査役・会計監査人	会計参与・監査役・会計監査人の意義・機能を背景に、それぞれの比較や関係を考察する。
10	株式会社の機関構造⑦指名委員会等設置会社	指名委員会等設置会社の意義・機能を背景に、コーポレート・ガバナンスにおける位置付けを考察する。
11	株式会社の機関構造⑧監査等委員会設置会社	平成26年改正により創設された監査等委員会設置会社の意義・機能を背景に、コーポレート・ガバナンスにおける位置付けを考察する。
12	株式会社の機関構造⑨まとめ	近時のコーポレート・ガバナンス強化の流れのなか、会社法の規制の問題点や課題を考察する。
13	株式会社の設立	株式会社の設立規制の概要及び特色を、株式会社の特色と結び付けながら考察する。
14	各種会社	株式会社の学習を前提に、対極にある合名会社や、同じく有限責任社員によって考察される合同会社の特色や法規制を考察する。

科目コード	T230116				区 分	コア科目			
授業科目名	経営戦略論				担当者名	池島 政広			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本科目は、企業の発展にとって最も大事な方策である「経営戦略」を扱う。これは企業を取り巻く環境を分析し、自らの経営資源を踏まえて、企業価値を高める事業を構想し、それを利害関係者に明快に発信して、速やかに実践していくことが要となる。この経営戦略を客観的に捉えて、企業の盛衰を左右する中身を体系的に整理していくのが経営戦略論に他ならない。この諸理論を学び、より理解を深めるために、実際の企業の事例を数多く取上げて分かりやすく講義していく。

<授業の到達目標>

1. 激変するビジネス環境下で、企業の経営成果に繋がる経営戦略を分析できるようになる。
2. 実際の経営戦略を考察する上で参考になる諸理論の内容および問題点を指摘できるようになる。
3. 経営戦略を牽引する経営者のリーダーシップを論議できるようになる。
4. 経営戦略の核となるイノベーションを推進する企業の仕組みを論議できるようになる。

<授業の方法>

基本的にはパワーポイントを用いて講義を進めていく。テキストは使用しない。授業の最後の10分程度を使い、提示した課題について学生諸君の見解を書いてもらう（小テスト：講義の理解度と独自な見解の吸い上げ）。この見解を整理して次の授業で解説する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

前もって知らせた討議テーマに、学生諸君と論議する時間を設ける（15分程度）。場合によってはグループ編成をする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次の授業で討議するテーマを中心に予習してしてもらう（30分）。

復習として、授業の大事な点を整理してもらう（30分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲：20%

小テスト：20%

中間レポート：20%

期末テスト：40%

<教科書>

<参考書>

沼上幹（2016年12月5日）『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房 古森重隆（2013年11月14日）『魂の経営』東洋経済新報社 ヘンリー・チェスブロウ（2004年10月28日）『OPEN INNOVATION』産業能率大学出版部

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	経営戦略論の概要	企業の盛衰にとって大事な”経営戦略とは何か”について講義する。特に不透明感が漂う現代社会において、この戦略の中身を深く考えてみる。そして、この戦略を体系的に整理する試みが経営戦略論である。この体系の下に、経営成果に繋がる経営戦略を提示して、14回の講義の流れを明示する。また、学習方法および成績評価について説明する。 （予習）学生諸君が優良企業と思われる企業を1社挙げて、その経営戦略を考えておいてください。討議テーマは「激変するビジネス環境下での経営戦略の意義」 （復習）不透明感の高い現代社会における企業の経営戦略を考える上で大事な点を挙げてください。
2	社会の中での企業の経営戦略の役割	企業のビジョン（あるべき姿）達成のための方策である経営戦略をどう捉えるか明らかにする。そして、社会の中での企業の存在意義を明らかにして、独自な事業展開をして経営成果を上げていく必要性を論じる。 （予習） 関心ある企業を取上げて、その企業の社会での位置づけ（豊かな社会にどのように貢献していくか）を調べておいてください。討議テーマは「企業の社会性と

		収益性との関連」 (復習) 企業の社会性と収益性の関連を、「共通価値の創造」の理論を参考にして纏めておいてください。 アンゾフの理論(製品と市場との組み合わせ)の基本を解説する。この理論を、富士フィルムホールディングスの事例(技術と市場の組み合わせ)を基に考えてみる。 (予習) 富士フィルムホールディングスのHPを、IR(投資家向けの情報)の箇所の事業の特質について調べておいてください。討議テーマ「富士フィルムホールディングスが大きく発展した理由」 (復習) コダックと比較して、富士フィルムホールディングスが飛躍した理由を戦略的視点から考えてみてください。 色々な事業や製品を持っている企業に対する戦略ツールとしてのPPM(プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント)を企業の事例を基に解説する。そして企業の市場に対する戦略と収益性の関連を実証的に調べているPIMSについても解説する。 (予習) 経営学関連で学んできたPPMを事前に調べておいてください。討議テーマ「PPMの利点と問題点」 (復習) PPMの利点および問題点を事例を挙げながら考えてみてください。 著名なポーターの戦略理論(差別化、コスト・リーダーシップ、集中化)について、事例を取上げながら解説する。この理論に対して、企業の持続的な優位性は、企業の固有に持っている経営資源によるとした資源ベースト・ビュー理論、さらには、その後のコアコンピタンスの考え方についても解説する。 (予習) 経営学関連で学んだポーターの戦略論を調べておいてください。討議テーマ「差別化とコスト・リーダーシップは同時に遂行することは可能か?」 (復習) 差別化とコスト・リーダーシップを同時に遂行出来る条件は何かを考えてみてください。 経営戦略は企業の経営理念・企業文化に結びついているとする理論を紹介する。優良企業の条件として経営理念・文化の重要性を指摘した「エクセレントカンパニー」「ビジョナリーカンパニー」を取上げて解説する。そして、戦略を日常業務へ落とし込む必要性を指摘したPwCのコンサルタントの考え方を紹介する。 (予習) 何故新しいことに挑戦した人がない人が多いのか考えておいてください。討議テーマ「社会を変える挑戦意欲の源とは?」 (復習) 経営戦略と経営理念・文化との関連性を纏めておいてください。 イノベーション(画期的な商品・サービス、新たな市場の開拓など)なしで企業の持続的な発展は無理である。しかし、このイノベーションの推進は難しい。そこで、このイノベーションに向けた経営戦略はどのようなものであるか明らかにする。 (予習) 社会に大きなインパクトを与えたイノベーションの事例を1つ挙げてください。討議テーマ「イノベーションを推進するにはどのような戦略が必要か?」 (復習) イノベーションを推進していく経営戦略の大事な点を整理しておいてください。 イノベーションを牽引する経営戦略に責任を持つ企業のトップのリーダーシップについて、事業構想力、情報発信力、ネットワーキング力から捉えてみる。キッコーマンを事例として取上げ、商品開発や国際化を牽引してきた経営者について論じる。 (予習) キッコーマンのHP、とりわけ商品開発や国際化の理念に関して見ておいてください。討議テーマ「素晴らしい経営者の条件とは?」 (復習) 企業の経営者の持つべき大事な力を纏めておいてください。 イノベーションの大事な側面である研究開発を戦略的に進めていくマネジメントについて、事例を挙げながら解説する。とりわけ、競争優位性の視点から、独自技術の開発に繋がるマネジメントを考察する。人間にとって極めて大事な生命・健康に関わるヘルスケア産業についても触れる。 (予習) 研究開発力が高いと思われる企業を1社挙げて、その理由を説明してください。討議テーマ「企業は何故研究開発に力を入れる必要があるのか?」 (復習) 効果的な研究開発マネジメントの大事な要因を挙げてください。 顧客の視点に立った効果的な新商品開発マネジメントを解説する。それには、市場性、競争状況、自社の強みを踏まえて、顧客のニーズを吸い上げた商品を開発していく体制を築いていくことである。特に国際的に競争力の高い自動車産業の特性や今後の課題を論議する。 (予習) 日本の自動車産業は何故国際的に強いのか、また今後の問題点を考えておいてください。討議テーマ「日本自動車産業の強みと問題点」 (復習) 将来大きな自動車市場となるインドで日本のスズキが強い理由を挙げてください。 企業の自前主義を脱却して、他社・他機関との連携の大切さを解説する。厳しい企業間競争に打ち勝つには、商品開発などにおいて、スピーディな対応が戦略的に必要になってくる。このオープンイノベーションについて、東レの事例を挙げて論議する。
3	アンゾフの理論の解説と適応例	
4	戦略ツールとしてのPPMの解説と問題点	
5	ポーターの戦略理論と資源ベースト・ビュー理論の解説	
6	経営戦略と経営理念・文化との関連	
7	イノベーションに向けた経営戦略	
8	経営戦略を推進するトップのリーダーシップ	
9	戦略的な研究開発マネジメント	
10	顧客を魅了する新商品の開発マネジメント	
11	オープンイノベーションの役割	

12	ビジネスチャンス大きなアジアでの戦略展開	(予習) 関心のあるオープンイノベーションの事例を1つ挙げてみてください。討議テーマ「何故オープンイノベーションが必要なのか？」 (復習) 東レのオープンイノベーションの成功理由を纏めてみてください。 少子・高齢化が進む日本では、企業が飛躍的に発展していくには、新たな海外の市場を開拓していくことである。その際に大事な経営戦略について解説する。特にビジネスチャンスが大きな(リスクも大きい)アジアのダイナミズムについて触れる。 (予習) 2025年度海外進出日系企業実態調査(アジア・オセアニア編)ジェトロを見ておいてください。討議テーマ「有望な海外進出先はどの国・地域か？」 (復習) アジアでの事業展開で大事なマネジメント要因を整理しておいてください。
13	新たな産業を牽引するスタートアップ企業の経営戦略	新たな産業を牽引すると期待されているスタートアップ企業の経営戦略について解説する。このような企業を支援する国の政策の基本を学び、そして企業を主導する経営者の起業家精神について、ユーグレナなどの事例を取上げながら考えてみる。 (予習) 経済産業省のHPの「産業競争力強化法」およびユーグレナのHPを見ておいてください。討議テーマ「起業家精神を醸成する教育とは？」 (復習) 産官学連携の意義と問題点について纏めておいてください。
14	まとめー今後の日本企業の戦略を考える	学生諸君の考え方を踏まえ、これまでの講義の大事な点を振り返り、今後の日本企業の経営戦略について論じる。 (予習) 13回の講義の大事な点を纏めておいてください。 (復習) 経営戦略的視点から、日本企業の良さと問題点、そして今後の方向性について考えてみてください。

科目コード	T230203				区 分	コア			
授業科目名	メディア・リテラシー [週2オンデマンド]				担当者名	渡辺 亮			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

「ポスト真実時代」といわれる現在、メディアを批判的に読み解き、使いこなす能力、メディアリテラシーは一層重要となっている。メディアリテラシーは多様なメディアから得られる大量の情報を整理し正確に理解、また自らもメディアを用いて発信する能力を含む。本講義では多くの専門家をゲストスピーカーとして招き、メディアリテラシーに関わる基礎・応用的知識を学ぶ。

<授業の到達目標>

- ・メディアリテラシーの概念を説明できること
- ・メディアリテラシーを実践できること

<授業の方法>

- ・オンデマンド講義（ゲストスピーカーまたは教員による講話）
- ・省察活動（まとめ、課題）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義資料の通読と考察（90分程度）

復習およびレポート課題の作成（90分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（30%）

レポート課題（70%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	本講義の概要を説明する。
2	メディアリテラシーとは（1）	狭義の（本来の）メディアリテラシーの定義と、広義のメディアリテラシーである情報リテラシー、ニュースリテラシー等との関係も含め学ぶ。
3	メディアリテラシー（2）	狭義の（本来の）メディアリテラシーの定義と、広義のメディアリテラシーである情報リテラシー、ニュースリテラシー等との関係も含め学ぶ。
4	メディアリテラシー（3）	狭義の（本来の）メディアリテラシーの定義と、広義のメディアリテラシーである情報リテラシー、ニュースリテラシー等との関係も含め学ぶ。
5	メディアとは	各種メディアの歴史や特徴について
6	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
7	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
8	まとめ	これまでの内容について復習し理解を深める
9	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
10	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
11	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
12	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
13	講話	ゲストスピーカーまたは教員による講和
14	まとめ	これまでの内容について復習し理解を深める

科目コード	T230207				区 分	コア科目 情報システム領域			
授業科目名	データサイエンス入門				担当者名	尾崎 信之			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は様々なデータを読み解く基礎リテラシーを身に着けることです。統計的思考とエビデンスに基づく判断を養うことで、具体的な事象を理解することを目指します。統計的手法をベースとして、AIの活用なども含めて、現実のデータを紐解き、分析することで、実社会の課題に応用できることを目指します。

<授業の到達目標>

1. 実データを批判的に読み解く力をつける。
2. Excel/Google Sheets等を用いた統計的手法のスキルを身に着ける。
3. 具体的な社会課題のデータを分析、説明する力をつける。

<授業の方法>

解説と問いの提示、グループ討論、プレゼンテーション、ICTを活用した事前資料提示、演習問題等の回収

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有り

グループ討論、プレゼンテーション、ICTを活用した事前資料提示、演習時利用、事後学習、演習問題等の回収並びにフィードバックを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に授業要約メモからWEBなどの調査(45分)

復習：グループ討論、プレゼンテーション資料の作成とアップロード、期中、期末でのノートの提出(45分)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

QUIZ（10%）、グループ討議、プレゼンテーション（10%）、質問など、授業中の貢献(10%）、レポート（70%）合計100パーセントで評価する。

<教科書>

使用予定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義で学ぶこと、データサイエンスとは何か
2	データリテラシーとはなにか	オープンデータとは
3	データ収集と可視化	欠損データ、外れ値とは、可視化の手段
4	統計の基礎 1（Excel/Google Sheetsを利用）	代表値と散布度
5	統計の基礎 2（Excel/Google Sheetsを利用）	確率論と期待値
6	統計の基礎 3（Excel/Google Sheetsを利用）	正規分布
7	統計の基礎 4（Excel/Google Sheetsを利用）	相関分析
8	AIと機械学習の基礎	機械学習における学習、汎用GPTの利用と限界
9	事例紹介 1	具体的なデータを用いて実践する
10	事例紹介 2	具体的なデータを用いて実践する
11	ケーススタディ 1	各グループごとに課題及びデータを探し、分析を行う
12	ケーススタディ 2	各グループごとに課題及びデータを探し、分析を行う
13	ケーススタディ 3 発表	各グループごとに収集したデータの説明、発見したことの発表
14	まとめ	

科目コード	T230301				区 分	コア			
授業科目名	ホスピタリティ論				担当者名	都築 智津子			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ホスピタリティの基本的な概念と、その社会的な必要性について学ぶ。観光産業に限らず、学校生活・地域社会・アルバイト・日常の対人関係など、あらゆる場面に共通する「相手の立場に立って考え、行動すること」を中心テーマとして取り扱う。学生自身の体験を振り返りながら、思いやり・気づき・コミュニケーション・多様性への配慮といったホスピタリティの要素を理解し、実生活で応用できる力を身につけることを目指す。

授業では、観光・サービスにおけるホスピタリティの役割、文化による違い、消費者心理の基礎、困っている人への配慮、感情の理解、テクノロジーとの関係など、幅広いテーマに触れていく。ワークショップやディスカッション、身近な事例分析を通して、学生自身が「良い体験とは何か」「真のホスピタリティとは何か」を考える機会を提供する。

<授業の到達目標>

- ・ホスピタリティの基本的概念を説明できる
- ・お客様（相手）の立場に立つとはどういうことかを理解し、行動に結びつけられる
- ・消費者心理の基礎を理解し、顧客体験を分析できる
- ・真の顧客サービスについて自分の言葉で論じることができる
- ・日常生活・学校生活・アルバイトにおけるホスピタリティ行動を考察できる
- ・多様な相手や文化に配慮したコミュニケーションができる

<授業の方法>

1. 出席確認と前回の振り返り（10分）
2. 講義（40分）
3. ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（40分）
4. 意見交換/まとめ（10分）

※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。

※履修者の理解度を勘案して、授業の順序や内容は変更になることがあります。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ・グループディスカッションを行い、多様な視点からホスピタリティの在り方を考え、理解する。
- ・ロールプレイを通じて実際の接客や顧客対応を体験し、実践的なスキルを身につける。
- ・学生同士でフィードバックを行い、相互に学びを深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 予習（各回 20～30分程度）
 - ・次回テーマに関連する身近なサービス体験（接客・案内・待ち時間・マナーなど）を思い出し、良かった点／気になった点を2～3行でメモする。
 - ・必要に応じて、配布資料・指定箇所を軽く読み、**用語（例：おもてなし／ホスピタリティ／サービス）**だけ把握しておく。
2. 復習（各回 20～30分程度）
 - ・授業で扱ったキーワード（定義・特徴・文化・コミュニケーション等）をノートに1ページで要約する。
 - ・授業内ワーク（体験共有・言い換え練習など）を振り返り、自分ならどう改善するかを1点だけ追記しておく。
3. 中間・期末前の準備学習
 - ・これまでの主要キーワード（定義／共通点と相違点／文化・マナー／体験価値 など）を一覧に整理し、重要点を確認する（60分程度）。
 - ・ミニケースや授業中のワークを振り返り、自分の考えや自分ならどう行動するか等について確認する（30～60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間テスト 30%、最終テスト 40%、授業態度 30%

<教科書>

なし

<参考書>

(株)JAL航空みらいラボ（2026年2月18日） やさしく学ぶ ホスピタリティの世界 インプレス

青木義英（2013年4月6日） 新版 ホスピタリティ入門 新曜社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・導入ワーク ホスピタリティの基本概念	・授業の進め方、目的の共有 ・「ホスピタリティとは？」を考える ・ホスピタリティの意味・語源・定義 ・ホスピタリティとサービスの違い ・ホスピタリティに関わる身近な体験（良い体験・悪い体験）を言語化（ワーク） ・ホスピタリティの代表的な3つの視点
2	ホスピタリティを学問的に深堀りする	・身近にあるホスピタリティを3つの視点で考察する（ワーク） ・ホスピタリティ基本動作訓練①（立ち姿勢）
3	日常生活のホスピタリティ	・家庭・学校・友人関係でのホスピタリティ ・気づき能力を高める（ワーク） ・小さな行動が与える心理的効果
4	観光とホスピタリティ①	・観光におけるホスピタリティの重要性 ・観光客心理の基礎 ・観光客心理の応用
5	観光とホスピタリティ②	・多文化の視点 ・地域と訪問者の心理を理解する（ワーク） ・ホスピタリティ基本動作訓練②（笑顔） ・心理学の初歩（感情・期待・安心の構造）
6	消費者心理の基礎①（感情のしくみ）	・「嬉しい体験」が生まれる背景とは？ ・非言語コミュニケーション ・ホスピタリティにとっての第一印象の重要性 ・行動の背後にある心理
7	消費者心理の基礎②（行動のしくみ）	・顧客満足の基礎 ・期待ギャップと顧客ロイヤルティ（基礎編） ・前半の振り返り
8	中間ミニテスト（理解度確認）	・1～6回の理解度確認のミニテスト ・ミニテストの振り返り ・ホスピタリティ基本動作訓練③（お辞儀） ・クレームが起きる下人
9	クレーム対応と臨機応変な対応	・クレーム対応の基本 ・プラスワンの気づき ・臨機応変な対応 ・ロールプレイ演習
10	日本の「おもてなし」と世界のホスピタリティ	・おもてなしの歴史と文化的背景 ・海外との比較と文化の違い ・おもてなしのルーツを探る
11	日本の「おもてなし」の深堀り（演習編）	・おもてなしの背景を研究（グループワーク） ・ホスピタリティ基本動作訓練④（物の受け渡し）
12	多様性配慮とインクルーシブホスピタリティ	・多様性配慮とは ・年齢・国籍・性別・障がいなどの多様性への理解 ・誰もが安心できるホスピタリティとは ・スタッフの負担とケアの必要性
13	働く人のホスピタリティ（感情労働）	・ホスピタリティを生む組織文化 ・全体の振り返り
14	最終試験（理解度確認） 全体のまとめ	・最終試験 ・最終試験の振り返り ・「ホスピタリティとは何か、私にとっての意味」（グループワーク）

科目コード	T230303				区 分	コア			
授業 科目名	観光産業論 [前期集中]				担当者名	森田 金清／糟谷 崇			
配当年次	2年	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

観光地や都市における種々の観光産業の種類、形態、ビジネスの特徴を学ぶ。

担当教員は観光学博士であり、現役の旅館業経営者である。この経歴に基づき、ホテル・旅館を含む観光業、宿泊業の将来の展望を解説する

<授業の到達目標>

国内外の観光産業設に関わる基礎知識を学び、多様な観光形態ができた背景や宿泊産業の現状と将来像を理解し、観光デザイン能力を高めることを目的とする。

<授業の方法>

講義形式

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッションを行う可能性あり

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

観光業や宿泊業の仕事にはどんなものがあるかを関連図書やインターネットなどで調べておく。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中における出席率(50%)、レポート(30%)、授業中の議論参加(20%)

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	観光業とは	「観光業」とは何かおよび、その特徴について説明する。
2	観光産業の歴史	日本における観光産業の発展過程と現状について説明する。
3	ホテルビジネスの歴史	観光の発展とホテルビジネスの変遷について説明する。
4	観光産業の政策・法規	観光産業を取り巻く政策・法規について説明する。
5	観光産業のマーケティング	観光産業のマーケティングについて説明する。
6	観光業界の雇用と労働環境	観光業界の雇用と労働環境について説明する。
7	ホテル業界の動向	外資系企業の進出とホテル業界の動向について説明する。
8	民泊の歴史	民泊の歴史と現状について説明する。
9	日本旅館の歴史	日本旅館の歴史について説明する。
10	事例研究、伊豆、箱根の旅館	事例研究、伊豆、箱根の旅館について説明する。
11	高級旅館（ラグジュアリーブランド）の隆盛	旅館業界における高級旅館（ラグジュアリーブランド）に隆盛について説明する。
12	ビジネスホテル業界の動向	ビジネスホテル業界の動向について説明する。
13	観光業の人手不足	観光業の人手不足について説明する。
14	観光業の将来とインバウンド戦略	観光業の将来とインバウンド戦略について説明する。

科目コード	T230304				区 分	コア			
授業科目名	サービスビジネス実務論 I				担当者名	都築 智津子			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ホスピタリティを軸にサービスビジネス全般の基礎を押さえる。ダル実務を基礎から体系的に学ぶ。前半では、サービスの特徴、体験価値、ホスピタリティ、サービス品質、期待と満足の関係を身近な例で理解する。後半では、ブライダルの実務の基礎を体系的に学ぶ。中間チェックテストと最終テストにより理解を段階的に確認し、授業ではロールプレイ、グループワーク、ピア・ラーニング等のインタラクティブな学習を通じて知識の定着を図る。

<授業の到達目標>

- ・サービス業界の特徴を理解し説明できる
- ・サービス業界におけるホスピタリティ／品質／期待-満足の関係を説明できる
- ・ブライダルの顧客対応プロセス（問合せ→打合せ→当日→事後）を説明できる
- ・ブライダルにおける関係部門の役割と連携場面を説明できる
- ・ピアラーニングで要点整理・相互FB・協働解決ができる

<授業の方法>

1. 出席確認と前回の振り返り（10分）
2. 講義（40分）
3. ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（40分）
4. 意見交換/まとめ（10分）

※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。

※履修者の理解度を勘案して、授業の順序や内容は変更になることがあります。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ・グループディスカッションを通して、ブライダルの基本的な流れや最新トレンドについて多様な視点から意見交換を行い、理解を深める。
- ・ロールプレイを用いて、接客場面や簡単な進行場面を体験し、コミュニケーションの取り方や進行の工夫に気づく。
- ・小グループでのワークを通じて、サービス業界全般、及びブライダルの流れの整理を行い、学生同士でのフィードバックも行うことで相互学習を促進する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 予習（20～30分）

次回テーマに関わる自身のサービス体験や事例を考え、気づいた点を簡単にメモしておく。必要に応じて配布資料に目を通し、主要用語（サービスの特徴、ホスピタリティ、婚礼プロセス、担当部門名、演出名など）を確認する

2. 復習（20～30分）

授業で扱ったキーワードや要点をノート1ページ程度にまとめ、授業内のピアラーニング（個人メモ→ペア→小グループ→ミニ発表）で得た気づきや、ロールプレイ・ワークでの改善点を一つ書き加えて振り返る

3. 中間・期末前の学習

主要用語・概念を一覧で復習し、授業内ワークやミニテストを見直して理解が曖昧な箇所を数点整理する

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間テスト 30%、最終テスト 40%、授業態度 30%

<教科書>

なし

<参考書>

近藤 隆雄（2007年12月1日） サービス・マネジメント入門 ―ものづくりから価値づくりの視点へ（第3版） 日本生産性本部

内藤 耕（2010年4月25日） 「事例でよくわかる！ サービス産業生産性向上入門」 日刊工業新聞社

公益社団法人日本ブライダル文化振興協会（2026年3月1日） ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード（第6版） 公益社団法人日本ブライダル文化振興協会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション/サービスビジネス	・授業の目的・評価・進め方を共有する

	についての理解①	・サービスとは何か（定義・特性・価値）について理解する ・最近のサービス体験を振り返り、「価値を感じた瞬間」を言語化する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
2	サービス業界の構造・市場規模・職種	・サービス業界の構造を理解する ・サービス業界の市場規模と主要業界について理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
3	飲食業界・小売業界のサービスモデル	・飲食業界のサービスモデルについて理解する ・小売業界のサービスモデルについて理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
4	旅行業界・交通業界のサービスモデル	・旅行業界のサービスモデルについて理解する ・交通業界のサービスモデルについて理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
5	エンターテインメント業界のサービスモデル	・エンターテインメント業界のサービスモデルについて理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
6	医療業界・福祉業界・教育業界・金融業界のサービスモデル	・医療業界のサービスモデルについて理解する ・福祉業界のサービスモデルについて理解する ・教育業界のサービスモデルについて理解する ・金融業界のサービスモデルについて理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
7	ホテル業の実務とサービスモデル①	・ホテル業界の特性と特徴を理解する ・ホテル業界の分類と特徴を理解する ・ホテル業界のサービス価値とそれを支える見えない仕組みを把握する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
8	前半の振り返り／ホテル業の実務とサービスモデル②	・前半の振り返り ・ホテルの組織構造を理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
9	中間テスト／ホテル業の実務とサービスモデル③	・中間テストと振り返り ・ホテルの収益構造を理解する ・ホテルの経営・運営形態、ホテルチェーンについて理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
10	ブライダルビジネスの概要	・ブライダルビジネスの特徴を理解する ・日本におけるブライダルの歴史を把握する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
11	ブライダルビジネスの営業とマーケティング	・ブライダルにおける集客・マーケティングを理解する ・顧客ニーズのつかみ方を理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
12	ブライダルの打合せ・準備プロセスの基礎	・打合せプロセスを理解する ・ブライダルにおける部門連携を把握する ・ブライダルにおける顧客心理の変化を理解する ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク（次回発表）、個人ワーク（次回までの課題）
13	ブライダルのトラブル対応と進行演習／全体の振り返り	・トラブルの構造を理解する ・典型トラブル事例の把握 ・ブライダルの台本読み取りワーク ・（ピアラーニング／グループワーク） グループワーク
14	総まとめテストと振り返り	・総まとめテスト・振り返り

科目コード	T230313				区 分	専門基礎			
授業科目名	エアライン・サービス論				担当者名	馬場 哲也			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、エアライン産業の構造と実務を体系的に学びます。

国際線エアラインのサービスを軸に、基本的なサービスを概観します。エアライン業界の経営特性やサービス特性、各職種の業務を学ぶことでエアラインがどのような役割、サービスを提供しているのかを学修します。また、世界の主要国の文化や慣習について、日本との接点や相違点を考察し、異文化理解を深めることを通じて国際感覚を養っていきます。

<授業の到達目標>

- (1) エアラインのサービスについて基本的な知識を修得する。
- (2) エアラインのサービスについて適切な手段によって適切に表現することができる。

<授業の方法>

1. 出席確認と前回の振り返り (15分)
2. 講義 (60分)
3. ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション (15分)
4. 意見交換/まとめ (10分)

※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ・事例を通じて接客や顧客対応を学修し、実践的なスキルを身につける。
- ・グループディスカッションを行い、多様な視点からエアライン・サービスを考える。
- ・学生同士でフィードバックを行い、相互に学びを深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- ・予習：次の授業内容に関連する資料を読み、基本的な用語や概念を理解する（30分程度）。
- ・復習：授業で学んだ内容を振り返り、ノートを整理する。またディスカッションの振り返りを行い、改善点を考える（30分程度）。
- ・追加課題：必要に応じて、授業で取り上げたテーマについて自身の経験と結びつけて考え、簡単なレポートを作成する（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。

DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

DP 4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末テスト 40%、中間テスト 30%、授業態度 30%で総合評価します。

<教科書>

なし

<参考書>

稲本恵子編（2022年4月） エアライン・ビジネス入門（第2版） 晃洋書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション シラバス説明	授業の内容、進め方を説明します。エアライン・ネットワークの基礎となる世界地理を概観します。
2	日本における主要エアライン	日本の主要エアラインの事業領域を整理し、理解を深めます。
3	エアラインのクラス別サービスの事例	国内線、国際線のクラス別仕様、サービスの比較分析を行います。
4	国内線空港での搭乗プロセス	国内線旅客の搭乗手続きと動線、空港職員の機能と役割を学びます。
5	国際線空港での搭乗プロセス	国際線旅客の搭乗手続きと動線、空港職員の機能と役割を学びます。
6	日本と世界の主要な空港施設の現状	日本と世界の主要な空港における施設・機能を概観します。
7	空港の機能と業務	日本の空港で働く種々のスタッフの役割と具体的業務を学びます。
8	これまでの学びの整理（中間振り返り）	これまでの内容の復習、グループワーク「学びの共有」、中間のまとめ
9	グランドスタッフの業務	エアラインのグランドスタッフの具体的業務と求められる適性について学びます。
10	客室乗務員の業務（Cabin Attendant） ①	客室乗務員の基本的使命・役割と具体的業務について学びます。
11	客室乗務員の業務（Cabin Attendant） ②	国際線客室乗務員の役割と具体的業務について学びます。

12	機内食と世界の食文化	機内食の特徴と制約を学び、特別食を通じて異文化理解をし国際慣習を学びます。
13	LCCの特徴とサービス	格安航空会社の事業特性、サービス特性を学びます。
14	総まとめ	これまでの総まとめ

科目コード	T230401				区 分	専門基礎			
授業科目名	現代経営実践演習基礎Ⅰ [キャリア系]				担当者名	白田 佳子			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

予測不能な時代といわれている現代社会。社会には将来のキャリア形成に際してさまざまな「リスク」が内在している。よってこれらの「リスク」とどう向き合うかが重要です。さて将来直面する「リスク」とはどのような物でしょうか。就職してみたものの企業が倒産してしまうこともあるかもしれません。そのような不確実な未来について、どのように予見したら良いのでしょうか。本講義では、社会（企業）が直面する「リスク」についてその概念をしっかりと学ぶと共に、学生の皆さん自身の人生における「リスク」についても確認しその対応方法を学びます。

<授業の到達目標>

1. 「リスク」概念を学ぶ。リスクとは何かを学術的視点から学習する。
2. 将来のキャリア形成におけるリスクを確認し、対応方法を学ぶ。
3. 結果、リスクを受容するのではなく回避する手段を自ら考察し解決する能力を取得することが出来る。

<授業の方法>

基本は講義ですが、授業中には学生同士がグループを構成し自らの意見の述べ、課題（リスク）についてディスカッションを行います。また講義内ではさまざまな質問を投げかけますので積極的に自らの意見を述べて下さい。授業での発言数は、授業の評価点の加点となります。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義とアクティブ・アクティブラーニングの併用。講義ごとにパワーポイントで要点を説明します。なお、パワーポイントのコピーは配布しませんので、毎回自身でしっかりノートを取るようにしましょう。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習】シラバスを良く読んでおくこと

【復習】毎回の講義で、課題を出すので、出された課題について、復習も兼ねてメールにて提出を求めます。

皆さんから提出された課題の内容、また意見について、翌週の授業にてディスカッションを行ないます。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 授業への出席、および授業中における当方からの質問への積極的な発言を評価対象とする。発言に際しては、発言ごとにParticipation Cardを発行。カードの枚数に応じて成績への加点とする。
2. 試験は実施しない。一方毎講義の後に出す課題への提出を評価対象とする。評価基準は内容のみならず迅速な提出を評価基準とする。

<教科書>

白田佳子 AI技術による倒産予知モデル×企業格付け(2019/3/18) 税務経理協会

なし

なし

<参考書>

なし

なし

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダク ション	講義の概要説明、補講日の確認
2	社会とリスク	リスク形態、リスク概念を学習する：日本の失われた30年とは。実態を、確認する
3	キャリアライフとリスクマネジメント	キャリアライフに内在するリスクを確認する
4	社会の純粹リスクによる影響	キャリア形成において社会の純粹リスクがどのような影響をもたらすかについて議論する：純粹リスクとは？
5	社会の純粹リスクへの対応	キャリア形成における社会の純粹リスクへの対応（防備）について議論する
6	経済とリスク	キャリア形成における経済環境と投機的リスクとの関係について確認：企業の事例を分析する
7	企業とリスク	キャリア形成における企業が抱える投機的リスクについて：企業にかかわる情報を

8	経済とリスク（2）	収集分析 キャリア形成における社会経済が抱える投機的リスクについて議論：関心ある企業への影響は？
9	企業とリスク（2）	キャリア形成における企業が抱える投機的リスクについて（その2）：関心ある企業の情報を収集し分析
10	キャリア形成におけるリスクマネジメント：企業分類	業種によるリスク形態の違い：関心あるグループ（業種）を抽出する
11	キャリア形成におけるリスクマネジメント：必要情報の確認	グループワーク：グループ内での議論、方向性を確認。議論対象となる企業を特定し情報を収集する
12	キャリア形成におけるリスクマネジメント1：グループワーク	グループワーク：収集した企業情報をもとにグループ内で対象企業に内在するリスクと、その対応方法を議論する
13	キャリア形成におけるリスクマネジメント2：グループワーク	グループワーク：グループ内での議論をとりまとめ、リスクごとに対応方法を決定する
14	キャリア形成におけるリスクマネジメント：発表	グループワーク：グループ内でキャリア形成におけるリスクへの対応方法を含む最終議論をとりまとめる

科目コード	T230403				区 分	専門基礎			
授業 科目名	現代経営実践演習基礎Ⅲ				担当者名	白田 佳子			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演 習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、現代経営実践演習基礎I及び現代経営実践演習基礎II履修者を対象とし、将来の日本での就職に際し、日本の産業構造、また現在の日本企業の経済実態をグループワークにて議論し、結果を発表することを目的としています。1年次で学んだ「リスク概念」及び「企業の財務分析」を元にグループに別れ、産業別に日本企業の実態を分析し、その評価結果について発表を行ないます。発表に際しては、政府公表のマクロ情報、また産業グループの公表情報の詳細分析、さらにはグループを構成する企業の個別の財務分析を行ないます。なお、最終発表に際してはPower Point（パワーポイント）を使用して発表資料を作成し、プレゼンを行います。毎回PCを必ず持参すること。

<授業の到達目標>

1. マクロデータを収集し日本の経済状況を分析する
2. 分析対象とする産業（企業群）を抽出し、産業構造、シェア等を分析する
3. 選出した産業を構成する主たる企業の実態を個別に分析する（消費者対応なども含む）
4. マクロデータに個別企業情報を加味し、定性・定量の両面から日本企業の経済実態をグループごとに発表する

<授業の方法>

本講義では、数字を分析するだけでなく経済状況、産業実態、企業情報を政府や個別企業が公表する定性データを読み解き分析することで、日本経済の実態を把握できる能力を養うことを目的としている。講義と並行しながら、興味ある企業を選び出し、選んだ企業のデータの抽出、分析を行う。データの抽出方法などは授業において示す手順に従うことで問題なく対応可能である。最終的にはデータを使用しながら実際に企業の分析を行ないます。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義とアクティブ・アクティブラーニングの併用。産業分析及び企業は各人がPC上で行うアクティブラーニングとなる。また、最終発表はパワーポイントを使用して学生がグループ別に行う。

<準備学習等（予習・復習）※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習】シラバスを良く読んでおくこと。パワーポイントの使用方を事前学習しておくことが望ましい。

【復習】経済データ抽出方法について、当該授業日におこなった作業については、しっかりと復習をしておくことが好ましい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
DP3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 産業分析結果について毎回の授業において各人に積極的な発言を求めます。
2. 試験は行いません。毎回の課題提出、およびグループプレゼンテーションにて評価します。

<教科書>

白田佳子 AI技術による倒産予知モデル×企業格付け(2019/3/18) 税務経理協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	講義の概要説明、授業時間の確認を行います。Power Pointによるプレゼンテーション方法を確認する。
2	プレゼンテーションスキル概要	Power Pointの具体的利用と社会データの確認：データ入手先等の確認を行う
3	利害関係者	企業をとりまく利害関係者と経済への影響：企業における利害関係者とは
4	経済環境	産業別我が国企業の位置づけの確認（産業データを入力）
5	経済環境2	産業別我が国企業の位置づけの確認（産業データを入力）
6	対象産業の抽出	グループごとに対象とする産業、および代表企業を公表データから抽出する
7	対象産業代表企業分析	グループごとに抽出した代表企業データを確認、企業ごとにデータ内容を比較する
8	対象産業代表企業のデータ分析2	グループごとに対象とする産業の代表企業にかかわる定性情報を分析する：HP及びEDINETなど開示情報
9	対象産業代表企業のデータ分析3	グループごとに対象とする産業の代表企業にかかわる定量情報の分析：EDINETにおける開示情報、社会情報など
10	代表企業に係わる報告書とりまとめ	グループごとに対象とする産業及び企業の内容のとりまとめを実施：定量・定性情

		報
11	分析結果の集計	グループごとに対象とする産業の内容と、同産業における企業比較を行いながらとりまとめを実施：定量・定性情報
12	分析結果の最終報告書作成	グループごとに対象とする産業の内容を、構成する企業の比較を用いて取りまとめPower Pointによるプレゼンテーションを作成する
13	分析結果の発表	グループワーク：Power Pointで最終発表内容を発表する
14	分析結果の発表と質疑応答	グループワーク：発表内容に関する質疑応答、ディスカッションを行う

科目コード	T230404				区 分	コア科目			
授業科目名	フィールドワーク [前期集中]				担当者名	上田 隆穂			
配当年次	1年	配当学期	前期集中 (9月1日～5日)	単位数	1.00単位	授業方法	実技（演習も少しあり） 先着順でMax20名まで	卒業要件	選択：IPUスタッフは3名、外部スタッフ1名、その他の協力者が1名で実施する。能登町にも多くの協力者が存在。

<授業の概要>

学生のための現地実技自体は4泊5日であり、サイクリング1日半、ボランティア活動2日、最後の1日は能登町の被災地などの見学を実施。時期は、2026年9月1日から9月5日夕方まで。

能登空港に現地集合し、空港から輪島までマウンテンバイクで自転車走行を行う。そして到着・休憩後、その日に農作業体験を近隣の農場で行う。輪島の方々が指導に当たる。翌日9/2は、能登町真脇（縄文遺跡）まで約70kmをマウンテンバイクで走行する。サイクリングはここまでとする。

9/3から2日間は、20人程度の参加学生が、3つの班に分かれ、能登町の3つの地区に割り振られ、そこの集会所もしくは公民館で合宿し、地元住民との交流を兼ねたボランティア活動を行う。季節柄、お祭りの準備や清掃作業のボランティア活動の可能性が高い。学生は現地集合・現地解散であるため、交通費（飛行機代、早期であれば往復2.5万円）がかかり、また交通費を除き、宿泊費・食費などで4万円+αが経費としてかかる予定（時期がせまればはっきり定まる）。

<授業の到達目標>

美しく、豊かな自然の中において、楽しみつつ、サイクリングにより身体を鍛え、優しくも厳しくもある地元民とのふれあいを通じ、参加学生が感動や喜びを得ることで元気になり、ボランティア活動を通じて地域貢献を行い、地域住民との継続的な交流を望むようになることが目的である。

<授業の方法>

事前授業で、地元の能登定住機構の森氏からの能登町でのボランティア活動に関するお話をzoomで伺い、マウンテンバイクが準備できれば、走行訓練や、そしてパンク修理の実習を行う。この事前授業は1, 2回を考えている。

9/1～9/5：サイクリング、ボランティア活動の実習、9/5：夕方の飛行機までバスで被災地を巡り、被災地見学を行う。また帰京後適当な時期に、写真&レポートを記録として残すために1, 2回集まる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実習形式で実技を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前授業、そして事後の集まりで学習や報告書など記録の取りまとめを行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習姿勢、報告書作成・編集における貢献で評価を行う。

<教科書>

特になし。資料を配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	事前授業	第1あるいは第2クオーターで全員集合し、自己紹介実施。zoomで能登町の定住促進機構の森氏よりzoomでボランティア活動に関する講義をうける。
2	事前授業	第2クオーターのどこかで全員集合し、マウンテンバイクの自転車走行チェック、班分け、パンク時の修理訓練を実施。

3	9/1（火）集合・サイクリング・の農作業体験	午前中に石川県能登空港に全員集合。ミーティングの後、マウンテンバイクのチェックし、輪島へ3つの班に分けて出発する。輪島のルートインホテルに到着後、休憩。 そして輪島で、地元の方の指導により、農作業体験を実施。
4	翌日9/2（水）サイクリング	朝食をとり、9：00出発。自転車で輪島～時国～柳田～能登町ポーレポーレの70km程度を走行。極端に厳しい坂はないが、少々の坂はある。ポーレポーレという国民宿舎で自転車を清掃し、倉庫に返却し、レンタカーバスで国民宿舎「うしつ荘」へ移動し、宿泊。入浴・夕食・翌日からのボランティア活動に関するミーティングを実施する。
5	9/3（木）・9/4（金）自治体でのボランティア活動	参加学生は、3つの班に分かれ、能登町の3つの地区に割り振られ、そこの集会所もしくは公民館で合宿し、地元住民との交流を兼ねたボランティア活動を行う。ただし、地域住民は奉仕のみされることに倦んでいる気配があり、表現として「お手伝い」とするのが良い。作業内容は、時節柄、祭礼の準備、掃除、草むしり等であるらしい。 IPUスタッフのみ「うしつ荘」で宿泊し、学生は3つの地域でお世話になる。スタッフは2日間地区をまわりボランティア活動に参加。
6	9/5（土）被災地等見学	朝、学生をピックアップし、能登の珠洲・輪島方面の被災度が大きな地域を、レンタカーバスで見学。夕方のANA帰京便（16:50発）に間に合うよう空港に戻り、空港で解散式を実施。
7	事後授業	この授業の記録を残すために、報告書を作成するために集まる。可能ならば、DVDの形で記録を残しておく。編集作業をしてもらう予定。 （この作業も採点対象となる）
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

科目コード	T230405				区 分	コア			
授業 科目名	海外研修 I				担当者名	古賀 敢人／國井 裕			
配当年次	1年	配当学期	6月、9 月、12 月	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

渡航先の国の文化や言語について学びます。

<授業の到達目標>

渡航先において、自ら考えて行動し、英語を中心とした言語を用いて現地の人とコミュニケーションを取ることができる。

<授業の方法>

本授業は、事前学習、海外での研修活動、事後の振り返り学習を組み合わせる。事前授業では、研修先の国・地域の文化、社会、産業等についての講義やディスカッションを行い、現地での学習に向けた準備を行う。

現地研修では、大学訪問、企業訪問、文化施設の見学、交流活動等を通して、実践的な国際理解および異文化理解を深める。また、研修中は観察・記録・ディスカッションを行い、学びを整理する。

さらに、ICT（Google Classroom等）を活用し、資料配布、課題提出、情報共有を行う。研修終了後にはレポート作成や発表を通して学習成果をまとめ、経験を振り返る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループになったの入学審査のシミュレーション、買い物シミュレーション、現地学生との交流練習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（約120分）

研修先の国・地域の歴史、文化、社会、産業等について事前に調査を行い、訪問予定の大学・企業・施設に関する基本情報を確認する。また、現地でのコミュニケーションを円滑に行うため、基本的な英語表現や専門用語を学習する。加えて、Google Classroom等に掲載された事前資料や動画を確認し、研修の目的や訪問先について理解を深める。

事後学習（約60分）

研修中に得た知識や経験を整理し、レポート作成や発表準備を行う。現地で学んだ内容について振り返りを行い、国際理解および異文化理解の視点から自らの学びをまとめる。

合計：約180分（3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、コミュニケーションスキル、言語応用力を鑑みて総合評価します。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	海外研修の目的、授業の進め方、評価方法、研修全体のスケジュールを説明する。
2	研修先国の概要	研修先国の地理、人口、政治体制、経済状況などの基本情報を学ぶ。
3	歴史的背景	研修先国の歴史と社会形成の過程を理解する。
4	文化と社会	現地の生活文化、社会習慣、価値観について学ぶ。
5	宗教と社会	宗教が社会や文化に与える影響について理解する。
6	国際ビジネス環境	研修先国の産業構造とビジネス環境を学ぶ。
7	観光産業の特徴	研修先国の観光産業と地域経済の関係について理解する。
8	異文化コミュニケーション	異文化環境でのコミュニケーション方法やマナーを学ぶ。
9	海外での安全管理	海外渡航時の危機管理、安全対策、トラブル対応を学ぶ。
10	調査テーマ設定	研修中に行うフィールドワークのテーマを設定する。
11	フィールドワーク方法	現地調査の方法、観察・記録の方法について学ぶ。
12	インタビュー技法	現地でのインタビュー方法や質問の作り方を学ぶ。
13	調査計画作成	グループごとに調査計画を作成する。
14	事前研究	研修テーマに関する文献調査を行う。

科目コード	T230406				区 分	選択			
授業 科目名	資格検定対策 I (語学系)				担当者名	Everett Ofori			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

English Through Performance

Overview

This course explores English language learning through performance-based activities. Students develop fluency, pronunciation, expressive communication, and cultural awareness by engaging in poetry recitation, spoken word, short dramatic performances, public speaking, and creative writing. The course encourages learners to use English in imaginative, authentic contexts, fostering confidence in both personal expression and professional communication. Students will work individually and collaboratively to interpret texts, create performances, and deliver spoken content in English. By connecting language to performance, the course emphasizes active speaking, listening, and expressive writing, while providing opportunities for improvisation and audience engagement.

<授業の到達目標>

By the end of the course, students will:

1. Demonstrate improved spoken English fluency and pronunciation through performance.
2. Develop the ability to interpret and adapt texts for various performance contexts.
3. Enhance creative writing skills, including poetry, dialogue, and short scripts.
4. Build confidence in public speaking and persuasive communication.
5. Collaborate effectively in groups to produce spoken-word, theatrical, or activism-based performances.
6. Understand and apply cultural and rhetorical context in English performance.

<授業の方法>

Method of Instruction

Instructor Modeling: Demonstrates performance techniques and reads examples.

Guided Practice: Students rehearse individually or in pairs with brief instructor feedback.

Role-Play & Performance: Students perform prepared or improvised pieces using learned language.

Peer Feedback: Quick peer comments on clarity, expression, and English usage.

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

Class Engagement

Active Speaking: Students perform, improvise, or respond to prompts each class.

Collaboration: Pair or group work on scripts, poems, or short scenes.

Reflection: Short self-assessment or peer feedback after performances.

Audience Participation: Students alternate between performing and observing to learn from peers.

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Time Needed for Preparation

- Individual preparation: 30–60 minutes per class for memorization, rehearsals, and writing drafts.
- Group preparation: 1–2 hours per week for collaborative performances or peer feedback.
- Homework / independent study: Additional 30–45 minutes for reflection, revisions, or research performance techniques.

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。

と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Class participation: 40%

Final performance: 60%

<教科書>

The professor will provide all materials.

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Theme: Introduction to Performance English	Content: • Grammar/Vocabulary: Basic expressions for self-introduction, greetings, and

		audience engagement. • Speaking/Performance: Short self-introduction speeches; practice voice projection, pacing, and pronunciation. • Writing/Creative Task: Write a 2-minute personal introduction script. • Active Learning: Peer feedback on clarity, body language, and engagement. Content: • Grammar/Vocabulary: Emotive adjectives, descriptive verbs, figurative language.
2	Theme: Spoken Word Fundamentals	• Speaking/Performance: Recite short spoken word pieces; focus on rhythm and stress. • Writing/Creative Task: Compose a 4-line spoken word poem about a personal experience. • Active Learning: Perform in pairs; provide feedback on expression and clarity. Content: • Grammar/Vocabulary: Concise descriptive language, sensory words, present tense verbs.
3	Theme: Poetry and Haiku Revival	• Speaking/Performance: Read and interpret classic and contemporary haikus. • Writing/Creative Task: Create 3 original haikus; emphasize imagery and rhythm. • Active Learning: Peer readings and discussion on imagery and impact. Content: • Grammar/Vocabulary: Past tense verbs, narrative connectors (first, then, finally).
4	Theme: Storytelling through One-Act Plays	• Speaking/Performance: Read and perform short scenes; focus on character voice and emotion. • Writing/Creative Task: Draft a 1-minute scene for two characters. • Active Learning: Partner improvisation; practice reacting to unexpected dialogue. Content: • Grammar/Vocabulary: Modals for suggestions and requests (can, should, must).
5	Theme: Voice, Expression, and Projection	• Speaking/Performance: Exercises in tone, volume, and emphasis. • Writing/Creative Task: Script 3 lines expressing different emotions (anger, joy, sadness). • Active Learning: Perform lines in small groups; classmates guess the intended emotion. Content: • Grammar/Vocabulary: Persuasive language: "We must...", "I believe...", "It is important that..."
6	Theme: Performance for Persuasion (Activism & Advocacy)	• Speaking/Performance: Deliver a 1-minute persuasive speech on a social issue. • Writing/Creative Task: Outline arguments supporting your viewpoint. • Active Learning: Peer discussion and debate; practice responding spontaneously. Content: • Grammar/Vocabulary: Formal expressions, conditionals, and reporting phrases.
7	Theme: Corporate Spokesperson Skills	• Speaking/Performance: Present a company announcement or product pitch. • Writing/Creative Task: Script a 2-minute corporate message. • Active Learning: Mock press conferences with classmates as reporters; answer impromptu questions. Content: • Grammar/Vocabulary: Question forms, exclamations, and conversational connectors.
8	Theme: Improvisation and On-the-Spot Performance	• Speaking/Performance: Improv games and dialogues based on given prompts. • Writing/Creative Task: Prepare 2 improvisation prompts for classmates. • Active Learning: Perform in small groups; respond spontaneously to prompts. Content: • Grammar/Vocabulary: Descriptive adjectives, adverbs, and figurative language.
9	Theme: Emotion and Storytelling	• Speaking/Performance: Perform short emotional monologues; focus on body language. • Writing/Creative Task: Draft a 2-minute monologue reflecting a personal or fictional story. • Active Learning: Peer feedback on clarity, emotional delivery, and engagement. Content:
10	Week 10 Theme: Cultural Expression	Content:

	Through Performance	• Grammar/Vocabulary: Past tense, narrative transitions, and culturally specific vocabulary • Speaking/Performance: Share a traditional story, folk tale, or cultural anecdote in English. • Writing/Creative Task: Adapt a short cultural story into a performance script. • Active Learning: Small group presentations; discuss differences in interpretation. Content:
11	Theme: Humor and Satire in English	• Grammar/Vocabulary: Puns, idiomatic expressions, rhetorical questions. • Speaking/Performance: Perform a comedic sketch or satirical monologue. • Writing/Creative Task: Write a short humorous dialogue or sketch. • Active Learning: Peer performance and critique; identify effective humor techniques. Content:
12	Theme: Integrating Music, Rhythm, and Speech	• Grammar/Vocabulary: Repetition for emphasis, rhyme patterns, parallel structures. • Speaking/Performance: Spoken word or rap with rhythmic delivery. • Writing/Creative Task: Compose a short verse integrating rhythm and rhyme. • Active Learning: Perform in pairs or small groups; focus on timing, stress, and flow. Content:
13	Theme: Advanced Improvisation and Dialogue	• Grammar/Vocabulary: Conditionals, hypothetical situations, persuasive and descriptive phrases. • Speaking/Performance: Improv dialogues based on audience prompts. • Writing/Creative Task: Prepare optional cue cards with vocabulary for performance. • Active Learning: Class-wide improvisation exercises; spontaneous Q&A. Content:
14	Theme: Final Showcase and Reflection	• Grammar/Vocabulary: Review and integrate past, present, and future tense in performance. • Speaking/Performance: Present a 3–5 minute performance piece combining learned skills. • Writing/Creative Task: Reflective journal summarizing personal growth, skills acquired, and future and goals. • Active Learning: Peer and instructor feedback; public showcase for invited audience if possible.

科目コード	T230410				区 分	コア科目 キャリア形成			
授業科目名	資格検定対策Ⅴ(ICTスキル系)				担当者名	吉澤 陽介			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代の社会では様々な業種・職種において、効率的な業務運用、成果報告の手段としてのコンピュータ利用は今や必須のスキルである。本科目ではコンピュータリテラシーⅠおよびⅡで修得した知識を活かし、コンピュータ操作の習熟度を高めるとともに、Word、Excel等のアプリケーションを効果的に使いこなす技法を身につけることを目的に、Microsoft社が提供・実施するOfficeアプリケーションの資格検定試験MOS（Microsoft Office Specialist）の資格取得を目指すとともに、その応用として位置付けられる基本情報技術者試験、およびデザインの基本となる検定試験についても触れる。

<授業の到達目標>

資格試験対策勉強を通じて、基本情報技術者試験のためのICT技術の本質を理解し、情報系資格、デザイン系の検定試験、MOS検定MOS試験未受験者、上級試験に合格するための力を身につける。

<授業の方法>

情報基礎としてICTの基本を講義と演習を実施し、基本情報処理技術者試験の基礎力を養う。MOS検定のうち、Word、Excelを受験対象科目として演習を行う。それぞれの試験の出題範囲の各テーマごとに問題演習で理解度をチェックする。オンデマンド教材を活用しながら、模擬練習問題を各自で実施して理解度を高める。合格するための勉強方法についても適宜解説する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

演習中心だが、アクティブ・ラーニングの要素は適宜入れていく。具体的にはペアワークや製作物の相互レビューを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- ・事前学習：授業予定の教科書範囲について、自分で問題を解く（1時間程度）。
- ・事後学習：授業で学んだ範囲を復習し、模擬練習問題を繰り返し行う（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、
 DP 2 経済・経営及び国際ビジネス分野における専門的な知識・技能を修得できる。
 DP 3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
 と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題演習の提出 40%、模擬試験問題の達成状況 60%で評価する。

<教科書>

富士通エフ・オー・エム MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集 FOM出版
 富士通エフ・オー・エム MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集 FOM出版
 教員が適宜配布、情報処理基礎

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義概要
2	情報基礎（1）	2進数 10進数 16進数 コード表現
3	情報基礎（2）	ASCIIコード, JISコード 論理演算, 真理値とブール代数
4	情報基礎（3）	キャラクターユーザインターフェース
5	情報基礎（4）	グラフィカルユーザインターフェース
6	情報基礎（5）	色情報の表現と2進数 ネットワークケーブルの構造 ネットワークケーブル作りとテスト
7	情報基礎（6）	文字コードと情報通信 文字コード（ASCII, SJIS, 他）とプログラミング CR+LF
8	情報基礎（7）	ソフトウェア設計法 プログラミングの基本構造 各種チャート
9	資格試験対策演習（1）	受験項目に合わせて、選択性でオンデマンド教材を使用する。

10	資格試験対策演習（2）	Word, Excelの出題範囲と模擬試験 基本情報技術者試験の模擬試験, デザイン系模擬試験 受験項目に合わせて, 選択性でオンデマンド教材を使用する. Word, Excelの出題範囲と模擬試験 基本情報技術者試験の模擬試験, デザイン系模擬試験
11	資格試験対策演習（3）	受験項目に合わせて, 選択性でオンデマンド教材を使用する. Word, Excelの出題範囲と模擬試験 基本情報技術者試験の模擬試験, デザイン系模擬試験
12	資格試験対策演習（4）	受験項目に合わせて, 選択性でオンデマンド教材を使用する. Word, Excelの出題範囲と模擬試験 基本情報技術者試験の模擬試験, デザイン系模擬試験
13	資格試験対策演習（5）	受験項目に合わせて, 選択性でオンデマンド教材を使用する. Word, Excelの出題範囲と模擬試験 基本情報技術者試験, デザイン系の模擬試験
14	まとめ	「基本情報技術者試験」と「デザイン系検定」の攻略ポイント, 「MOS」検定試験Word・Excelの出題の確認と攻略ポイント

科目コード	T230411				区 分	コア			
授業科目名	インターンシップ(企業) I [認定科目]				担当者名	馬場 哲也			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義 演習 実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、企業・団体等での就業体験を通じて、専門知識の実践的応用力と職業観を養成する科目である。事前学習・実習・事後振り返りを一体化させ、キャリア形成および社会人基礎力の向上を目的とする。

観光・サービス産業、一般企業等を実習先とする。

1. 大学が主導的に行うインターンシップ
要件として原則、前年度からの出席率85%以上、GPA2.5以上、日本語能力検定試験N2相当以上とする。
授業の登録、講義出席が必要。
2. 学生が主体的に取り組むインターンシップ
授業の登録、講義出席、決定したインターンシップ先を大学へ事前届出を提出。

<授業の到達目標>

本授業の修了時に、学生は以下を達成できる。

1. 職場における基本的なビジネスマナーを実践できる。
2. 組織の役割分担と業務プロセスを説明できる。
3. 自身の専門分野と実務の関連性を分析できる。
4. 自己の課題を明確化し、今後の学修計画に反映できる。

<授業の方法>

1. 事前指導（講義・ワークショップ）
2. 企業・団体での実習（5日間以上～10日間程度。またはリゾートホテル等においては約1か月間）
3. 日報提出
4. 事後報告会（プレゼンテーション）
5. 個別面談による振り返り講義 演習 実習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：実習先研究（企業分析レポート提出）

事後：振り返りレポート

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー(DP)のうち、
DP3 修得した知識・技能を活用し、国内外の経済・経営に関する課題解決を図ることができる。
DP4 地域社会及び国内外の産業界の課題を見出し、協働を通して持続可能な社会の実現に参画できる。
と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

認定の有無

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（目的・評価方法説明）	
2	インターンシップの意義と心構え	
3	ビジネスマナー講習	
4	実習先エントリー 実習計画作成	
5	実習期間	
6	実習期間	
7	実習期間	
8	実習期間	
9	実習期間	
10	実習期間	
11	実習期間	
12	実習期間	

13	実習報告書作成	
14	成果発表準備	
	成果発表会	

科目コード	T230419				区 分	コア			
授業科目名	海外研修Ⅱ				担当者名	古賀 敢人／國井 裕			
配当年次		配当学期	6月、9月、12月	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

渡航先の国の文化や言語について学びます。

<授業の到達目標>

渡航先において、自ら考えて行動し、英語を中心とした言語を用いて現地の人とコミュニケーションを取ることができる。

<授業の方法>

本授業は、事前学習、海外での研修活動、事後の振り返り学習を組み合わせる。事前授業では、研修先の国・地域の文化、社会、産業等についての講義やディスカッションを行い、現地での学習に向けた準備を行う。現地研修では、大学訪問、企業訪問、文化施設の見学、交流活動等を通して、実践的な国際理解および異文化理解を深める。また、研修中は観察・記録・ディスカッションを行い、学びを整理する。さらに、ICT（Google Classroom等）を活用し、資料配布、課題提出、情報共有を行う。研修終了後にはレポート作成や発表を通して学習成果をまとめ、経験を振り返る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループになったの入学審査のシミュレーション、買い物シミュレーション、現地学生との交流練習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（約120分）

研修先の国・地域の歴史、文化、社会、産業等について事前に調査を行い、訪問予定の大学・企業・施設に関する基本情報を確認する。また、現地でのコミュニケーションを円滑に行うため、基本的な英語表現や専門用語を学習する。加えて、Google Classroom等に掲載された事前資料や動画を確認し、研修の目的や訪問先について理解を深める。

事後学習（約60分）

研修中に得た知識や経験を整理し、レポート作成や発表準備を行う。現地で学んだ内容について振り返りを行い、国際理解および異文化理解の視点から自らの学びをまとめる。

合計：約180分（3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、コミュニケーションスキル、言語応用力を鑑みて総合評価します。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	海外研修の目的、授業の進め方、評価方法、研修全体のスケジュールを説明する。
2	研修先国の概要	研修先国の地理、人口、政治体制、経済状況などの基本情報を学ぶ。
3	歴史的背景	研修先国の歴史と社会形成の過程を理解する。
4	文化と社会	現地の生活文化、社会習慣、価値観について学ぶ。
5	宗教と社会	宗教が社会や文化に与える影響について理解する。
6	国際ビジネス環境	研修先国の産業構造とビジネス環境を学ぶ。
7	観光産業の特徴	研修先国の観光産業と地域経済の関係について理解する。
8	異文化コミュニケーション	異文化環境でのコミュニケーション方法やマナーを学ぶ。
9	海外での安全管理	海外渡航時の危機管理、安全対策、トラブル対応を学ぶ。
10	調査テーマ設定	研修中に行うフィールドワークのテーマを設定する。
11	フィールドワーク方法	現地調査の方法、観察・記録の方法について学ぶ。
12	インタビュー技法	現地でのインタビュー方法や質問の作り方を学ぶ。
13	調査計画作成	グループごとに調査計画を作成する。
14	事前研究	研修テーマに関する文献調査を行う。

科目コード	T230420				区 分	コア			
授業 科目名	海外研修Ⅲ				担当者名	古賀 敢人／國井 裕			
配当年次		配当学期	6月、9 月、12 月	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

渡航先の国の文化や言語について学びます。

<授業の到達目標>

渡航先において、自ら考えて行動し、英語を中心とした言語を用いて現地の人とコミュニケーションを取ることができる。

<授業の方法>

本授業は、事前学習、海外での研修活動、事後の振り返り学習を組み合わせる。事前授業では、研修先の国・地域の文化、社会、産業等についての講義やディスカッションを行い、現地での学習に向けた準備を行う。

現地研修では、大学訪問、企業訪問、文化施設の見学、交流活動等を通して、実践的な国際理解および異文化理解を深める。また、研修中は観察・記録・ディスカッションを行い、学びを整理する。

さらに、ICT（Google Classroom等）を活用し、資料配布、課題提出、情報共有を行う。研修終了後にはレポート作成や発表を通して学習成果をまとめ、経験を振り返る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループになったの入学審査のシミュレーション、買い物シミュレーション、現地学生との交流練習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（約120分）

研修先の国・地域の歴史、文化、社会、産業等について事前に調査を行い、訪問予定の大学・企業・施設に関する基本情報を確認する。また、現地でのコミュニケーションを円滑に行うため、基本的な英語表現や専門用語を学習する。加えて、Google Classroom等に掲載された事前資料や動画を確認し、研修の目的や訪問先について理解を深める。

事後学習（約60分）

研修中に得た知識や経験を整理し、レポート作成や発表準備を行う。現地で学んだ内容について振り返りを行い、国際理解および異文化理解の視点から自らの学びをまとめる。

合計：約180分（3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、コミュニケーションスキル、言語応用力を鑑みて総合評価します。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	海外研修の目的、授業の進め方、評価方法、研修全体のスケジュールを説明する。
2	研修先国の概要	研修先国の地理、人口、政治体制、経済状況などの基本情報を学ぶ。
3	歴史的背景	研修先国の歴史と社会形成の過程を理解する。
4	文化と社会	現地の生活文化、社会習慣、価値観について学ぶ。
5	宗教と社会	宗教が社会や文化に与える影響について理解する。
6	国際ビジネス環境	研修先国の産業構造とビジネス環境を学ぶ。
7	観光産業の特徴	研修先国の観光産業と地域経済の関係について理解する。
8	異文化コミュニケーション	異文化環境でのコミュニケーション方法やマナーを学ぶ。
9	海外での安全管理	海外渡航時の危機管理、安全対策、トラブル対応を学ぶ。
10	調査テーマ設定	研修中に行うフィールドワークのテーマを設定する。
11	フィールドワーク方法	現地調査の方法、観察・記録の方法について学ぶ。
12	インタビュー技法	現地でのインタビュー方法や質問の作り方を学ぶ。
13	調査計画作成	グループごとに調査計画を作成する。
14	事前研究	研修テーマに関する文献調査を行う。

科目コード	T230421				区 分	コア			
授業科目名	海外研修IV				担当者名	古賀 敢人／國井 裕			
配当年次		配当学期	6月、9月、12月	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

渡航先の国の文化や言語について学びます。

<授業の到達目標>

渡航先において、自ら考えて行動し、英語を中心とした言語を用いて現地の人とコミュニケーションを取ることができる。

<授業の方法>

本授業は、事前学習、海外での研修活動、事後の振り返り学習を組み合わせる。事前授業では、研修先の国・地域の文化、社会、産業等についての講義やディスカッションを行い、現地での学習に向けた準備を行う。

現地研修では、大学訪問、企業訪問、文化施設の見学、交流活動等を通して、実践的な国際理解および異文化理解を深める。また、研修中は観察・記録・ディスカッションを行い、学びを整理する。

さらに、ICT（Google Classroom等）を活用し、資料配布、課題提出、情報共有を行う。研修終了後にはレポート作成や発表を通して学習成果をまとめ、経験を振り返る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループになったの入学審査のシミュレーション、買い物シミュレーション、現地学生との交流練習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（約120分）

研修先の国・地域の歴史、文化、社会、産業等について事前に調査を行い、訪問予定の大学・企業・施設に関する基本情報を確認する。また、現地でのコミュニケーションを円滑に行うため、基本的な英語表現や専門用語を学習する。加えて、Google Classroom等に掲載された事前資料や動画を確認し、研修の目的や訪問先について理解を深める。

事後学習（約60分）

研修中に得た知識や経験を整理し、レポート作成や発表準備を行う。現地で学んだ内容について振り返りを行い、国際理解および異文化理解の視点から自らの学びをまとめる。

合計：約180分（3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー（DP）のうち、

DP 1 他者と関わり、感情を調整し、目標を達成できる。

DP 5 国際交流及び異文化理解を通して、多様な価値観を尊重し、地球市民として国際社会に貢献できる。と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、コミュニケーションスキル、言語応用力を鑑みて総合評価します。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	海外研修の目的、授業の進め方、評価方法、研修全体のスケジュールを説明する。
2	研修先国の概要	研修先国の地理、人口、政治体制、経済状況などの基本情報を学ぶ。
3	歴史的背景	研修先国の歴史と社会形成の過程を理解する。
4	文化と社会	現地の生活文化、社会習慣、価値観について学ぶ。
5	宗教と社会	宗教が社会や文化に与える影響について理解する。
6	国際ビジネス環境	研修先国の産業構造とビジネス環境を学ぶ。
7	観光産業の特徴	研修先国の観光産業と地域経済の関係について理解する。
8	異文化コミュニケーション	異文化環境でのコミュニケーション方法やマナーを学ぶ。
9	海外での安全管理	海外渡航時の危機管理、安全対策、トラブル対応を学ぶ。
10	調査テーマ設定	研修中に行うフィールドワークのテーマを設定する。
11	フィールドワーク方法	現地調査の方法、観察・記録の方法について学ぶ。
12	インタビュー技法	現地でのインタビュー方法や質問の作り方を学ぶ。
13	調査計画作成	グループごとに調査計画を作成する。
14	事前研究	研修テーマに関する文献調査を行う。